

2023年7月21日

藤沢市教育委員会教育長 様

藤沢市教科用図書採択審議委員会
委員長 瀧谷 典子

令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）

藤沢市教科用図書採択審議委員会（以下審議委員会という）では、令和6年度使用小学校用教科用図書、令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について、教育委員会の諮問に基づき、審議方針を定め、その方針の「基本的な考え方」にそって、3回にわたり審議してきました。

その結果を以下のとおり答申いたします。

1 令和6年度使用小学校用教科用図書についての審議結果について

別表のとおり

2 令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書についての審議結果について

このことについては、「子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択されている一般図書は発行者による供給が困難となった図書を除いて、引き続き使用できること」、「今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規図書や複数種目で希望がある一般図書はいずれも適切であること」と、考える。

なお、参考資料として、審議方針と第1回、第2回、第3回審議委員会の会議録を添付いたします。

別表

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会

議案

令和6年度使用小学校用教科用図書について

審議のまとめ

令和5年7月

藤沢市教科用図書採択審議委員会

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇国語

◇国語

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「国語」に係る観点
東京書籍	「言葉相談室」のページでは、具体的に設定された生活場面から語彙を増やせるように図られている。
教育出版	巻末にある「付録」の「情報のまとめ」「大事な言い方」などが充実し、児童が学習の振り返りや課題解決するのに役立つ工夫がなされている。
教育出版	趣意書に「日常生活に生きてはたらく言葉を養う」とあり、単元設定が工夫され、「言葉の文化」のページでは、古くから日本人の生活に根ざしている伝えていきたい言葉が集められ、語彙の幅を広げている。
光村図書出版	各単元の「見通しをもと」において、学習過程が示され、学習の見通しをもち、問いや対話が自然と生まれてくるようになっている。巻頭には新しく学ぶ内容と既習の内容が結びつけて示されていることで、無理なく新しい学びに向き合える工夫がなされている。
光村図書出版	巻末に「言葉の宝箱」というページがあり、とてもよくできている。「言葉の宝箱」は、文学教材を読み深めたり説明文をしっかりと読み取る学習をしたりする中で身につけた語彙と非常によくリンクしていて、繰り返し授業の中での活用が期待できる。低・中・高の系統性も意識されている。また、伝統的な言語文化に関わる語彙では、「季節の言葉」というページがあり、古来日本人が大事にしてきた季節感のある言葉が並んでいる。日本語のもつ美しい響きや心地よいリズムを体感する活動につながり、子どもたちの言葉に対するセンスが磨かれ、語彙が豊かになっていくことが期待できる。
光村図書出版	どの学年においても文学的文章や説明的文章は書き下ろしで読み応えのある題材を数多く設定している。文学的文章では、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」など、生命尊重や命の大切さについて扱った教材が掲載されている。文章を読んで考えを持ち、それを共有してまたさらに自分の考えを広げていくことで、他者を尊重し、思いやる力が育成できると思われる。また、「くじらぐも」「スイミー」「お手紙」「ごんぎつね」「やまなし」など親の代から長い間読み続けられている物語も多く、親子で同じ物語を共有でき、学習を話題に取り上げることができる利点も感じられる。
光村図書出版	6年生には、デジタル機器やスマートフォンの使い方などが掲載され、内容が良い題材が多い。「スイミー」を比較すると、東京書籍と教育出版が1年生、光村図書は2年生上で取り上げており、踏み込んだ内容や漢字習得の面から物語をより深く理解する上で、2年生で取り上げている光村図書がよいと感じた。
共通	3者とも、主体的、対話的で深い学びの実現に向け、子どもたちが見通しを持って学びが進められるよう工夫されている。
共通	3者とも、教科書を通じて子どもたちの言葉に関する学びを深めながら語彙を獲得していくため、それぞれの方針の工夫がなされている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	イラストや写真が大きく児童が興味を持って学習に取り組むことができる。また、大変やわらかい色合いでのイラストが使われており、色覚の多様性に配慮されているため、児童が集中して学習に取り組むことができる工夫がなされている。また、物語・説明文では、特定の行を見つけやすくするため、5行ごとの行数字の間にも点を示し、それらをつなげるドットが繊細で優しく、効果的な支援の配慮がなされている。
教育出版	行間が広く読みやすい。書体が見やすく、文字が捉えやすいと感じた。高学年が上下で分冊になっているのが良いと思った。
光村図書出版	文章の行間や文字の大きさが学年ごとに配慮されており、大変読みやすい工夫がなされている。イラストや写真、グラフなどの資料が多く、児童の興味関心が高まり、学ぶことへの印象が深まることで、学習内容の理解につながる感じた。また、学習のめあてごとに色分けされた表示となっており、共通にどの学年でも使われることで慣れ、児童にも何を身に付けるための学習を今しているのか視覚的にも理解でき継続的に取り組むことへの積み重ねの大切さを教師も実感することができる。
共通	教育出版は、全学年上下の分冊になっているので、子どもが持ち帰る場合は負担が少ないと思われる。東京書籍と光村図書出版は、5・6年生が年間1冊で、分冊になっていないので、重いというのは難点であるかもしれないが、高学年なので年間を見通した学習の意識ができるという利点もある。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
教育出版	付録ページの「〇年生で読みたい本」で、あらすじや本の表紙を載せており、わかりやすく子どもが興味を持てるような紹介がなされている。たとえば5年生では、環境や世界などのテーマに沿った本、詩、ファンタジーなど多岐にわたるジャンルの56冊もの本が紹介されている。こうして取り上げられることで、普段は読まないような本も手に取りやすくなり、子どもたちの読書の世界が広がっていくという期待が持てる。「ふじさわ子ども読書プラン2025～第4次藤沢市子ども読書活動推進計画」に基づいた、「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」の実現に適していると思われる。
光村図書出版	「言葉の宝箱」が設定されており、学習の中で役立つ言葉を紹介している。「季節の言葉」では、日本ならではの季節に関わる豊かな語彙を扱っており、子どもたちの語彙力が豊かになり、その後の言語活動でも大いに役立つことが期待できる。「この本、読もう」のコーナーでは、単元のねらいを踏まえ、学んだことを生かせるようにシリーズや作者の他作品、テーマに沿った内容の本が紹介されている。既習内容とつながる本の紹介をすることで、読書が苦手な児童でも取り組みやすく、また、読書好きな児童にはますます読書の楽しさが感じられるようになっており、主体的な学びへつながっていくと感じる。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇書写

◇書写

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「書写」に係る観点
東京書籍	鉛筆の持ち方では、ほぼ実寸大の写真が用いられ、教科書の上に実際に手を置いて書く姿勢をイメージできる作りになっている。また、左利きの児童の鉛筆の持ち方の写真もあり、細やかな配慮がある。
教育出版	3年生以上では、見開き1ページの中に毛筆の学習の流れが示されていて、次のページでは硬筆で書き込める設問が取り入れられている。硬筆から毛筆への移行がスムーズにできるように工夫されている。
光村図書出版	硬筆のスタートの1年生、毛筆のスタートの3年生の教科書で、鉛筆や筆を持つまでの準備や姿勢など、スムーズに書き始められるように構成されている。簡略化されたマークを使って、わかりやすく学習のポイントが示されているのもよい。さらに、主体的・対話的で深い学びにつながるように、整った文字を書くためにどうすれば良いのかを子どもに考えさせ、さらに指導者や友だちと対話する場面を設けている。併せて、相手に読みやすいように丁寧に字を書こうとする姿勢を育てる事にもつながると思われる。
共通	各者とも様々な工夫が見られる。例えば、文字を書く姿勢について、合言葉や体操などを使ってわかりやすく示すことで、定着を図っている。カリキュラムマネジメントの観点で見ると、他の教科等と関連する学習活動が設定されているところも高く評価できる。東京書籍では生活科の観察カードを、教育出版では理科の実験記録、光村図書出版では社会科で新聞やポスターを書くなど、各者とも子どもの日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫がされている。さらに低学年では、各者とも、楽しみながら繰り返して練習できるように、水書きシートが用意されている点も良い。
共通	各者とも教科横断的に他教科の中でもどのように学んだことを生かすかということが示されている。市の調査資料にも各教科との関連の工夫が示されており、東京書籍では、社会科の国調へのポスターの書き方の例、教育出版では校外学習のリーフレット作成の流れなどが紹介されている。特に光村図書では「書写広げたい」の単元で、硬筆の「横書きの書き方」や「リーフレットの書き方」「アルファベット」についても扱っていて、他教科や生活の中で学習したことが生かせるようになっている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
教育出版 光村図書出版	教育出版と光村図書出版は、見開きページを基本として、丁寧に説明を展開しているのも、児童にとってわかりやすく、意欲を持って毛筆学習取り組みると思われる。
光村図書出版	すっきりとした紙面構成で、シンプルに書写の約束を確認したあとで自分の名前を教科書に書くつくりとなっていて、児童の「書きたい」という思いを大切にしていると感じる。
共通	各者ともに各学年1冊で構成されている。色遣いについては、カラーユニバーサルデザインの観点から、どの児童にとっても見やすい配色やデザインに配慮されている。字体はユニバーサルデザインに配慮した読みやすいフォントで、学年に応じた見やすい字の大きさになっている。また、すべての学年で、良い姿勢と鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方について、写真とイラストを使って丁寧に説明しているため、いつでも文字を書く基本を確認できるようになっている。1年生については、書写の最初の授業で、どのように文字に出会うかで、今後の字を書く楽しさや喜びにつながる。その視点で教科書の表紙を開くと、いずれも、文字に興味・関心を持つような内容となっていた。
共通	構成について、どの教科書も学ぶべき知識や技能を系統的に配列するとともに、硬筆と毛筆を関連させて学習を進めるようになっている。毛筆の始まる3年生の教科書を見ると、書き方や筆圧など毛筆の学習に向けた導入が掲載されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
教育出版	4年書写では「文字の大きさと配列に気をつけて書こう」というめあてで「防災かるたを作ろう」という取り組みが紹介されている。4年生の社会科で地域の防災などを学ぶので、教科横断的に児童が興味を持ち、意欲的に取り組める課題である。
教育出版	本市は現在、外国につながる児童が増加している。5年の巻末には世界の「こんにちは」のつづりが、そして6年の巻頭には「知りたいな世界の書く」として英語のカリグラフィーやアラビア書道などが紹介されている。多様な世界文化に触れる機会が多い藤沢市の児童にはたいへん良い教材である。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇社会

◇社会

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「社会」に係る観点
東京書籍	市の調査資料にもあったとおり、問題解決的な学習を進めていくために、問題を「つかむ・調べる・まとめる・いかす」という構成にしてある。「まとめる」のページでは、学んだことを図や表を使い整理したり、様々な視点から考え話し合ったりできるようになっている。
教育出版 東京書籍	社会科は、小学校3年生から始まる教科で、2年生までの生活科との関連がある。教育出版は「生活科をふり返ろう」というコーナーで、生活科の代表的な学習場面を想起するページが設けてあり、接続を意識した構成となっている。東京書籍は、巻頭で生活科の既習事項の確認から、第3学年の学習内容を提示することで、これから始まる社会科学学習に意欲を持って取り組める工夫がなされている。
教育出版	教科書の随所に「学びのてびき」「次につなげよう」という欄が設けられており、学習内容を多面的、多角的に考えられるような工夫がなされている。
日本文教出版	「わたしたちの問題」「学習問題」として単元を貫く問いが示され、単元を通した追求や解決ができるようになっており、さらに単元の終わりに「さらに考えたい問題」を例示して学んだことを生かしながら追求する活動を促している。
共通	県の調査資料にもあるとおり、3者とも「学びに向かう力・人間性等の涵養」という点について、学習内容を生かして地域や社会の課題について考え話し合うなどの学習が組み込まれている。防災や環境に関する課題について、持続可能な開発目標(SDGs)と関連させながら、今日的な課題に関する意識を高め、話し合っていく学習が工夫されている。子どもたちが、これから成長して生きていく時代の困難さや、課題を解決していくために、自分たちはどうしたらよいか、ということを考える力の育成につながる。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	東京書籍は2分冊に構成されており、ランドセルが重いと感じる子どもの負担を軽減できると考えるが、社会科の特性上2冊に共通した内容を学習する際には、不便さを感じる場合があるかと思う。
教育出版	見開きページの始めに「この時間の問い」を設定し、児童が問題解決型学習に取り組みやすくなっており、終わりには「次につなげよう」を設定して、次時への問いへつながるようになっている。これにより、各単元の流れや連続性がつかみやすくなっている。
教育出版 日本文教出版	教育出版と日本文教出版は、どの学年も1冊にまとめている。各校の教育課程編成において、指導計画を立てる際に単元の順番を入れ替える可能性があることから、1冊になっているほうが対応しやすいと考える。
共通	視覚的効果が図られるように、写真や図、表などを適切に用いて、児童の学習への興味・関心や理解が深まるようにしている。また、学習内容ごとに本文や資料などが見開き2ページ程度でまとめられていて、わかりやすい。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
教育出版	3年生になって社会科が始まると、より具体的に自分たちの町について調べ、更に、県、国へと学びを広げていく。自分の住んでいる地域の理解を深め、気づいたり関心をもったり、愛着を持ったりすることが大切だと考えるが、そういった面では、教育出版の教科書には、神奈川県について書かれているページが大変多い。 例えば、3年生の「わたしたちのまちと市」では、横浜市のことがとりあげられていて、藤沢市の児童にもなじみのある、「よこはま動物園ズーラシア」や「東海道」のことに触れられたりしている。4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っていて、本市の児童がよく社会科見学で行く、「宮ヶ瀬ダム」や「寒川浄水場」などの記載もある。同じく4年生「昔から今へと続くまちづくり」では、小笠原東陽、「羽鳥村」や「耕耘塾」など、なじみの深い言葉も見られる。5年生の「日本の国土とわたしたちの暮らし」では、藤沢市の八ヶ岳野外体験教室のある、長野県南牧村が掲載されている。 自分たちの暮らしとつながりがある場所が教科書に載っているということは、児童が、より興味関心を持って、主体的に学ぶことができるのではないかと思う。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇地図

◇地図

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「地図」に係る観点
東京書籍	地図やグラフなどの資料とともにイラストが効果的に使われていて、子どもたちが情報を整理しやすくなっている。社会科で学習する内容とも関連づけ、4年間を通じて活用できる。特に、自然災害のページは使いやすいと思う。
東京書籍	方位のページで方位磁針の使い方についてとても詳しく書かれている。
東京書籍	3年生から使うと考えたときに、デジタルコンテンツの内容は少し難しい。
帝国書院	帝国書院は、「地図って何だろう」「地図のやくそく」などのコーナーで、方位や地図記号、距離の求め方なども分かりやすく図式され、また、広く見渡す地図など、全体的に情報を精選した分かりやすい地図になっている。初めて地図を使う3年生にとって学びやすい印象である。
帝国書院	初めて地図帳を手にする3年生の導入のページが秀逸で、とても分かりやすい。各学年の社会科の学習で資料として活用できるところも多く見受けられる。特に、調査員調査資料にもあるように、明治時代初期の地図が掲載されていて過去と現在を比較することができ、6年生が歴史の学習を深める資料として興味深く、期待がもてる。
帝国書院	方位のページで、自分の体を使って方位をあらわしているところが、すごく興味をもって、どっちが東か、そして、それがどうなっているのか、体を使って体感して、身近に感じて、学べる。
東京書籍 帝国書院	東京書籍には「マップでジャンプ」帝国書院には「地図マスターへの道」というコーナーがあり、子どもの興味関心を引きつけ、自ら調べようとする意欲の向上に効果的である。帝国書院の「地図マスターへの道」は学年ごとに学習課題が示されていて、発達段階に合わせて学習を行うことができると考える。
共通	それぞれが編修の基本方針をしっかりと反映して作られており、必要なことは網羅されている。
共通	学習指導要領の観点から、2者とも、児童が地図に興味を持ち、地図帳を使って主体的に学びを進めていきたくなるような工夫がそれぞれになされている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	地図の中の市街地や森林地帯などの色分けが4項目で、色味が少なめですっきり地図が見られる。
東京書籍	「空からまちを見てみよう」の斜め上から見たまちの様子と真上から見たまちの様子と地図のところはすごく細かくて、同じ地図だというイメージが少ししづらい。
帝国書院	この地図帳は、「広く見わたす地図」、「〇〇地方」、「世界」、「資料図」、「統計」という5つの項目ごとに色分けされている。また、さくいんについても、「赤太字」、「赤字」、「青字」、「緑字」、「黒字」と5つに色分けされていて、児童が調べたいことを、わかりやすく調べられる工夫がされている。さらに、統計についても、8地方ごとに色分けされていることはもちろんなんですが、「国土」、「農林水産業」、「工業」、「くらしと環境」、「おもな伝統工芸品と生産都市」の項目ごとにも色分けがされており、すっきりと見やすい印象を受ける。 全体的に、土地の高さ市街地、田畑など土地の使われ方などの色分けが非常に鮮明で、地形的な特色を捉えやすい印象がある。また、イラストや文字、主要道路、鉄道など、地図の中にはたくさんの情報が入っているが、それぞれが工夫を凝らして、認識しやすい感じがした。資料図の項目では、掲載内容を精選し、必要な情報がほぼ見開き1ページにまとまっているため、資料集としての役割もしっかりと果たすことができる。
帝国書院	色分けが、6項目に分かれていて、商業地帯なのか、住宅地なのかとか、ぱっと見て分かるので、ここはお店が多い場所とかイメージがしやすい。「広く見わたす地図」のページがあることで、3年生にとっては、ここにこれがあるということがより分かりやすい。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
帝国書院	自然災害と防災について解説するコーナーがあり、防災マップづくりの作り方が示され自分たちの住む場所に置き換えて防災マップを作成することができるため、作業や調べ学習を通じて防災意識の向上に大変効果的である。
帝国書院	「高地のくらし」のページに藤沢市の野外体験教室のある八ヶ岳の資料が載っている。5年生が毎年訪れる場所なので、児童は親しみをもって、また授業で活用できる。

議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」

観点別審議のまとめ

◇算数

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「算数」に係る観点
東京書籍	2年生からは各学年、算数マイノートというコーナーがあり、ノートづくりに重点をおくことで、数学的な見方・考え方の振り返りや深い学びができるように工夫している。
東京書籍	つまずきが多い単元には「おぼえているかな」を設定し、スムーズに学習に取り組める工夫が見られる。
東京書籍	単元の導入時で学び合いの場面がわかりやすく設定されている。このことは、児童が教科書を見ただけで多様な考えがあることに気づき、経験の浅い教師にとっても、無理なく学び合いの場面を設定することができ、協働しながら課題を解決する過程で深い学びにつながると思う。
共通 東京書籍 大日本図書 啓林館 日本文教出版	各者、入門期において楽しく学習に取り組めるように工夫がなされている。スタートブックというような数の基礎的な概念を扱うような分冊となっているのは東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版の4者。どれも40ページほどの薄い分冊になっている。東京書籍、大日本図書、啓林館は大きなA4サイズのワークブックのようになっていて、ノートを使わずにこれ1冊で済むため、机上がすっきりして学習に集中でき、ブロックなどの操作もしやすいと感じた。
共通 東京書籍	算数は積み重ねの教科なので、学びの連続性を意識して、数学的な見方、考え方を働かせ、目的意識をもって問題解決に取り組む学習を積み重ねることが大切。知識や技能の定着を図るため、各者とも補充や発展問題を設定している。問題数や難易度にややばらつきが見られた。中でも東京書籍は難易度別に設問されていて、ステップアップすることを旨として意欲的に学習に取り組むことができると考える。
教育出版	全学年にわたって、「はてな」「なるほど」「だったら」という表示がなされている。児童が課題に出会ったときに「はてな」と問いを持ち、そして自分なりの考えもち、また、友だちと学び合う中で「なるほど」と解決し、それをもとに「だったら」と、さらに活用したり、新たな問いをもったりと、問いの連続の中で学習を進めていく構成になっている。このことは、子どもたちの「問題発見力・解決力・追求力」を育むことにつながると思った。
共通 教育出版	多くの者が、SDGSや環境問題など、現代的な課題を取り上げていることは、算数を学びながら社会の変化にも関心を寄せる機会となり、とても良い課題と考える。教育出版については、5年生の「単分量あたりの大きさ」では、駅で待ち合わせをする際に、算数を使って考える場面を課題とし、また、2年生の「長さ」では、身の回りのものから長さを見つける場面が課題になっていたりと、算数で学んだことを日常場面に結びつけるような課題が随所に設定されている。児童の興味をそそるような課題や、学んだことをさらに深め、主体的な学びが持続できるような工夫が多く見られる。
共通	算数は学年が進むほど、苦手意識をもつ子どもがいる。各者とも、子どもの学びの困難さへの対応として、前学年までの既習内容がわかりやすく示されている。また、振り返り問題として「たしかめよう」や「わかっているかな」などが設定されているのが良い。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	数の合成の部分などをとても丁寧に扱っていて、マス目も大きく書き込みやすい。
東京書籍	時計の学習では、1ページを使って時計が大きく描かれているので目盛りが読みやすくなっている。細かな目盛りを読むことが苦手な子どもに対しての配慮が感じられる。
東京書籍	色が厳選されていて目に優しく見やすい。重要事項が枠で囲まれており、わかりやすいように工夫がされている。
共通 東京書籍	構成に関して工夫されており、大きな差はみられなかった。東京書籍のように、巻末に「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れている。
東京書籍 学校図書 教育出版 啓林館 日本文教出版	分量に関していえば、低学年のうちにはできるだけ荷物は軽くして、通学の負担は少なくしたいと考えるので、分冊のほうが良い。東京書籍と学校図書は、1～5年生が分冊で、6年生が1冊。教育出版、啓林館、日本文教出版は、1～4年生が分冊で、5・6年生が1冊となっている。
大日本図書	紙面が大きく、見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが採用されている。ほどよい情報量で、子どもの苦手意識の軽減につながると思う。
学校図書	見やすさでいうと、AB版で1ページが広いので見やすい。
学校図書	各者とも、小学校での学習と中学校とのつながりをわかりやすいように示してあるが、学校図書は、別冊で「中学校へのかけ橋」があり、中学校での学習がイメージしやすい工夫がされている。
共通 学校図書	入門期の別冊や、学年を分冊にするなど、それぞれの工夫がある。学校図書については、ワイド版を使用しており、左右がすっきりと開くことができる。書き込んだり、定規を使って図形を書いたりする際には、とてもよい。
啓林館	「めあて」と「まとめ」が同じページに収まっているので見やすく、スモールステップで学びを積み重ねることができるよう工夫されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍 教育出版	東京書籍については、全体的に色合いの統一感が感じられ、ぱっと見て、行間が広く感じ、刺激が少なく優しい印象を受けた。教育出版については、本市の児童にとって身近である横浜市の地図や、相模原市の写真など、神奈川県内の事例が掲載されている。このようなことも藤沢の子どもの算数への意欲につながると思った。
学校図書	6年生に「中学へのかけ橋」という分冊があり、とてもよい。小学校6年間で見つけた算数の見方・考え方を復習して定着を図るものが半分、残り半分は発展として中学校で学ぶことの導入が載っている。児童が自分の実態に応じて、個別最適な学びができるような工夫がされている。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇理科

◇理科

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「理科」に係る観点
東京書籍 大日本図書出版 学校図書 教育出版	実験について、東京書籍は、実験や観察の手順、器具の使い方や実験方法等の説明を、実物の写真等を用いて示していて、安全に取り組めると感じた。大日本図書は、順序よく指導するのに適している。各校からの評価も高かった。学校図書は、実験結果を予想する時に、それぞれの学年の発達段階などに合わせた身近な例がのっており、児童が取り組みやすく、考えやすくなっている。教育出版は、なぜこの実験をやるのか、観察するのかという必然性を感じられるような導入になっていると感じた。
共通 東京書籍 大日本図書出版 学校図書 教育出版 啓林館	それぞれどの教科用図書もプログラミングなどICT機器を扱う場面が用意され活用しやすい。東京書籍は、巻末に「理科とプログラミング」の項目があり、各学年の児童の発達段階に応じた実践例が示されている。大日本図書は、各ページに二次元コードがあり、道具の使い方や実験動画など、必要なタイミングで視聴することができるようになっている。口頭での説明では理解しにくい児童にとって視覚的に把握できることは大変有効である。また、タブレットの使用方法やプログラミング教育に配慮した資料も掲載されている。学校図書では、児童が随時動画や資料などを閲覧したり、無料でプログラミングを組んだりできるコンテンツが豊富に用意されている。教育出版は、観察・実験に関する動画や「ウェブずかん」を二次元コードから閲覧できるようにしたり、ICT機器を扱う場面がわかるようにマークが掲載されている。児童にとっても学習の振り返りにも活用できる工夫であると感じた。啓林館は、ICT機器の使用例が活用の目的とともに随所に示され、デジタル教材が豊富に活用できるようになっている。
共通	どの者についても実験のページの写真や図が大きく見やすかったり、実験の手順がわかりやすくまとめられていたりして、実験をする際に取り組みやすくなっている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
大日本図書出版	実験ページの字の大きさ、色合いが見やすくわかりやすい。
共通 大日本図書出版	理科という教科の特性上、写真については、どの教科書も多用され、視覚的にとらえやすくなっている。教科書のサイズの違いで印象が変わる。学校図書、教育出版、啓林館は、A4より縦が少し短いAB版で、大日本図書と東京書籍はA4版。特に大日本図書は、版の大きさを生かして、見開きで比較して子どもが課題を見つけやすいようになっている。実験や観察の様子がとらえやすく、児童の学びを効果的に支えられると感じた。
共通 啓林館 学校図書	各者とも、ユニバーサルデザインの視点から、文字や色づかいに配慮が見られる。啓林館の教科書は、実線と点線を使い分けて色覚の個人差を問わず判別しやすく工夫されている。学校図書は、実験などの一工程ごとに写真や図を対応させ、分かりやすい紙面構成になっている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
大日本図書出版 啓林館	6年生の「土地のつくりと変化」では、大日本図書と啓林館で、地震によって盛り上がった土地の例として、江の島が取り上げられている。どちらも航空写真が使われていて、啓林館では、裏磯の写真も掲載されている。藤沢市の児童にとって、身近に素晴らしい教材があることに気づくことができる。
大日本図書出版	大日本図書には、3年生の「自由研究」の中に、湘南台文化センター子ども館が紹介されていたり、5年生「科学館・博物館に行ってみよう」で、新江ノ島水族館が紹介されている。どちらも藤沢市にある魅力的な場所の一つであり、教科書で見るだけではなく、実際に夏休みの自由研究などで利用する児童が増えることが期待される。
啓林館 大日本図書出版	各者で神奈川県内の写真が使われている。より児童に身近なところでは、啓林館の6年生に光電池を利用して発電する町として「Fujisawaサステナブル・スマートタウン」が掲載されている。また、大日本図書6年の「土地のつくりと変化」には江の島が地震で隆起した例として載っていて、これは市内の小中学生が心ひかれる教材になっている。

◇生活

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「生活」に係る観点
東京書籍	「どきどきわくわく1年生」では、「教室」「ともだち」「がっこう」と関わる人や場所が徐々に広げられていて児童が安心して学校生活に慣れていけるような流れになっていると感じた。
大日本図書出版	子どもの目線にたったダイナミックで躍動感のある写真やイラストで子どもの興味・関心を刺激し、活動への意欲や期待を引き出すような紙面表現になっている。上巻の「ぐんぐんおおきくなるよ」ではA4版になった紙面をいかし、実物大で示した朝顔の成長の様子が掲載されている。児童が自分の朝顔と比べて見ることができ、子どもの観察の視点がひろがると思った。
教育出版	「はじめのいっぽ」では、ページの上段に小学校で学習すること、下段に入学前からしていたことが示されていて、見比べることで新しく始まる学習に目を向けられる工夫がなされている。
光村図書出版	生活は学びのはじまりであり、探検というわくわくする気持ちの持続が学びの質と量を高めてくれるという思いで教科書が作られていると感じた。わくわくできるようなダイナミックな写真やイラストでイメージを広げることができるような紙面となり、初めて小学校生活が始まる子どもたちが興味・関心を持って新たな生活を探検し、それが学びにつながれるような構成となっている。吹き出しの言葉やヒントを短い言葉で表しており、児童が活動の中で考え深めるための手がかりや気づきをうながすものとなっていると思った。 「こんなことあるかもね」「こんなのもいいかもよ」「こんないいかたもできるよね」などヨシタケシンスケさんのイラストで個性的な学びを応援している。失敗しても人と違っていい、自分の感じたことや思ったことが大事なんだよというメッセージ、一人一人が安心して自分らしい学びができるようユニークな言葉と絵で表現されており、児童に安心感をあたえていると感じた。
光村図書出版	教科書名が「せいかつたんけんたい」といい、子どもたちが、すぐわくわくする教科書名で、表紙の絵もわくわくする絵が載っていてよいと感じた。イラストも子どもたちの心をくすぐるようなイラストになっている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	文字が少なく、やわらかいタッチでのイラストで、手洗いマークや約束事など同じ位置に配置され、大変見やすいレイアウトになっており、学びのプロセスを下段に表示しているのを見通しをもって学習できる工夫がされている。上巻巻末には「ほんとうのおおきさいきものずかん」のデジタル図鑑のページがある。紙面による図鑑とデジタル図鑑があり、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができるので、児童の意欲と学びを深められると感じた。
東京書籍	「ほんとうのおおきさ いきものずかん」がついており、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができる点で、使いやすい工夫であると感じた。
東京書籍	各単元の導入のページの写真がわかりやすく、文字や写真の全体的なバランスよくてみやすい。また、二次元コードの内容も豊富であると感じる。特に、「デジタル生き物図鑑」は数が多く、充実している。ワークシートの記述例が多く載っており、取り組みやすく作られていると思った。
学校図書	判の形がA4判の変形型、AB判を使っていて、教科書を開いたときに、大きさとして、幅はほかの教科書と変わらないはずだが、すごく大きく見やすい気がした。本の中には4人の登場人物が出てくるが、この人たちが全て吹き出しを使って、子どもの学習のきっかけをつくっているところが良いと感じた。
光村図書出版	「ひろがるせいかつてん」が別冊であり子どものニーズや授業に合わせて組み合わせて活用ができる。単元に即した多様な資料で個の学びに応じることができる。上巻の生き物図鑑「きせつのなかまたち」は野外でも活用できるような水や泥に強い加工となっている。写真家今森光彦さんによるいきいきとした動物の姿は子どもたちをひきつけると思った。
啓林館	教科書のサイズはAB判を採用され児童にとっては教科書を開いたときに全体を把握しやすく、大変見やすく入門期の児童には、ページをめくりやすいよう丸く裁断する配慮がなされている。絵や写真が多く使われているので、ページ数は多いが、児童にとっては取り組みやすいと感じた。
共通	それぞれの教科書にキャラクターが、それぞれ親しみやすく載っていて、子どもたちが本当に興味をそそられるような教科書に全体的になっていると思った。画像が大きく載っていて、1・2年生は、学校のことをするだけで一生懸命なので、単純に画像だけでぱっと見られるというのは、とても良いと感じた。二次元コードが、たくさんあり、活用次第だとは思いますが、匂いだったり、花を摘んだりとか、そういう実体験をいっぱいしてほしいので、二次元コードに頼りすぎないような形で進んでいけたら良いと感じた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
光村図書	夏休みに行ってみたい場所ということで江の島の写真が載っていたりして、子どもたちが身近に感じることができると思われる。

◇音楽

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「音楽」に係る観点
教育芸術社 教育出版	本編と振り返りのページが、教育芸術社にはあり、イラストが共通していて、「このページのことだよ」というような記載があり、振り返りやすいと感じた。教育出版は、本編とまとめのイラストが全然違うものだったり、表記の仕方も違ったため、イメージが少しづらいついた。
教育芸術社 教育出版	鍵盤ハーモニカの構え方の手の形の表記では、教育芸術社では、指を軽く曲げて置きましょうだったが、教育出版は、「ミカンをつかむような感じで」という表記だった。実際にやってみたところ、指が中に入ってしまう、弾く形として伝わるのか少し気になった。
教育出版 教育芸術社	日本の郷土や伝統音楽を扱う題材について、二者ともに、子どもたちの身近なところにわらべうたなどの日本らしい音楽文化があることに気づき、そこから出発して、日本の伝統音楽へと展開するような工夫がされている。教育出版は、「箏」「尺八」「しの笛」など日本の楽器についてふれている。伝統芸能や民謡に関しては、実際に歌ったり、口唱歌を活用したりすることにより、演奏や曲の特徴などに気づきながら親しむことができるように配慮されている。教育芸術社では、生活に関わりが深い民謡の比較鑑賞を通して日本の民謡に親しむとともに子どもたちの興味関心に応じて調べ学習ができる資料ページが設けてあり、主体的で深い学びにもつながると思った。
教育出版 教育芸術社	どちらの教科書も、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽が好きになり、音楽に対する感性が育まれるための工夫が見られ、児童が音楽的な見方・考え方を働かせて、生活の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指していると感じた。教育出版では、「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として掲載して、音楽の良さを捉えるように工夫している。また、さまざまな時代や曲種を選んで、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるような教材選定をしている。教育芸術社では、「音楽を形づくっている要素」を教材ごとに示し、児童の発達段階を考慮した音域や、歌詞の内容を吟味した教材、児童にとって馴染みのある教材などを選定しているため、児童が自信をもって学べるのではないかと考えた。「考える」「見つける」などのアイコンを示し、児童一人一人が学習の見通しをもって主体的に学べるようになっていたり、キャラクターの吹き出しが学びを進めるヒントとなっていて、学習の目標に自然と迫れるようになっていたり。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
教育芸術社 教育出版	鍵盤ハーモニカの構え方について、教育芸術社では、1面にまとめられて記載されていた。教育出版は、段階を経て、構え方も3パターンくらいに分かれて表記されていた。
教育出版	歌唱共通教材のページの写真はとても美しく、歌詞や曲調など教材の世界観が広がり、日本の自然や四季の美しさを感じ取れるものとなっている。情景をイメージしながら歌うのに有効だと考える。
教育出版 教育芸術社	歌唱とあわせて器楽も大事な表現活動の一つで、1年生で鍵盤ハーモニカ、3年生でリコーダーを初めて取り扱うが、二者共に実物大に近い写真を使って、正しい持ち方で使い方の習得につながるような工夫がされている。特に教育出版では、1年生の鍵盤ハーモニカを扱うページが8ページに渡っており、初めて触れる楽器が大きな写真を使って丁寧に説明されている。確実に演奏するための、基礎・基本の定着を図ることができると思った。教育芸術社では、写真に加えてわかりやすいイラストを使っている。紙面はすっきりとして見やすいと感じた。
教育芸術社	図形楽譜を用いることで、感覚的・視覚的に楽曲を捉えやすくなり、教材のよさを味わいながら学びを進めていける点が優れている。音の高さを縦に表して、音の高低を可視化するなどの工夫もされている。写真の中に入っている歌詞や文章の配置や文字の色など、細部にわたって見やすいよう配慮されている。
共通	二次元コードを使い、知っている曲も知らない曲も音が分かるようになっていて、親子で一緒に楽しめるようになっていたりと感じた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
教育芸術社	地域芸能の写真が載っていて、興味関心をもてる部分があった。
教育芸術社	本市の児童にとって、自ら学びを進める手がかりが多くあり、興味をもって学習に取り組めると考える。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇図工

◇図工

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「図工」に係る観点
開隆堂	「わくわくするね」「みつけたよ」の題字の通り、身近な題材が作品になったり、児童が初めて触れるであろう用具があったりと、造形表現の楽しさや面白さを感じ、やってみたいという気持ちを高め、子どもたちが主体的に学習に取り組む中で豊かな感性を磨いていくことに効果的だと感じた。
開隆堂	生き生きと作品づくりに取り組む児童の姿や参考となる吹き出しがあり、児童の意欲と自主性を育成できる。5・6年下巻「みんなのギャラリー」では、地域の特性を生かした造形活動が取り上げられている。硯や江戸扇子等、日本の伝統の技を職人に児童が教えてもらう様子が掲載されていることで、「自分たち小学生でもできるんだ」「挑戦したい」という意欲につながられ、鑑賞と表現を関連づけて学ぶことができる工夫がされている。
開隆堂	児童に育成したい資質・能力の3つの柱をくふうさん(知識技能)・ひらめきさん(思考力 判断力 表現力)・ころさん(学びに向かう力、人間性等)で示してある。このキャラクターが、各題材で中心的な目標として児童が捉え、学習を深めるような役割を果たしており、児童にとって、親しみやすくわかりやすいものになっている。学習のめあてが明確で、育てたい資質・能力がはっきりわかり、児童が活動に取り組みやすいとともに指導しやすいく構成となっていると感じた。
開隆堂	題材の下部に二次元コードがあり、タブレット端末を活用して映像で用具や技法についてや学習内容を確認したり、ワークシートを使って発想や構想をひろげたりすることができ、学習を深めることができる。また、「つながる造形」のページでは、学校内の身近な他者を意識した活動から、学年を追うごとに扱うテーマを社会全体に広げていく構成になっている。SDGsに関わる内容も取り扱っており、学習を広げ深めることができると思った。
日本文教出版	1学年では幼児期の造形活動の振り返りが掲載され、5・6学年では中学校の美術科や技術科につながっていくような題材が掲載され、幼児期から中学校教育までの学びの連続性が期待できると感じた。
日本文教出版	児童の意欲を引き出す図版や投げかけにより好奇心を引き出し、主体的・対話的で深い学びとなるような構成となっている。学習の見通しをもち、活動を振り返ることができるよう、「学習のめあて」、「振り返り」、2つの「ヒント」の4つの投げかけをしている。そして、表現と鑑賞を関連させながら造形的な見方・考え方を働かせる学び方を示していることで、児童にとって学習の進め方がわかりやすいと感じた。 ICT活用できるものがたくさんあるが 中でもからだをほぐす「図工たいそう」では、造形的な見方・考え方を働かせながら、子どもたち一人ひとりが自身の思いや考えをもとに創造していく時に、リラックスして体全体の感覚を働かせたり想像したりしながら、体と心をほぐして、授業に向かう気持ちをつくることができると思った。オリエンテーションや、友だちとの関係づくりにも活用でき、児童も楽しみながらリラックスすることができ、その後の創作活動に良い影響を促すと思った。
共通	のびのびとした作品が多く、発想を広げ、自由に表現、制作する楽しさを感じる。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
開隆堂 日本文教出版	レイアウトについて、開隆堂が、すごくわかりやすい。必要な材料が上に載っていて、日本文教出版も、下に載せてはいるが、ぱっと見たときに、開隆堂は、しっかり目に入り、わかりやすい。材料が明確に書かれていて、子どもたちが何をそろえたらいいのかというのがわかりやすいと感じた。
日本文教出版	掲載されている作品の幅が広く、色合いも大変美しいので、様々なイメージを膨らますことができる。創造性を培うことで児童それぞれの個性と能力を伸ばすことができる。また、「受けつがれてきた形」では、日本で受けつがれてきた美術・工芸品が紹介されており、それらを鑑賞することで、形や色だけでなく、新たな視点で物を見る力をのばし、自分の作品に生かすことで興味や関心を高め、児童の意欲につながる。日本の文化・伝統を知ること、6年生社会科での歴史の学習にもつながり、学びを更に深められる。
共通	二者ともに、楽しそうに作品をつくる児童や制作工程の写真がたいへん効果的に用いられ、児童の創作意欲を自然に引き出す工夫がされていると感じた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
開隆堂	「地元の工芸品」という視点で取り上げたことで、本市の児童の場合は、鎌倉彫や寄木細工等、工芸品の美しさや良さに関心を高める良い機会になる。また、1・2年下巻では、茅ヶ崎市での砂の造形遊びが紹介されている。本市でも海が近い小学校では同じように砂の造形遊びを行っているため、より身近に感じられると思う。

◇家庭

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「家庭」に係る観点
東京書籍	見通しを持って課題に取り組めるように、各題材が「1、課題発見」「2、課題解決・実践」「3、評価・改善」の流れで構成されている。とくにステップ3では児童が進んで生活に関わっていく投げかけがとても良いと思う。また、「深めよう」のコーナーがあり、発展的課題について考えることで、課題解決力の獲得ができ、学びに向かう力の涵養が期待できる。
開隆堂	「生活の見方・考え方 4つの視点」をクローバーの葉で表して、単元毎に重視する視点を視覚的にわかりやすく示すことで、児童が学習に見通しを持って取り組めるように工夫されている。学びを深める際にも、この4つの視点を意識した実践例をあげていて、児童にとって課題発見や解決を見いだすためのきっかけとして有効であると思った。また、各ページの下部に豆知識があり、児童が興味を持ちそうな小話や、役立つアドバイスなどが書かれていて、学習への意欲を高めていると思った。
共通	どちらの教科書も、二次元コードを活用し動画で、運針や調理などを見ることが出来る。児童が自己の学びに必要な部分を視聴して、作業を確認したり应用到に生かしたり等、それぞれの実態に応じて個別最適な学習を実践できるようになっていると感じた。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍 開隆堂	写真やイラストが多く使われており、見やすく、わかりやすくつづられている。東京書籍は、クッキングのところで野菜の切り方とともに切るサイズと実物大の写真を巻末に載せてあって、大変わかりやすいつくりになっている。開隆堂も、裁縫のページでは、大きい写真が使用されていて、分かりやすい。そして、写真ではわかりにくい部分はイラストで示してあって、児童が理解しやすいような工夫がある。
東京書籍 開隆堂	中学校との関連についてということでは、東京書籍は、学習と関連する内容にマークをつけ、6年生の最後には2年間のまとめのページを設定してある。学年間や中学校への接続がスムーズになるように配慮されていると感じた。開隆堂は、2年間でまとめて振り返り、中学校への学習につなげるページが設定されている。児童は中学校への学習に期待が高まり、また、教員にとっても中学校との連携が意識できるつくりになっていると思った。
共通	二者ともに、写真やイラストを多用して児童の理解を深めるような工夫がある。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍 開隆堂	二者ともに、家庭科の実習でとても大切な安全面、衛生面については、随所で様々な工夫をしながら触れられている。特に、東京書籍は、「いつも確かめよう」というコーナーがあり、安全マークを目立たせながら、ポイントを示している。「ガスコンロの使い方」や「ミシンの使い方」では、大きめのイラストや写真を用いて、とても分かりやすく説明されている。教師から子どもたちに全体での指導をするときに、指導のしやすさもあるが、改めて子どもたち一人一人が実習するときに、教科書で確認しながら取り組むことができ、実習の作業をより安全に実施することができると思った。開隆堂は、「生活を支えるものやお金」という題材では、児童にとって身近で興味深いショッピングモールが取り上げられていた。実際の場面を容易に想起しながら自身の生活を振り返り、実際の買い物場面での活用につながる。また、製作や調理の例が複数掲載されており、児童の実態に合わせて選択でき、どの子にとっても充実感や達成感につながれると感じた。

◇保健

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「保健」に係る観点
大日本図書出版	各章の終わりに「もっと知りたい」という資料が追加されていて、見方・考え方を広げる工夫となっていると思った。
光文書院	「見つけよう」、「考えよう」、「話し合おう」、「調べよう」、「生かそう」というように、単元によって多少の違いはあるが、児童が今は何をすればよいのか、何を学ぶ時間なのかわかるように記載されている。発展的な内容も充実している。例えば、3年生の学習の中に、「健康な生活」という大単元があり、「さらに広げよう深めよう」というタイトルで掲載されている。自分たちの生活に直結する学習なので、生きる知識として大変参考になる。
光文書院	各単元の導入のところで児童の学ぼうとする気持ちを引きだすようなつくりになっていると感じた。また、発展のページ「広げよう・深めよう」でさらに広い知識の獲得ができるように工夫されていると思った。
学研教育みらい	単元の一つ始めのページに、学習の進め方を3段階で表している。そして、見開き1ページを使って、児童が自分事としてとらえられるように工夫している。2段階目では、課題について話し合ったり、調べたりできるようになっていて、3段階目では、学習したことを自分たちの生活に選んで、生かしていこうという流れになっている。発展的な内容も充実している。例えば、3年生の学習の中に、「健康な生活」という大単元があり、「もっと知りたい・調べたい」というタイトルで掲載されている。自分たちの生活に直結する学習であるため、生きる知識として大変参考になる。
学研教育みらい	資料やデータが学習に必要なものの上に凝縮されていて焦点化しやすかったり、児童にとって身近なイラストが使われていたり、主体的に学習に取り組める要素が多いと思った。
共通	学習指導要領との関連や内容・構成などの観点から、どの教科用図書も、学習指導要領に準じて、学ぶべき事がしっかりと身につくように、学習過程を示したり、教科書に直接書き込めるようにしていたり、よく考えられた教科用図書だと思う。絵や写真も多く、児童がイメージしやすい工夫も見られた。また、体育科の目標である、「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康の保持増進と楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを目指し、学んだことを自分たちの生活に生かすことができるような工夫がされている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	記入用のスペースが多めに設けられていて、教科書そのものがワークシートを兼ねるようなつくりになっていた。
大修館	配色に工夫がある。また、比較的教科書の余白が多く、記述するスペースが大きいので、書き込み等がしやすくなっていると思った。
大修館	記述欄については、特に大修館がゆとりを持ったスペースで構成している。小さい文字を書くことが苦手の児童でも、書き込みやすいスペースとなっていると感じた。
光文書院 大修館	光文書院と大修館では、「課題」の記載が他の表記よりも分かりやすい色使いになっていると感じた。今日の学習の課題が何なのか一目で確認でき、焦点を絞った学習につながる感じた。
学研教育みらい	イラスト使いは、児童の生活に寄り添った身近な題材が選択されていると感じた。
共通	保健分野は、座学となるため、興味をもって進んで学習に取り組めることが大切である。そういった観点から、今回の教科用図書を見た。どの教科用図書もイラストがふんだんに使用されていたり、二次元コードが多く使用されていたりして、興味をもって取り組みやすい工夫がされていた。
共通	各者とも、現在の子どもの生活にあったイラストや、美しい写真で構成され、文字とイラストのバランスがとてもよいと感じた。文字の色使いについても、様々に工夫されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
大修館	5・6年にはスクールゾーンの写真や敷地内禁煙の写真が掲載されているが、これとともに藤沢市で使用されているもので、子どもたちが学ぶ際には、見慣れたものであることから学習意欲が高まるのではないかと考えた。
学研教育みらい	5・6年の教科書には、藤沢の「こども110番」が載っていて、学習の際には学習意欲が高まると思った。

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇英語

◇英語

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「英語」に係る観点
東京書籍	デジタルコンテンツの中で、先生役の人物だけが、正面から映り、話す表情や口の動きにすごく集中して見られ、とてもよいと感じた。
東京書籍	二次元コードを用いて音声や映像を繰り返し視聴できる工夫が充実している。実際の人物が発音している表情を映したり、発音時の口の動きなどを見ることができる。映像は実写やアニメなど様々で多岐にわたっていて、内容が非常に優れていると思う。
東京書籍	3・4年生の外国語活動で使用していた「Let's Try」で慣れ親しんできた言語材料を冒頭の「Let's start!」などで取り上げているので、5年生にスムーズに接続できるようになっている。また、「Sounds and Letters」という読み書き指導のページを各単元末に設定されており、2年間を通じて文字の名前から音、文へと無理なく学習することができるようになっていると思った。5年生では、文字の名前の定着から始め、徐々に文字の音へと慣れ親しませるようになっている。「My Picture Dictionary」の巻末にある「Letter Images」はイメージを通じて文字の形や音を思い出すヒントにもなっている。二次元コードを読み込むとアニメーションになっており、子どもたちがよりイメージを持ちやすくなっていると感じた。
東京書籍 光村図書出版	内容・構成の点から、東京書籍と光村図書出版がよいと思った。東京書籍では、基礎・基本の定着も意識し、スモールステップで進んでおり、英語学習の観点に沿った学びの構成が整理されていると感じた。また、書く活動も多く、4技能をバランスよく育成できる。光村図書出版は、5年生から単元に沿った言語内容を用いた世界の紹介のページがある。世界を身近に感じ、自然に世界に興味を持てる構成になっている。そして、二者とも、初期の英語学習で、自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れはとても自然で、親しみやすい活動場面が想定されているのがよい。
東京書籍 光村図書出版	東京書籍と光村図書出版は、まず「自分のこと」、そして「身の回りのこと」、次に「地域のこと」「日本のこと」「世界のこと」、さらに「自分の未来のこと」という流れで並んでおり、実際に英語を使えるようになっていく自分であるとか英語によって広がっていく世界をイメージしやすいと思う。特に、東京書籍は、2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させて表現させている点が優れている。
共通 東京書籍 光村図書出版 啓林館	各者それぞれにデジタル教材にも工夫が見られる。啓林館のデジタル教材は、音声と同時に英語の字幕が出るようになっていて、耳で聞きながら文字を追うことができる。3・4年生の外国語活動で慣れ親しんできた英語の音声を5・6年生の外国語の学習で文字につなげて理解する上で、効果的な活用ができる。光村図書は字幕の有無を選択できるので、目的に合わせた活用ができる。また、東京書籍はデジタル教材に字幕ボタンや繰り返しボタンが付いているので、より幅広い活用の仕方が考えられる。
三省堂	会話やライティングが中心の中に、「Story Time」という英語で物語を聞く、耳を傾けるという時間があるというのは、心が落ち着くような時間になって、別の英語の楽しみ方ができると感じた。
光村図書出版	各学年に3つのテーマを設定し、学ぶことを明確にしている。導入期にあたる5年生は、「自分のこと」「身近な人のこと」「地域のこと」、6年生では、「日本のこと」「世界のこと」「将来、未来のこと」というように身近なものから次第にテーマがひろがっていくようになっており子どもたちが無理なく学習が進められるのではないかと考える。
啓林館	アルファベットのライティングについてアルファベット順ではなく、同じ線に書くアルファベットを扱うなど、アルファベットを書く際の注意点に気づきながら学習できる工夫がされている。あと、デジタルコンテンツでは、会話とともに、カラオケのように色が一緒に同時に変わっていくところが、話すときと文字の動きが連動していて、面白いと感じた。
共通	各者とも、小学校学習指導要領の要点を踏まえて英語の4技能5領域について目標が達せられるようによく構成されている。英語のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を児童が楽しみながら身に付けられるように、様々な活動や、それに伴う巻末のカードやシートなどについても非常に使いやすく工夫されている。また、Picture Dictionaryがあり日本語を介さず単語を理解させたり、使用場面を考えて単語の使い方をわかりやすく示していたりするので、的確に理解させ、表現力を育むのに期待できると思った。

発行者	観点② 分量・装丁、表記等
東京書籍	様々な形式でたくさん書き込みをしていくので、自分の教科書ができ上がっていくような感じが面白いと思った。別冊の「My Picture Dictionary」の中に、ローマ字一覧表が載っている。別冊で置いて、見て書くことができ、子どもが取り組みやすい。
東京書籍 開隆堂 三省堂 光村図書出版	別冊で辞書があり、語彙や基本文型がまとまっており、基礎の習得や表現活用に大変有効である。児童はもちろん、教師にとっても使いやすい。
開隆堂	「Word Book」という別冊のものがとてもシンプルで分かりやすく、大変使いやすい。CAN-DOチェックという自分の学習が全編一覧になって見られるところが、1年間、自分の振り返りにもなる。
三省堂	別冊に本編との関連のページ数が記載されていて、振り返りにとても便利そうだった。
教育出版	シールやカードゲームなどたくさんあり、友達と一緒に、英語を本当に楽しむことができるのがよいと感じた。
光村図書出版	活動をマークとして表記していて、今、自分が書く行がどういう目的でやるというのが見て分かりやすい。あと、世界の国々の紹介の写真が多く、興味深い。
光村図書出版	その学年でできるようになることを示した「CAN DO」が、複数のユニットにほどよくまたがって構成されている。そのことによって、学びを進める中で、何度か同じ「CAN DO」に触れることになり、振り返りにも活用することができ学習の定着につながると思った。また、各単元に、スモールアクティビティーの例示に加え、「Plus One」として、応用編も掲載されている。児童の実態に合わせてながら学習活動を考えることができるので授業者にとって使いやすいと感じた。
啓林館	5年生のアルファベットを書く学習が、学年の後半からスタートしている。文字を書くことになれていない児童にとっては、まず、発音することの楽しさを味わい、その後、少しずつ文字を書くことになれていくと言った構成はとても取り組みやすいと思った。
共通	どの教科書も、イラストは優しい色だが、カラフルであったり、色々な世界の写真があったりと、グローバルな意識を持つような内容が多いと感じた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
共通 三省堂 教育出版	なじみのある江の島、鎌倉や横浜が各者の教科書に掲載されている。また、三省堂と教育出版には、国語で2年生の時に学習した「スーホの白い馬」「お手紙」という物語がそれぞれ掲載されていて、親しみを覚えながら、また少し違った視点で英語の学習ができそうだと感じた。
教育出版 啓林館 共通	教育出版と啓林館は、本市の児童にとって大変身近な鎌倉の大仏や、横浜の中華街などが扱われている。また、他の教科書でも、修学旅行で訪れる日光や、藤沢市に關係の深い海での活動などが取り上げられている。子どもたちにとって、親しみのある、特に地元の写真や内容が出てくるだけで、英語を学習しようという興味・関心・意欲につながっていくのではないかと感じた。
発行者	観点④ デジタル教科書
東京書籍 三省堂	該当箇所をクリックすると拡大できる場所が使いやすいと感じた。
開隆堂 教育出版	学習者支援のページがある。文字が拡大されたり、文字にカーソルを合わせてクリックすると音声が開けるので、見ることに不自由を感じる生徒にも配慮がされている。
教育出版	単語をクリックすると音声の流れるところが使いやすいと感じた。
啓林館	ページ一覧があり、目的のページを開きやすいところが便利だと感じた。

◇道徳

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「道徳」に係る観点
教育出版 東京書籍 光村図書出版	いじめ防止について考える教材をとおして、それぞれの工夫を見ると、教育出版の5年生では、SNSでのいじめを取り扱っており、問題が起きやすいこの時期に扱うよい題材だと感じた。東京書籍では、友達のよいところを探す活動が取り入れられており、お互いの信頼感を育むよい活動だと感じた。また、光村図書出版は、実際にその場面を演じてみる学びを取り入れており、問題を自分事として捉えるよい工夫であると感じた。
共通 学研教育みらい 光文書院 光村図書出版	いずれの教科書も学習指導要領の求める主体的・対話的で深い学びについて、児童が主体的に考え、議論ができるようにさまざまな工夫がなされていた。児童は4月に学年が1つ上がり、新たな気持ちで学校生活をスタートする。これからどんな学びが広がっていくかを期待して授業に臨むことから、巻頭の掲載内容はとても大切であると思う。学研教育みらいは、巻頭に今の自分について児童自身が記入する見開きページがあり、さらに、巻末に1年間の学びの振り返りや次年度に向けてのメッセージを書き込めるようになっていて、学びのつながりを大切にしている。光文書院は、巻頭に思考ツールや対話ツールについて掲載されていて、考えを整理したり、より適切な言葉を選んだりするなど、学習に入る準備段階を大事にしている。光村図書出版は、発達段階に配慮したイラストや言葉を選択していて、児童は期待感をもって1年間の学びを見通すことができる。気持ちよく話し合うためのこつが見開きページに掲載されていて、相手の考えや意見を受け止めることで、よりよい対話が生まれるように積み重ねていくことができ、学校教育全体に生きていくと考える。
日本文教出版	別冊で道徳ノートがついている。自由記述のノートなので、指導者が児童に考えさせたい事を設定できるようになっている。ノートに書いたことをもとに話し合ったり、友だちの意見を書き留めたりする中で、学びが深まっていくことが期待できる。また、形に残るので評価の際にも役立つ。
光文書院	特に考えさせたい内容を「重点主題」として取り上げ、子どもが多面的・多角的に深く考えられるような構成になっている。扉ページで重点主題に即した問いを、まず子どもに問いかけてから、主題に関する複数の教材を連続的に取り扱うことで、子どもが問題意識をもって深く考える力を身につけることができる。
共通	子どもが自分自身の生き方を常に見つめていくことが大切。普段の自分の考えや言動について振り返り、「こんな時自分ならどうするだろう」とか「命を大切にするとはどういうことなんだろう」などのように、「考え、議論する道徳」につながるように各者とも工夫されている。
発行者	観点② 分量・装丁、表記等
光村図書出版	巻末に「学びの記録」が設定されている。2～3文程度のスペースなので無理なく書くことができ、自分の考えを振り返り、評価することもできる。環境に配慮した紙を使用しているため、紙面の色が白すぎず、目に優しく感じるのも良い。
光村図書出版	全学年にわたって、淡い色使いで優しい雰囲気の色紙と見開きで構成されており、学習への興味・関心を抱かせ、意欲的に取り組む助けになると思う。
光村図書出版	全体的に淡い色使いで、目に優しいつくりになっている。挿絵のタッチが柔らかくて温かい感じを受ける。文字の大きさ、太さ、挿絵のバランスも良いため、学習への抵抗感が薄れ、子どもたちが自然な形で学習に取り組むことが期待できる。1年生の学習のはじめに「どうとくがはじまるよ」という見開きがあり、道徳は心について考える時間であるとやさしい言葉で示し、「いろいろなところをみつけよう」と投げかけている。子どもたちがこれからの成長過程の中で、自分の心と向き合い、豊かな感受性、道徳性を磨いていく道徳学習のスタートとして、大変効果的であると考えます。
光村図書出版	「こころん」「きらりん」「もやもやん」という優しい親しみやすい3つのキャラクターが題材ごとに柔らかな言葉で子どもに語りかけ、考えさせているところが良い。学習に入る前に子ども自身が問題意識を持って取り組もうという心の準備ができる。価値観を押しつけになることなく、子ども自身が自分の考えを深めたり、友達と考えを分かち合ったりする工夫があり、子どもたちが主体的に学びながら、心の成長につながると思う。
共通	どの教科書にも「かぼちゃのつる」と「はしのうえのおおかみ」というのが全部掲載されている。「かぼちゃのつる」は、教科書によっては4コマ、漫画のスタイルで描いているものもあつたり、文章で描いているものもあり、それぞれ教科書の出版者の方で全然カラーが違うので、すごく面白いと感じた。イラストによって受け方、捉え方も違うと感じた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
光村図書出版	自分の考えを表すときや、友だちの考えを受け止めるときの言い方が、全学年で具体的に示されており、話し合いに参加することが苦手な児童への配慮がある。
光村図書出版	巻頭に『みんなで気持ちよく話し合うためのこつ』が示され、各題材の『考えよう・話し合おう』にある問いについて話し合うことで、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫がなされている。
光村図書出版	4年生で「いのちをつなぐ岬」ウミガメについて書かれており、本市には海や江ノ島水族館があるため、「きれいにすること」や「いのち」について、身近なこととして考えやすい。6年生「クジラとプラスチック」では、海洋汚染について書かれており、本市でもビーチクリーンや江ノ島ヨットハーバーにマイクロプラスチックを回収する装置を設置するなど環境保全に力を入れているので、身近な課題として考えを深めることができる。本市とのかかわりのある資料を取り上げることによって、児童がより身近なことと感じたり、深く考えたりして、道徳性を養っていかれると考える。
共通	各者とも、自然環境保護を扱っているところで、本市の海岸清掃や八ヶ岳野外体験教室と重ねやすい。

令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について

本審議委員会は、教育委員会の諮問に基づき、令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の方針を次のように定める。藤沢市立小学校・特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使用する教科用図書について、次の観点に基づいて審議を行い、その内容を教育長に答申する。

1 基本的な考え方

- (1) 「令和6年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- (2) 令和6年度使用小学校用教科用図書の調査研究を学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を種目ごとに置き、調査資料を提出させる。
- (3) 「令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

2 審議委員会日程

(1) 令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程

- ア 令和5年6月から7月にかけて令和6年度使用小学校用教科用図書並びに令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を3回行う。
- イ 第1回は、令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針等について審議する。
- ウ 第2回は、令和6年度使用小学校用教科用図書について審議する。
- エ 第3回は、令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について審議する。

(2) 調査員作業日程

- ア 令和5年6月中に令和6年度使用小学校用教科用図書の調査研究のために、調査員をおき、作業を行わせる。
- イ 調査員作業では、調査研究方法の確認をし、令和6年度使用小学校用教科用図書見本等を基に調査研究を行わせ、調査資料を作成させる。

3 提出させる資料

- (1) 調査員による調査資料を審議委員会に提出させる。
- (2) 事務局に各小学校長からの令和6年度使用小学校用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (3) 事務局に該当校長からの特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。

- (4) 事務局に各小学校移動展示時と藤沢市役所分庁舎2階会議室展示時の教育関係者、児童生徒保護者並びに市民の意見・感想をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (5) 教科書目録、学習指導要領、令和6年度使用小学校用教科用図書見本、教科書編修趣意書、令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針（「令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」を含む）、教科用図書調査研究の結果を資料として使用する。

4 調査作業の時限非公開

- (1) 静ひつな調査研究の環境確保のため、調査作業及びその調査員氏名については非公開として行わせる。
- (2) 審議の透明性を確保するため、調査員氏名については、調査作業後、審議委員会において公開する。

第1回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和5年6月2日（金）10時30分～

委員長

定刻になりました。

会議に先立ちまして、お願いがございます。傍聴の皆様方、お手元の藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領をよくご覧になって、各事項の遵守をくださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、議事録作成の都合上、録音をさせていただきます。

それでは、これより第1回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を始めます。

私は、本審議委員会委員長を務めさせていただくことになりました瀧谷と申します。

不慣れではございますが、藤沢市の子どもたちのために、静ひつな環境の中で、公正に審議委員会を運営してまいりたいと存じます。審議委員会の皆様のご協力をお願いいたします。

また、本審議委員会規則第4条第3項に則り、職務代理者として宮崎委員を指名しております。宮崎委員、一言ご挨拶をお願いいたします。

宮崎委員

職務代行者として責務を全うしたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

委員長

それでは宮崎委員、よろしくをお願いいたします。

それでは、本審議委員会の次第に則って進めさせていただきます。次第をご覧ください。

次第2「会議録署名委員の指名について」に入ります。「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」第7条に基づき、会議

録署名委員の指名をいたします。

署名委員として、委員長の私自身と、ほかに繁里委員を会議録署名委員に指名させていただきたいと思いますが、繁里委員、よろしいでしょうか。

繁里委員 よろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。それでは、会議録署名委員には、私と繁里委員ということで、よろしく願いいたします。

続きまして、次第3「資料について」に入ります。事務局から資料についての説明をしていただきます。事務局、よろしく願いいたします。

事務局 よろしく願いいたします。

それでは、資料の確認と説明をさせていただきます。ホチキス留めの資料1をご覧ください。

初めに、1ページ、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則です。これは本審議委員会の規則でございます。

続いて3ページ、令和6年度使用藤沢市教科用図書の採択方針ですが、これは本年度の藤沢市教育委員会としての採択に係る方針を定めた資料でございます。

続いて5ページ、令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会委員名簿でございます。

6ページ、令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議について（諮問）です。

7ページ、令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針です。この中の10ページに、令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点のほかに、14ページ、令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点が含まれております。これらは、文部科学省の通知を受

けまして神奈川県を選定審議会を通して神奈川県教育委員会が通知したものです。教科書の調査研究の観点等が示されております。

次に、18ページ、教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）と、42ページ、令和6年度使用教科書の採択事務処理について（通知）ですが、これは文部科学省より県に通知されました教科用図書採択に向けての方針でございます。

次に、もう一つのホチキス留め、こちらが資料2としております。こちらには、小学校用教科書目録（令和6年度使用）、特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）がございます。そのほか小・特別支援学校の学習指導要領を用意しました。これは学校の教育課程の中心となるもので、文部科学省が作成し、教科書編修の根幹に当たる資料でもございます。お手元に配付させていただいております。

そのほか、サイドテーブルの資料でございます。まず、教科書編修趣意書ですが、これは文部科学省から作成を指示された教科書発行者が教科書を編修するに当たっての趣意をまとめたものです。そのほか、令和6年度使用小学校用教科用図書見本本を展示しております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

次に、次第4に参ります。次第4「教育長から審議委員会委員長への諮問」です。

教育長 去る5月18日に行われました藤沢市教育委員会5月定例会におきまして、令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議についてを諮問をすることに決定をいたしましたので、それに基づきまして、本日、諮問をさせていただきます。

それでは、諮問文を読ませさせていただきます。

2023年（令和5年）6月2日

藤沢市教科用図書採択審議委員会委員長 様

令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議について（諮問）

藤沢市教育委員会は2023年（令和5年）5月18日の教育委員会会議において「令和6年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」を定めました。

教科用図書の採択にあたっては国、県等の資料を踏まえて公正かつ適正を期し、学校、児童生徒、地域等の特性を考慮して採択することが求められています。また、英語の教科書については、令和6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書を紙の教科書と併せて提供される予定です。

そこで、貴審議委員会においては、「令和6年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」及び神奈川県教育委員会通知に示されている「令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、「令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき審議を行うとともに、英語については、デジタル教科書も考慮の一事項として、その内容を答申してくださるよう、ここに諮問します。

藤沢市教育委員会
教育長 岩本 将宏

どうぞよろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。委員の皆様には、これからのご審議をどうぞよろしく願いいたします。

それでは、次第5に参ります。次第5「議事」に入ります。
今年度の審議委員会の方針について、審議の都合上、あらかじめこちらで議案を用意してあります。

それでは、議案第1号、「令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針（案）」について審議いたします。事務局に朗読していただきます。

事務局 それでは、お手元の議案をご覧ください。

議案第1号

令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針（案）について

本審議委員会は、教育委員会の諮問に基づき、令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の方針を次のように定める。藤沢市立小学校・特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使用する教科用図書について、次の観点に基づいて審議を行い、その内容を教育長に答申する。

1 基本的な考え方

- (1) 「令和6年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- (2) 令和6年度使用小学校用教科用図書の調査研究を学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を種目ごとに置き、調査資料を提出させる。
- (3) 「令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

2 審議委員会日程

(1) 令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程

- ア 令和5年6月から7月にかけて令和6年度小学校用教科用図書並びに令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を3回行う。
- イ 第1回は、令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針等について審議する。
- ウ 第2回は、令和6年度使用小学校用教科用図書について審議する。
- エ 第3回は、令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について審議する。

(2) 調査員作業日程

- ア 令和5年6月中に令和6年度使用小学校用教科用図書の調査研究のために、調査員をおき、作業を行わせる。
- イ 調査員作業では、調査研究方法の確認をし、令和6年度使用小学校用教科用図書見本等を基に調査研究を行わせ、調査資料を作成させる。

3 提出させる資料

- (1) 調査員による調査資料を審議委員会に提出させる。
- (2) 事務局に各小学校長からの令和6年度使用小学校用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (3) 事務局に該当校長からの特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (4) 事務局に各小学校移動展示時と藤沢市役所分庁舎2階会議室展示時の教育関係者、児童生徒保護者並びに市民の意見・感想をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (5) 教科書目録、学習指導要領、令和6年度使用小学校用教科用図書見本、教科書編修趣意書、令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針（「令和6年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科

用図書調査研究の観点」及び「令和6年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」を含む)、教科用図書調査研究の結果を資料として使用する。

4 調査作業の時限非公開

- (1) 静ひつな調査研究の環境確保のため、調査作業及びその調査員氏名については非公開として行わせる。
 - (2) 審議の透明性を確保するため、調査員氏名については、調査作業後、審議委員会において公開する。
- 以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

 この議案につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。方針文が長いので、一つ一つ分けていきたいと思えます。

 まず、前文及び「1 基本的な考え方」についてまでは、いかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ないようでしたら、次に、「2 審議委員会日程」についてはいかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ではご意見ないようでしたら、次に、「3 提出させる資料」についてです。こちらについては、いかがでしょうか。

川島委員 確認をさせてください。(1)ですけれども、「調査員による調査資料を審議委員会に提出させる」と書かれています。(2)以降

は、事務局に何々をまとめさせという表現になっています。この(1)にはそれがありません。ということは、調査員がつくった調査資料は、各々の調査員からまとまっていない状態で見られるというふうに理解してよろしいでしょうか。

委員長 今のご質問について、事務局のほうで、ご回答をお願ひできますでしょうか。

事務局 こちらが事務局として関わらせていただくこととなります。お願ひします。

川島委員 つまり、事務局が調査員に調査資料をまとめさせ、審議委員会に提出させるという読み取りでよろしいということですね。

事務局 そのとおりでございます。

委員長 よろしいでしょうか。

では次に、「4 調査作業の時限非公開」についてですが、これについてはいかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ではご意見、ご質問などほかにないようでしたら、原案どおりでよろしいということで構わないでしょうか。

各委員 はい。

委員長 それでは、そのほかに全体を通して、ほかにご質問やご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ないようですので、この方針でよろしいかどうか、改めましてご承認をいただけますでしょうか。

各委員 はい。

委員長 ありがとうございます。それでは、第1号議案、「令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針(案)」については承認されました。したがって、案の字をお取りください。ありがとうございます。

実質審議を第2回審議委員会にて行います。各委員におかれましては、本日の資料を参考に次回の審議委員会までの準備をお願いいたします。

それでは、次第6に参ります。次第6「第2回審議委員会の日程について」でございます。第2回審議委員会の開催日時ですが、7月6日木曜日午前9時から、藤沢市教育文化センターにて行いたいと考えております。この日程でよろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 ありがとうございます。それでは、審議の方針に従いまして、次回は、令和6年度使用小学校用教科用図書の審議を行ってまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

事務局のほうから何か連絡がありますでしょうか。

事務局 ご審議ありがとうございました。

審議委員の皆様におかれましては、審議における公正確保という点において、常に公正な立場でお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

委員長 委員の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。これ
をもちまして第1回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議
委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和5年7月6日（木）9時00分～

委員長 皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音をさせていただきます。

それでは、ただいまより第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

本日の次第をご覧ください。今回、ご審議いただく内容は、議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」です。

まず初めに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議録署名委員を指名いたします。

委員長の私のほかに、今回も繁里委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

繁里委員 よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。では、繁里委員、よろしくお願いいたします。

続いて、本日の資料について事務局に説明を求めます。事務局、お願いいたします。

事務局 それでは、お手元の資料についてご説明させていただきます。議題に係る資料について説明いたします。

第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました4点の資料についてご説明いたします。

1点目は、本審議委員会の下に置かれました調査員によって作成されました「小学校用（令和6・7・8・9年度用）『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し、十分な経験と知識を有する者のうちから、本市教育委員会が調査員として57名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載しております。

2点目は、県より報告されました「小学校、義務教育学校の前期課程 教科用図書調査研究の結果（令和6・7・8・9年度使用）」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものでございます。

3点目は、「令和6年度使用小学校用教科用図書調査書まとめ」です。これは、各小学校長が自校の教員に、県の調査研究の観点等に沿って調査研究させた「令和6年度使用小学校用教科用図書調査書」をもとに、事務局でまとめたものです。各学校が調査の各観点に沿って、あてはまると思われる発行者に丸をつけたものを集計し、一覧にしたものです。各教科、種目別の観点及び本校の児童の実態や地域等の特性との関連の観点について、その教科書が適切である理由として各学校が記述した内容を発行者ごとにまとめ、一覧にしたものです。

4点目は、「令和6年度使用教科用図書意見書一覧表」です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢市役所分庁舎2階会議室において、教科書見本展示会を開催した際にいただいた意見、感想を事務局でまとめたものでございます。

そのほか、サイドテーブルの資料についてです。小・中・特別支援学校の学習指導要領、教科書発行者が文部科学省から指示され作成した教科書編修趣意書、令和6年度使用小学校用教科用図書見本本及び特別支援教育関係教科用図書見本本を用意しております。

なお、令和6年度使用小学校用教科用図書調査書と令和6年度使用教科用図書意見書等についてもサイドテーブルにご用意しております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

ただいまの資料などの説明について何かご質問はございますか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから議事に入ります。

議題「令和6年度使用小学校用教科用図書について」審議してまいります。本年度は、令和6年度から令和9年度に使用する小学校の教科用図書の採択が行われることになっています。

また、審議委員会が審議を行うにあたり、学校教育に関して十分な知識と経験を有する調査員を置き、調査研究を行わせました。本日までに審議委員の皆さんには調査員が作成した調査資料に目を通し、調査研究を進めていただいているところですが、その調査資料の内容を基に各小学校の調査書のまとめ、県より出された教科用図書調査研究の結果等を使って審議を進めたいと思います。

続きまして、審議の進行について、何かご意見がございますでしょうか。

澤野委員　今回の審議の進め方について、各種目について、特に市の調査資料の大きなまとめである3観点を意識して進めてみてはいかがでしょうか。

日置委員　私も澤野委員の考え方に賛成です。

委員長　ありがとうございます。ただいま市の調査資料の3つの観点をもとにしてというご意見がありました。市の調査資料の3つの観点といたしましては、1つ目の観点が「編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点」です。2つ目の観点が「分量・装丁・表記等」です。最後に、3つ目の観点は、「本市の児童の実態や地域等の特性との関連」となります。これら3つの観点をもとに、種目ごとに進めてはどうかというご意見だったと思います。皆様いかがでしょうか。

各委員　いいと思います。

委員長　それでは、これから種目ごとに3つの観点を基に、各委員からご意見をいただいて進めていきたいと思っております。では、ご意見をお願いします。

まず、国語についてご意見をお願いします。

和田委員　まず、国語ですが、3者、教科書が出ています。3者とも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、子どもたちが見通しをもって学びを進められるよう工夫されています。

特に、光村図書出版では、市の調査資料にもありましたが、各単元の「見通しをもとう」において学習課程が示され、学習の見通しをもち、問いや対話が生まれてくるようになっています。また、巻頭には、新しく学ぶ内容と既習の内容が結びつけて示されていることで、無理なく新しい学びに向き合える工夫

がなされていると感じました。

続いて、教育出版は、巻末にある「付録」の「情報のまとめ」、「大事な言い方」などが充実しており、児童が学習の振り返りや課題解決するのに役立つ工夫がなされていると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

村田委員 私は、語彙の豊かさを培うという観点から見たところをお話しいたします。

県の調査結果にもありますが、3者とも、教科書を通じて子どもたちの言葉に関する学びを深めながら語彙を獲得していくため、それぞれの方針で工夫がされていると感じました。

東京書籍は、「言葉相談室」というページがあり、具体的に設定された生活場面から語彙を増やせるように図られています。

教育出版も、趣意書に「日常生活に生きて働く言葉を養う」とあり、そのように単元設定が工夫されています。加えて、「言葉の文化」のページでは、古くから日本人の生活に根差している伝えていきたい言葉が集められ、語彙の幅を広げています。

光村図書出版には、巻末に「言葉のたから箱」というページがあり、これはとてもよくできていると思いました。「言葉のたから箱」は、文学教材を読み深めたり、説明文をしっかりと読み取る学習をしたりする中で身につけた語彙と非常によくリンクしていて、繰り返し授業の中での活用が期待できます。低・中・高の系統性も意識されています。また、伝統的な言語文化に関わる語彙でいうと、「季節の言葉」というページがあり、古来、日本人が大事にしてきた季節感のある言葉が並んでいます。日本語の持つ美しい響きや心地よいリズムを体感する活動につながり、子どもたちの言葉に対するセンスが磨かれ、語彙が豊かになっていくことが期待できます。

少し視点が変わるんですけども、分量、装丁ということを

考えますと、教育出版は全学年、上下の分冊になっていますので、子どもが持ち帰る場合は負担が少ないと思います。東京書籍と光村図書出版は、5・6年生が年間1冊で分冊になっていません。重いというのは難点であるかもしれませんが、高学年なので、年間を通した学習の意識ができるという利点もあると考えています。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

日置委員 私は、読書活動の充実を図るという観点からお話ししたいと思います。

教育出版社では、付録ページの「○年生で読みたい本」であらすじや本の表紙を載せており、分かりやすく、子どもが興味を持てるような紹介がされています。例えば、5年生では、環境や世界などのテーマに沿った本、詩、ファンタジーなど多岐にわたるジャンルの56冊もの本が紹介されています。こうして取り上げられることで、ふだんは読まないような本も手に取りやすくなり、子どもたちの読書の世界が広がっていくという期待が持てます。「ふじさわ子ども読書プラン2025～第4次藤沢市子ども読書活動推進計画～」に基づいた「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」の実現に適していると思いました。

また、光村図書は、先ほど村田委員も触れていましたけれども、「言葉のたから箱」が設定されており、学習の中で役立つ言葉を紹介しています。「季節の言葉」では、日本ならではの季節に関わる豊かな語彙を扱っています。これらにより子どもたちの語彙力が豊かになり、その後の言語活動でも大いに役立つことが期待できます。「この本、読もう」のコーナーでは、単元のねらいを踏まえ、学んだことを生かせるように、シリーズや作者の他作品、テーマに沿った内容の本が紹介されています。既

習内容とつながる本の紹介をすることで、読書が苦手な児童でも取り組みやすく、また読書好きな児童には、ますます読書の楽しみが感じられるようになっており、主体的な学びへつながっていくと感じました。

そのほかにも、光村図書では、どの学年においても文学的文章や説明的文章を書き下ろしで読み応えのある題材を数多く設定しています。文学的文章では、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」など、生命尊重や命の大切さについて扱った教材が掲載されています。文章を読んで考えをもち、それを共有して、また、さらに自分の考えを広げていくことで、他者を尊重し、思いやる力が育成できると思いました。また、「くじらぐも」、「スイミー」、「お手紙」、「ごんぎつね」、「やまなし」など親の代から長い間読み続けられている物語も多く、親子で同じ物語を共有でき、学習話題に取り上げることができる利点も感じられると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

堀部委員 私のほうからは、観点2の表記についてお話しさせていただきます。

東京書籍は、イラストや写真が大きく、児童が興味をもって学習に取り組むことができると思えます。また、大変柔らかい色合いでのイラストが使われており、色覚の多様性に配慮されているため、児童が集中して学習に取り組むことができる工夫がされています。また、物語、説明文では、特定の行を見つけやすくするため、5行ごとの行数字の間にも点を示し、それらをつなげるドットが繊細で優しく、大変効果的な支援の配慮がされていると感じました。

光村図書出版では、文章の境界や文字の大きさが学年ごとに

配慮されており、大変読みやすい工夫がされております。イラストや写真、グラフなどの資料が多く、児童の興味関心が高まり、学ぶことへの意欲が深まることで、学習内容の理解につながると感じました。また、学習のめあてごとに色分けされた表示になっており、共通にどの学年でも使われていることもあり、児童にも何を今身につけるための学習をしているのか視覚的にも理解でき、継続的に取り組むことへの積み重ねの大切さを教師も実感することができると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

原委員 保護者目線で一通り目を通していただきまして、私が興味を持ったものは、光村図書です。その理由として、2つあります。

1つ目は、途中途中で入っているコラムや資料が取り上げてほしい旬の話題でした。例えば、6年生の教科書には、デジタル機器についてやスマートフォンの使い方などが掲載されており、内容が良い題材が多いと感じました。2つ目としまして、「スイミー」の物語で比較してみたところ、東京書籍と教育出版が1年生で取り上げている中、光村図書は2年生上で取り上げていました。踏み込んだ内容や漢字習得の面から考えても、物語をより理解する上で、2年生で取り上げている光村図書がよいと感じました。

教育出版について申し上げますと、行間が広く、読みやすい、書体が見やすく、文字が捉えやすいと感じました。また、高学年が上下で分冊になっているのが良いと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようなので、次の書写に移ります。では、書写についてご意見をお願いします。

澤野委員 各者とも様々な工夫が見られます。例えば文字を書く姿勢について、合言葉や体操などを使って分かりやすく示すことで定着を図っています。

カリキュラム・マネジメントの観点で見ると、他の教科等と関連する学習活動が設定されているところも高く評価できます。東京書籍では、生活科の観察カードを、教育出版では、理科の実験記録、光村図書出版では、社会科で新聞やポスターを書くなど、各者とも子どもの日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫がされています。さらに、低学年では、各者とも、楽しみながら繰り返して練習できるように水書きシートが用意されている点もよいと思いました。

東京書籍の鉛筆の持ち方では、ほぼ実寸大の写真が用いられ、教科書の上に実際に手を置いて書く姿勢をイメージできるつくりになっています。また、左利きの児童の鉛筆の持ち方の写真もあり、細やかな配慮が感じられました。

教育出版では、3年生以上では、見開き1ページの中に毛筆の学習の流れが示されていて、次のページでは硬筆で書き込める設問が取り入れられています。硬筆から毛筆への移行がスムーズにできるように工夫されています。

光村図書出版では、硬筆のスタートの1年生、毛筆のスタートの3年生の教科書で、鉛筆や筆を持つまでの準備や姿勢など、スムーズに書き始められるように構成されています。簡略化されたマークを使って、分かりやすく学習のポイントが示されているのもよいと思います。さらに光村図書出版では、主体的・

対話的で深い学びにつながるように、整った文字を書くためにどうすればよいのかを子どもに考えさせ、さらに指導者や友達と対話する場面を設けています。あわせて、相手に読みやすいように丁寧に字を書こうとする姿勢を育てることにもつながるのではないかと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

繁里委員 私からは、分量・装丁・表記等の観点からお話ししたいと思います。

まず、東京書籍、教育出版、光村図書出版ともに、各学年1冊で構成されています。色遣いについては、カラーユニバーサルデザインの観点から、どの児童にとっても見やすい配色やデザインに配慮しているのを感じました。字体はユニバーサルデザインに配慮した読みやすいフォントで、学年に応じた見やすい字の大きさになっています。また、全ての学年でよい姿勢と鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方について写真とイラストを使って丁寧に説明しているため、いつでも文字を書く基本を確認できるようになっています。1年生につきましては、書写の最初の授業でどのように文字に出会うかで今後の字を書く楽しさや喜びにつながります。

その視点で教科書の表紙を開くと、いずれも文字に興味関心を持つような内容となっていました。特に光村図書出版は、すっきりとした紙面構成で、シンプルに書写の約束を確認した後、自分の名前を教科書に書くつくりになっていて、児童の書きたいという思いを大切にしているなど感じました。

構成について、どの教科書も学ぶべき知識や技能を系統的に配列するとともに、硬筆と毛筆を関連させて学習を進めるようになっています。毛筆の始まる3年生の教科書を見ますと、書

き方や筆圧など毛筆の学習に向けた導入が掲載されています。教育出版と光村図書は、見開きページを基本として丁寧に説明を展開しているのです。児童にとって分かりやすく、意欲をもって毛筆学習に取り組めると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。ほかにございませんか。

日置委員 私は、児童の実態に即した内容という3つ目の観点からお話しをさせていただきます。

3者とも、教科横断的に、他教科の中でもどのように学んだことを生かすかということが示されています。市の調査資料にも、各教科との関連の工夫が示されています。

東京書籍では、社会科の国調べのポスターの書き方の例、教育出版では、校外学習のリーフレット作成の流れなどが紹介されています。光村図書では、「書写 広げたい」の単元で硬筆の横書きの書き方やリーフレットの書き方、アルファベットについても扱っていて、他教科や生活の中で学習したことが生かせるようになっていきます。教育出版4年書写では、「文字の大きさと配列に気をつけて書こう」というめあてで「ぼうさいかるたをつくる」という取組が紹介されています。4年生の社会科で地域の防災などを学ぶので、教科横断的に児童が興味をもち、意欲的に取り組める課題だと思いました。

本市では現在、外国につながる児童が増加しています。教育出版5年の巻末には世界の「こんにちは」のつづりが、そして6年の巻頭には「知りたいな 世界の『書く』」として、英語のカリグラフィーやアラビア書道などが紹介されています。多様な世界文化に触れる機会の多い藤沢市の児童には、大変よい教材だと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようなので、次の社会に移ります。では、社会についてご意見をお願いいたします。

和田委員 社会科は、小学校3年生から始まる教科です。2年生までの学習の中では、共に社会との関わりを扱う生活科との関連があります。そこで、社会科へのスムーズな接続という視点で見ると、教育出版は「生活科をふり返ろう」というコーナーで、生活科の代表的な学習場面を想起するページが設けられており、接続を意識した構成となっております。また、東京書籍では、巻頭で生活科の既習事項の確認から第3学年の学習内容を提示していくことで、これから始まる社会科学習に意欲をもって取り組める工夫がなされています。

次に、学習指導要領との関わりという視点から見ると、教育出版は教科書の随所に「学びのてびき」、「次につなげよう」という欄が設けられており、学習内容を多面的、多角的に考えられるような工夫がなされています。東京書籍は、市の調査資料にもあったとおり、問題解決的な学習を進めていくために、問題を「つかむ・調べる・まとめる・いかす」という構成にしています。「まとめる」のページでは、学んだことを図や表を使い整理したり、様々な視点から考え、話し合ったりできるようなつくりになっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。

繁里委員 では、私からは紙面のつくりについての視点でお話ししたい
と思います。

東京書籍、教育出版、日本文教出版ともに、各単元において
視覚的効果が図られるように、写真や図、表などを適切に用い
て児童の学習への興味関心や理解が深まるようにしています。
また、学習内容ごとに本文や資料などが見開き2ページ程度で
まとめられていて、分かりやすいです。

中でも教育出版は、見開きページの初めに「この時間の問い」
を設定し、児童が問題解決型学習に取り組みやすくなっている
のと、終わりには「次につなげよう」を設定していて、次時へ
の問いへつながるようになっていきます。これにより、各単元の
流れや連続性がかみやすいのではないかと思います。

教科書の冊数ですが、教育出版と日本文教出版は、どの学年
も1冊にまとめられてつくられています。各校の教育課程編成
におきまして、指導計画を立てる際には、単元の順番を入れ替
える可能性があることから、1冊になっているほうが対応しや
すいと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。

宮崎委員 県の調査資料にもありますように、3者ともに学びに向かう
力、人間性の涵養という点について、学習した内容を地域や社
会の課題に向き合って、問題意識をもって、そして話し合うと
いう活動が組み込まれていると思います。例えば、防災や環境
に関する課題に対して、持続可能な開発目標と関連させながら
話し合っていく活動が工夫されており、今日的な課題への意識
を高めることができると思いました。子どもたちが、これから

成長して将来生きていく時代の困難さですとか、様々な課題を解決していくために、自分たちはどうしたらよいかということを中心に考える力の育成につながると考えます。

日本文教出版につきましては、「わたし（たち）の問題」、「学習問題」として単元を貫く問いが示され、単元を通じた追求や解決ができるようになっており、さらに単元の終わりに「さらに考えたい問題」を例示して、学んだことを生かしながら追求する活動を促していると感じます。

分量、装丁ということから考えますと、先ほど繁里委員のご発言にもありましたけれども、東京書籍は2分冊で構成されていることから、ランドセルが重いと感じる子どもたちの負担を軽減することができると思います。一方、社会科という教科の特性上、2冊に共通した内容を学習する際には不便さを感じるという場合があるかなとも思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

山崎委員 よろしく申し上げます。私は、どの教科書が藤沢市の子どもたちに親しみやすいかという点で述べさせていただきます。

和田委員も生活科との関連に触れておられたんですが、子どもたちは、1・2年生のときに生活科の学習で、自分と身近な人や社会、自然について関心をもてるような学習をします。そして、3年生になって社会科が始まると、より具体的に自分たちのまちを調べて、さらに県、国というふうに学びを広げていくと思います。本市には、藤沢市の社会科資料集がありますように、自分の住んでいる地域の理解を深め、気づいたり関心をもったり、愛着をもったりすることが大切だと考えます。

そういった面では、教育出版の教科書には、神奈川県について書かれているページが大変多いと感じました。例えば、3年

生の「わたしたちのまちと市」では、横浜市のことが取り上げられていて、藤沢市の児童にもなじみのあるよこはま動物園ズーラシアが載っていたり、東海道のことに触れられたりしています。

4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っていて、本市の児童がよく社会科見学で行く宮ヶ瀬ダムや寒川浄水場などの記載も見つけることができました。同じく4年生、「昔から今へと続くまちづくり」では、「地域に学校をひらく」という学習を選択できるようになっているのですが、その中で、小笠原東陽のことが取り上げられています。羽鳥村や耕余塾など、なじみの深い言葉も見られました。

5年生の「日本の国土とわたしたちの暮らし」では、藤沢市の八ヶ岳野外体験教室のある長野県南牧村を扱っています。八ヶ岳野外体験教室のプログラムでレタスの収穫体験をしたことがあるのですが、なぜ八ヶ岳でレタス収穫なのか、社会科で身につける知識と実際の体験がつながって、より深い学びにつながると考えられます。自分たちの暮らしとなじみのある場所が教科書に載っているということが児童にとって、より興味関心を持って主体的に学ぶことができるのではないかと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。また全体を通してご意見の付け足し、付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の地図に移ります。では、地図についてご意見をお願いいたします。

宮崎委員 地図につきましては、帝国書院と東京書籍の2者がございます。それぞれがともに編修の基本方針をしっかりと反映してつくられておりまして、必要なことは網羅されていると思います。

帝国書院は、「地図ってなんだろう」、「地図のやくそく」のコーナーで、方位や地図記号、距離の求め方など分かりやすく図式されていて、また、「広く見わたす地図」など全体的に情報を精選した分かりやすい地図になっていると思います。初めて地図を使う3年生にとって、学びやすいという印象をもちました。また、自然災害と防災について解説するコーナーがありまして、「防災マップづくり」の作り方が示されていて、自分たちの住む場所に置き換えて防災マップを作成するという活動ができることから、作業や調べ学習を通じて子どもたちの防災意識の向上に大変効果的だと思います。

東京書籍には「マップでジャンプ」、帝国書院には「地図マスターへの道」というコーナーがあり、子どもの興味関心を引きつけ、自ら調べようとする意欲の向上に効果的だと思います。

帝国書院の「地図マスターへの道」は、学年ごとに学習課題が示されていて、発達段階に合わせて学習を行うことができると考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

山崎委員 私は装丁、表記の観点で話をします。

帝国書院の地図帳は、「広く見わたす地図」「○○地方」「世界」「資料図」「統計」という5つの項目ごとに色分けされています。

また、索引についても、赤太字・赤字・青字・緑字・黒字と5つに色分けされていて、児童が調べたいことを分かりやすく調べられる工夫がされていると感じました。さらに統計につい

でも、8 地方ごとに色分けされていることはもちろんなのですが、「国土」「農林水産業」「工業」「くらしと環境」「おもな伝統工芸品と生産都市」の項目ごとにも色分けがされていて、すっきりと見やすい印象を受けました。それから、全体的に「土地の高さ」「市街地」「田畑」など、土地の使われ方などの色分けが非常に鮮明で、地形的な特色を捉えやすい印象があります。また、イラストや文字、主要道路、鉄道など地図の中にはたくさんの方が入っているのですが、それぞれが工夫を凝らしていて、認識しやすい感じがしました。資料図の項目では、掲載内容を精選して必要な情報がほぼ見開き 1 ページにまとめられていますので、資料集としての役割もしっかりと果たすことができると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

村田委員 私は、学習指導要領の観点から見るというところでお話をします。

2 者とも、児童が地図に興味を持ち、地図帳を使って主体的に学びを進めていきたくなるような工夫がそれぞれになされていると感じました。

東京書籍のほうは、地図やグラフなどの資料とともに、イラストが効果的に使われていて、子どもたちが情報を整理しやすくなっていると思います。社会科で学習する内容とも関連づけ、4 年間を通じて活用できます。特に、自然災害のページは使いやすかったです。

帝国書院のほうは、先ほど宮崎委員も触れていらっしゃいましたが、まず、初めて地図帳を手にする 3 年生の導入のページが秀逸で、とても分かりやすいです。東京書籍と同様に、各学年の社会科の学習で資料として活用できるところも多く見受け

られます。特に調査員調査資料にもあるように、明治時代初期の地図が掲載されていて、過去と現在を比較することができ、6年生が歴史の学習を深める資料として興味深く、期待がもてます。

本市の児童の実態や地域との関わりで申し上げますと、帝国書院には、「高地のくらし」のページに、藤沢市の野外体験教室のある八ヶ岳の資料が載っています。5年生が毎年訪れる場所なので、児童は親しみをもって、また授業で活用できると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

金田委員 私は、子どもがちょうど3年生になりますので、3年生が取り組む上でどうかなという視点で見させていただきました。

東京書籍のほうは、最初のほうで、方位のページで方位磁針の使い方というのは、とても詳しく書かれていました。それから、地図の中の市街地や森林地帯などの色分けが4項目で、色味が少なめで、すっきり地図が見られるなというふうに感じました。ただ、3年生から使うと考えたときに、デジタルコンテンツはちょっと難しいかなと感じたり、あと、例えば斜めから見た地図と上から見た地図のところはすごく細かくて、同じ地図だというイメージがちょっとしづらかなというふうに感じました。

一方、帝国書院のほうは、方位のページが、自分の体を使って方位をとというのが、ちょうどうちの娘が家で、「お母さん、東ってどっち。」と言って、「あっ、うちの庭は南向きだ。」とか、すごく興味をもって、これはどっちが東かな、そして、それがどうなっているのかなというのは、体を使って体感して、身近に感じて、学べていたのかなというふうに感じました。

それから、東京書籍のほうは4項目に分けられていた色分けが、帝国書院は6項目に分かれていて、それが商業地帯なのか、住宅地なのかとか、そういうところが、ぱっと見て分かるので、「ここはお店が多い場所だね」とかというイメージがしやすいなというふうに感じました。あと、やっぱり「広く見わたす地図」のページがあることで、3年生というのは、「あっ、ここにこれがあるのだな」ということがより分かりやすいのではないかなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の算数に移ります。では、算数についてご意見をお願いします。

日置委員 私は、入門期の工夫という観点からお話をさせていただきます。

各者、入門期において楽しく学習に取り組めるように工夫がなされています。スタートブックというような数の基礎的概念を扱うような分冊を扱っているのは、東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版の4者です。どれも40ページほどの薄い分冊になっています。

中でも、東京書籍、大日本図書、啓林館は、大きなA4サイズのワークブックのようになっています、ノートを使わずにこれ1冊で済むため、机上がすっきりして学習に集中できますし、ブロックなどの操作もしやすいと感じました。

とりわけ東京書籍は、数の合成の部分などをとても丁寧を取

り扱っていて、まず目も大きく、書き込みもしやすいと感じました。また、2年生からは各学年、「算数マイノート」というコーナーがあり、ノートづくりに重点を置くことで数学的な見方、考え方の振り返りや深い学びができるように工夫していると感じました。

続いて、学校図書についてお話をいたします。これまで入門期の工夫ということでお話をしてきましたけれども、学校図書は、6年生に「中学へのかけ橋」という分冊がございます。これがとてもいいなと思いました。小学校6年間で見つけた算数の見方・考え方を復習して定着を図るものが半分、残り半分は、発展として中学校で学ぶことの導入が載っています。児童が自分の実態に応じて、個別最適な学びができるような工夫がされていると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

澤野委員 算数は積み重ねの教科なので、学びの連続性を意識して、数学的な見方・考え方を働かせ、目的意識をもって問題解決に取り組む学習を積み重ねることが大切です。知識や技能の定着を図るため、各者とも補充や発展問題を設定しています。問題数や難易度にややばらつきが見られました。中でも、東京書籍は難易度別に設問されていて、ステップアップすることを目指して、意欲的に学習に取り組むことができると考えます。

算数は、学年が進むほど、苦手意識をもつ子どもがいます。各者とも子どもの学びの困難さへの対応について、前学年までに既習内容が分かりやすく示されています。また、振り返り問題として、「確かめよう」や「分かっているかな」などが設定されているのがよいと思います。

啓林館は「めあて」と「まとめ」が同じページに収まるよう

工夫されているので見やすく、スモール・ステップで学びを積み重ねることができると思います。

大日本図書は、紙面が大きく、見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが採用されています。程よい情報量で子どもの苦手意識の軽減につながると思います。

東京書籍の時計の学習では、1ページを使って時計が大きく描かれているので、目盛りが読みやすくなっています。細かな目盛りを読むことが苦手な子どもに対しての配慮が感じられます。また、つまずきが多い單元には「おぼえているかな？」を設定し、スムーズに学習に取り組める工夫が見られてよいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

一瀬委員 私は、学習指導要領との関連、内容・構成という観点からお話をさせていただきます。

まず、教育出版についてですが、全学年にわたって、「はてな？」「なるほど！」「だったら！？」という表示がなされています。児童が課題に出会ったときに、「はてな？」と問いをもち、そして自分なりの考えをもって、また、友達と学び合う中で「なるほど！」と解決し、それをもとに「だったら！？」と、さらに活用したり、新たな問いを持ったりと、問いの連続の中で学習を進めていく構成になっています。このことは、子どもたちの問題発見力、解決力、追求力を育むことにつながると思いました。

また、課題についてですけれども、多くの者がSDGsや環境問題など現代的な課題を取り上げていることは、算数を学びながら社会の変化にも関心を寄せる機会となり、とてもいいなと思いました。

さらに、教育出版についてですが、5年生の「単位量あたりのおおきさ」では、駅で待ち合わせをする際に、算数を使って考える場面を課題としていたり、また2年生の「長さ」では、身の回りのものから長さを見つける場面が課題になっていたり、算数で学んだことを日常場面に結びつけるような課題が随所に設定されています。このように児童の興味をそそるような課題や学んだことをさらに深め、主体的な学びが持続できるような工夫が多く見られました。

また、東京書籍については、単元の導入時で学び合いの場面が分かりやすく設定されています。このことは、児童が教科書を見ただけで多様な考えがあることに気づくことはもちろんですけれども、経験の浅い教師にとっても無理なく学び合いの場面を設定することができ、協働しながら課題を解決するという課程で、深い学びにつながれると考えられます。

次に、分量・装丁・表記等についてお話をさせていただきます。

各者とも、入門期の別冊や学年を分冊にするなどそれぞれの工夫があり、それぞれのよさを感じました。特に、学校図書についてなんですけれども、ワイド判を使用しており、左右がすっきりと開くことができます。書き込んだり定規を使って図形を描いたりする際には、とてもよいなと思いました。

最後に、本市の児童が主導するという視点からお話をさせていただきますと、東京書籍については、全体的に色合いの統一感が感じられ、そのせいか、ぱっと見て行間が広く、刺激が少なく優しい印象を受けました。また、教育出版については、本市の児童にとって身近である横浜市の地図や相模原市の写真など神奈川県内の事例が掲載されていました。このようなことも藤沢の子どもたちの算数への意欲につながるであろうと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

各者とも構成に関して工夫されており、大きな差は見られなかったように思います。東京書籍のように、巻末に「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れて、大変充実させていると思います。

ただ、分量に関していえば、低学年のうちは、できるだけ荷物は軽くして、通学の負担は少なくしたいと考えますので、分冊のほうがよいと思います。東京書籍と学校図書は、1年から5年が分冊で、6年生が1冊。教育出版、啓林館、日本文教出版は、1年から4年が分冊で、5・6年が1冊となっています。

それから、見やすさでいうと、学校図書は、A B判で1ページが広いので見やすいなというふうに思いました。また東京書籍は、一瀬委員も触れていたように、色が厳選されていて、目に優しく、見やすい。それから、重要事項が枠で囲まれており、分かりやすいように工夫がされています。

各者とも、小学校での学習と中学校とのつながりを分かりやすいように示してありますが、特に学校図書は、日置委員も触れていたように、別冊で「中学校へのかけ橋」がありまして、中学での学習がイメージしやすい工夫がされていると思しました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようなので、次の理科に移ります。では、理科についてご意見をお願いします。

川島委員 今回、教科用図書を見るに当たって、理科については、子どもたちの理科離れが進んでいるということがあると思っていて、「知識を詰め込むよりも実験に取り組みたいという気持ちをどのように子どもたちにもたせるか。」そんな観点で、教科用図書を見てみました。

まず、どの者についても言えるのは、実験のページがいろいろ載っているのですけれども、写真であるとか図であるとかが大きく見やすくなっていて、実験の手順も分かりやすくまとめられているなということです。実験をする際に取り組みやすくなっていると思いました。

東京書籍については、実験や観察の手順であるとか器具の使い方や実験方法等の説明が実物の写真等を用いて示されていて、安全に取り組めるかなという感想を持ちました。

大日本図書は、実験のページの字の大きさであるとか色合いであるとか、見やすく分りやすいと感じました。また、順序よく指導するにあたっては、適しているのかなと思いました。この大日本図書については、各校からの評価も高かったです。

それから、理科では実験結果を予想するということがあるのですが、学校図書は、予想するときに、それぞれの学年の発達段階などに合わせた身近な例みたいなものが載っていて、児童が取り組みやすかったり、考えやすかったりということがあるかなと思いました。

教育出版については、なぜこの実験をやるのか、観察をするのかという必然性みたいなものを感じられるような導入になっ

ているという感じがいたしました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

山崎委員 私は、本市の児童の実態や地域等の特性との関連からお話をしたいと思います。

6年生、「土地のつくりと変化」の学習では、大日本図書と啓林館で、地震によって盛り上がった土地の例として、江の島が取り上げられていました。どちらも航空写真が使われていますが、啓林館では裏磯の写真も併せて掲載されていて、藤沢市の児童にとって身近にすばらしい教材があることに気づくことができると思いました。

また、大日本図書では、3年生「自由研究」の「調べたりつくったりしよう」の中に、湘南台文化センターこども館が紹介されていたり、5年生、「科学館・博物館に行ってみよう」で新江ノ島水族館が紹介されていたりします。どちらも藤沢市にある魅力的な場所の一つだと思いますので、教科書で見るだけでなく、実際に夏休みの自由研究などでも利用する児童が増えることが期待されるのではないかなと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

村田委員 私は構成、分量、装丁、表記、表現の観点からお話をさせていただきます。

各者とも、ユニバーサルデザインの視点から、文字や色使いに配慮が見られます。啓林館の教科書は、実線と点線を使い分けて、色覚の個人差を問わず判別しやすく工夫されていると思いました。学校図書は、実験などの一工程ごとに写真や図を対

応させていて、分かりやすい紙面構成になっていると思いました。

理科という教科の特性上、写真については、どの教科書も多用され、視覚的に捉えやすくなっていました。教科書のサイズの違いで印象が変わると感じました。学校図書、教育出版、啓林館は、A4より縦が少し短いA5判で、大日本図書と東京書籍はA4判です。特に大日本図書は、判の大きさを生かして見開きで比較して、子どもが課題を見つけやすいようになっていたり、実験や観察の様子が捉えやすくなっていたり、児童の学びを効果的に支えられると感じました。

それから、各者で神奈川県内の写真が使われていますが、より児童に身近なところでは、啓林館の6年生に「光電池を利用して発電する町」として「Fujisawaサステイナブル・スマートタウン」が掲載されています。また、先ほど山崎委員も触れていらっしやいましたが、大日本図書の6年生の「土地のつくりと変化」に江の島が地震で隆起した例として載っていて、これは市内の小学生が心惹かれる教材になっていると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

堀部委員 私は、ICT機器の活用についてお話しさせていただきます。それぞれどの教科用図書も、プログラミングなどICT機器を扱う場面が用意され、活用しやすいと感じました。

東京書籍は、巻末に「理科とプログラミング」の項目があり、各学年の児童の発達段階に応じた実践例が示されています。

大日本図書は、各ページに2次元コードがあり、道具の使い方や実験動画など、必要なタイミングで視聴することができるようになっております。口頭での説明では理解しにくい児童にとって、視覚的に把握できることは大変有効です。また、タブ

レットの使用方法やプログラミング教育に配慮した資料も掲載されております。

学校図書では、児童が随時動画や資料などを閲覧したり、無料でプログラミングを組んだりできるコンテンツが豊富に用意されております。

教育出版は、観察、実験に関する動画や「ウェブずかん」を2次元コードから閲覧できるようにしたり、ICT機器を扱う場面が分かるようにマークが掲載されております。児童にとっては、学習の振り返りにも活用できる工夫と感じました。

啓林館は、ICT機器の使用例が活用の目的とともに随所に示され、デジタル教材が豊富に活用できるようになっていると思いました。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようですので、次の生活に移ります。それでは、生活についてご意見をお願いいたします。

松川委員 私は、主体的・対話的で深い学びの観点で見させていただきました。

光村図書では、生活は学びの始まりであり、探検というわくわくする気持ちの持続が学びの質と量を高めてくれるという思いで教科書がつくられていると感じました。わくわくできるようなダイナミックな写真やイラストでイメージを広げることができるような紙面となっており、初めて小学校生活が始まる子どもたちが、興味関心をもって新たな生活を探検し、それが学びにつなげられるような構成になっているなど思いました。

また、吹き出しの言葉やヒントを短い言葉で表しており、児童が活動の中で考え、深めるための手がかりや気づきを促すものになっていると感じました。「こんなこともあるかもね」、「こんなのもいいかもよ?」、「こんないいかたもできるよね」など、ヨシタケシンスケさんのイラストで個性的な学びを応援しています。失敗しても、人と違ってもいい、自分の感じたことや思ったことが大事なのだよというメッセージ、一人一人が安心して自分らしい学びができるよう、ユニークな言葉と絵で表現されており、児童に安心感を与えたいと思いました。また、「ひろがるせいかつじてん」が別冊であり、子どものニーズや授業に合わせて組み合わせて活用ができます。単元に即した多様な資料で個の学びに応じることができると思います。上巻の生き物図鑑「きせつのなかまたち」は、野外でも活用できるよう、水や泥に強い加工となっています。写真家、今森光彦さんによる生き生きとした動物の姿は、子どもたちを引きつけると感じました。

大日本図書では、子どもの目線に立ったダイナミックで躍動感のある写真やイラストで子どもの興味関心を刺激し、やってみたい、面白そうなどの活動への意欲や期待を引き出すような紙面表現になっていました。上巻の「ぐんぐんおおきくなるよ」では、A4判になった紙面を生かし、実物大で示したアサガオの成長の様子が掲載されています。児童が自分のアサガオと比べて見ることができ、子どもの観察の視点も広がると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

川島委員 私は、生活の教科用図書を見るときに、1年生が初めて学校に入る、そして生活科で、学校探検であるとか、いろいろなこと

をやるわけです。そこで、生活科に触れる子どもたちの興味とか関心とかという観点で教科用図書を見てみました。

幾つかの者に触れたいと思いますけれども、まず、東京書籍については、単元の導入のページの写真が、すごく分かりやすくなっていると思いました。文字とか写真の全体的なバランスがよくて見やすいと思いました。

また、二次元コードがついているのですけれども、その内容も豊富であると思いました。特に「デジタルいきものずかん」というのがあるのですが、ここについては、数が多く充実しているなと思いました。さらに、ワークシートの記述例が多く載っていて、取り組みやすくつくられていると思いました。

光村図書です。光村図書については、まず、教科書名が「せいかつたんけんたい」というのです。子どもたちが、すごくわくわくするかなと、表紙の絵もそんな感じの絵が載っていて、いいと思います。授業に取り組むときの最初の気持ちというのは、すごく大事であると思いますし、先ほど松川委員もおっしゃっていましたが、イラストなども子どもたちの心をくすぐるようなものになっていると思いました。なかなか興味深い教科書でした。また、夏休みに行ってみたい場所ということで江の島の写真が載っていたりして、子どもたちが身近に感じる事ができるかなと思いました。

学校図書です。学校図書については、判の形がA4判の変形型、AB判を使っています。教科書をぱっと開いたときに、大きさとして、幅はほかの教科書と変わらないはずなのですが、何かすごく大きく見やすい気がしました。この本の中には4人の登場人物が出てくるのですが、この人たちが全て吹き出しを使って、子どもの学習のきっかけをつくっているというところが、いいと思いながら見ました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。

堀部委員 私のほうからは、観点2の分量・装丁・表記等についてお話しさせていただきます。

教科書のサイズですが、啓林館はA B判を採用され、児童にとりましては、教科書を開いたときに全体を把握しやすく、大変見やすいと感じました。入門期の児童には、ページをめくりやすいよう、丸く裁断する配慮がなされております。また、絵や写真が多く使われていますので、ページ数は多いですが、児童にとっては取り組みやすいと感じました。

東京書籍は文字が少なく、柔らかいタッチでのイラストで、手洗いマークや約束事など、同じ位置に配置され、大変見やすいレイアウトになっており、学びのプロセスを下段に表示しているのも、見通しをもって学習できる工夫がなされております。また、川島委員もデジタル図鑑について触れていましたが、上巻巻末には「ほんとうのおおきさ いきものずかん」のページがございます。紙面による図鑑とデジタル図鑑があり、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができますので、児童の意欲と学びを深められると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

和田委員 私は、幼児期の教育との連携、接続という視点で話していきたいと思います。

教育出版の上巻、「はじめのいっぽ」では、ページの上段に小学校で学習すること、下段に入学前からしていたことが示されています。それを見比べることで、新しく始まる学習に目を向ける工夫がなされていると感じました。

また、東京書籍の上巻、「どきどきわくわく1ねんせい」では、教室、友達、学校と、関わる人や場所が徐々に広げられていて、

児童が安心して学校生活に慣れていけるような流れになっていると思いました。この東京書籍上巻の巻末には、先ほど堀部委員からもありましたが、「ほんとうのおおきさ いきものずかん」がついており、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができるといった点で使いやすい工夫であると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

柴山委員 全体的な感想みたいになってしまうかもしれないんですが、それぞれの教科書にキャラクターが、それぞれ親しみやすく載っていて、子どもたちが本当に興味をそそられるような教科書に全体的になっているなと思いました。やはり画像がばんと載っていて、本当に1・2年生は、入学後、学校のことをするだけで一生懸命なので、単純にそういう教科書、画像だけでぱっと見られるというのは、とてもいいなと感じています。

また、2次元コードが、どこにも色々たくさんあって、それは先生方の活用次第だとは思いますが、やっぱり実体験というか、匂いだったりとか、花だったりとかを摘んだりとか、そういうことをいっぱいしてほしいので、2次元コードに頼らないというのか、そのような形で進んでいけたら、とてもいいのかなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、生活までの審議が終わりました。会議が始まりまして1時間以上がたちましたので、ここで10分間ほど休憩としたいと思います。

委員長 それでは、ただいまより審議を再開いたします。

生活科まで終わりましたので、音楽から審議をしてまいります。音楽についてご意見をお願いします。

金田委員 私は、子どもが学校で学び、それが家庭に持って帰ってきたときに、また親とどんなふうに取り組めるか、意外と「お母さん、この歌知ってる？」とか、「この歌一緒に歌って」とか言われたりするのです、そういう点からも考えて見てみました。

やっぱりどちらもとても2次元コードを使っていて、知っている曲も知らない曲も音が分かるという意味では、子どもと一緒に楽しめそうだなというふうに思いましたし、子どもが「ちょっと忘れちゃったんだけど、こんな感じ？」というところは、おうちでも、「あっ、これだったね」と分かるところが楽しめるかなというふうに思いました。

1年生の教科書のところで、2者でちょっと違うなと感じたところがあったので、お話しさせてください。

鍵盤ハーモニカの構え方のところについて、教育芸術社のほうは、1面でぱっと見て、そこにまとめられて記載されていました。教育出版のほうは段階を経て、構え方も幾つか、3パターンぐらいに分かれて表記されていました。

あと、本編と振り返りのページが教育芸術社にはあって、それは本編と振り返りのページのイラストが共通していたので、あとはこのページのことだよという記載があったので、これってどういうことだったかなと振り返るときに、とても振り返りをしやすいなというふうに感じました。一方、教育出版社のほうは、本編とまとめのところのイラストが全然違うものだった

たり、表記の仕方も違ったりしていたので、これはイメージがちょっとしづらいかなというふうに感じました。

あと、これはすごく細かいことなのですが、鍵盤ハーモニカの構え方の手の形の表記が、教育芸術社は、“指を軽く曲げましょう”だったのです。教育出版社のほうは、“ミカンをつかむようなかんじで”という表記だったんですね。1年生にとって、ミカンをつかむようになると、こうなっちゃうと私は思って、実際、うちの3年と中1のピアノをやっている子どもたちに、同じこのままの言葉でピアノの上に置いてみてと言ったときに、やっぱり“ミカンをつかむように”というところだと、「えっ、指が中に入っちゃって、これじゃ駄目じゃない」と実際に言ったので、1年生にミカンをつかむようにというイメージが、指のタッチポイントというんですか、ここをちゃんと使って弾く形になるように伝わるのかなというのがちょっと気になりました。

あと、教育芸術社の裏表紙のほうに、子どもたちが活躍している地域芸能の写真がぱっと載っていて、それはすごく、あっ、何か子どもがやっているみたいな裏表紙にも興味関心をもてる部分があったので、楽しい教科書だなというふうに感じました。以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

澤野委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

音楽の学習では、歌唱と合わせて器楽も大事な表現活動の一つです。1年生で鍵盤ハーモニカ、3年生でリコーダーを初めて取り扱いますが、2者ともに実物大に近い写真を使って、正しい持ち方や使い方の習得につながるような工夫がされています。特に教育出版社では、1年生の鍵盤ハーモニカを使うペー

ジが 8 ページにわたっており、初めて触れる楽器が大きな写真を使って丁寧に説明されています。確実に演奏するための基礎基本の定着を図ることができると思いました。教育芸術社は、写真に加えて分かりやすいイラストを使っています。紙面がすっきりとして、見やすいと感じました。

また、教育出版の歌唱共通教材のページの写真は、とても美しく、歌詞や曲調など教材の世界観が広がり、日本の自然や四季の美しさを感じ取れるものとなっています。情景をイメージしながら歌うのに有効だと考えます。教育芸術社は、図形楽譜を用いることで、感覚的、視覚的に楽曲を捉えやすくなり、教材のよさを味わいながら学びを進めていける点が優れていると感じました。音の高さを縦に表して、音の高低を可視化するなどの工夫もされています。また、写真の中に入っている歌詞や文章の配置や文字の色など、細部にわたって見やすいよう配慮されているところもよいと感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

松川委員 子どもたちが音楽の学習において、日本の伝統音楽のよさや特徴を実感して日本の文化として伝承していくことは、ほかの国や文化のよさにも目を向けることにつながると考えます。しかし、伝統音楽というと、あまりなじみがないという印象をもつ子どもも多いと思います。そういった観点から、2者の日本の郷土や伝統音楽を扱う題材を見てみました。どちらも子どもたちの身近なところにわらべ歌などの日本らしい音楽文化があることに気づき、そこから出発して日本の伝統音楽へと展開するような工夫がされていました。

教育出版は、箏、尺八、篠笛など日本の楽器についても触れています。伝統芸能や民謡に関しては、実際に歌ったり、口唱歌を活用したりすることにより、演奏や曲の特徴などに気づき

ながら親しむことができるように配慮されていると思いました。

教育芸術社の5年生では、生活に関わりが深い民謡の比較鑑賞を通して日本の民謡に親しむとともに、子どもたちの興味関心に応じて調べ学習ができる資料ページが設けてあり、主体的で深い学びにもつながると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

繁里委員 どちらの教科書も、音楽活動の楽しさを体験することを通して音楽が好きになり、音楽に対する感性が育まれるための工夫が見られまして、児童が音楽的な見方・考え方を働かせて、生活の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指していると思いました。

教育出版は、音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として掲載して、音楽のよさを捉えるように工夫しています。また、様々な時代や曲種を選んで、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるような教材選定をしていました。

教育芸術社は、音楽を形づくっている要素を教材ごとに示し、児童の発達段階を考慮した音域や歌詞の内容を吟味した教材、児童にとってなじみのある教材などを選定しているため、児童が自信をもって学べるのではないかと思います。また、「考える」「見つける」などのアイコンを示しまして、児童一人ひとりが学習の見通しをもって主体的に学べるようになっていたり、キャラクターの吹き出しが学びを進めるヒントとなっていて、学習の目標に自然と迫れるようになっております。本市の児童にとって、自ら学びを進める手がかりが多くあり、興味をもって学習に取り組めるのではないかと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますでしょうか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の図工に移ります。図工についてご意見をお願いいたします。

柴山委員 図工ですが、2者、開隆堂さんと日本文教出版さんから出ておりますが、レイアウトが開隆堂さんはすごく分かりやすく、図工の材料に関しても上に載せているんですが、日本文教出版さんも、下に載せてはいるんですけども、絵柄なのか、レイアウトがぱっと見たときに、すごく開隆堂さんはしっかり目に入るというか、分かりやすいなと感じました。材料についても、ちゃんと明確に開隆堂さんは書いておりました、そこは子どもたちもすぐに分かりやすく、何をそろえたらいいのかというのがすごく分かりやすいなと感じました。やっぱりレイアウトが開隆堂さんはすごく見やすいなと個人的にとっても思いました。

 以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございませんでしょうか。

宮崎委員 開隆堂も日本文教出版も、2者ともに楽しそうに作品を作る子どもたちの姿ですとか、制作工程の写真が大変効果的に用いられていまして、子どもたちの創作意欲を自然に引き出す工夫がされているなと感じました。

 学習指導要領との関連という点で申し上げますと、開隆堂は

「わくわくするね」、「みつけたよ」の題字のとおり、身近な題材が作品になったり、子どもたちが初めて触れるであろう用具があつたりと、造形表現の楽しさ、面白さを感じて、やってみたいという気持ちを高め、子どもたちが主体的に学習に取り組む中で豊かな感性を磨いていくことに効果的だなと感じました。

日本文教出版には、1年生のところで、幼児期の造形活動の振り返りを掲載するページがあります。また、5・6年生では、中学校の美術科や技術科につながっていくような題材が掲載されていることから、幼児期から中学校教育までの学びの連続性が期待できるというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

堀部委員 開隆堂、日本文教出版、両者とも伸び伸びとした作品が多く、発想を広げ、自由に表現、制作する楽しさを感じることができます。

日本文教出版では、掲載されている作品の幅が広く、色合いも大変美しいので、様々にイメージを膨らますことができます。創造性を培うことで、児童それぞれの個性と能力を伸ばすことができます。また、「受けつがれてきた形」では、日本で受け継がれてきた美術、工芸品が紹介されており、これらを鑑賞することで、形や色だけでなく新たな視点で物を見る力を伸ばし、自分の作品に生かすことで興味や関心を高め、児童の意欲につながると感じました。日本の文化、伝統を知ること、6年生社会での歴史の学習にもつながり、学びをさらに深められます。

開隆堂では、生き生きと作品づくりに取り組む児童の姿や参考となる吹き出しがあり、児童の意欲と自主性が育成できると感じました。5・6年下巻「みんなのギャラリー」では、地域

の特性を生かした造形活動が取り上げられております。すずりや江戸扇子等、日本の伝統の技を職人に児童が教えてもらう様子が掲載されていることで、「自分たち小学生でもできるんだ」「挑戦したい」と意欲につながられ、鑑賞と表現を関連づけて学ぶことができる工夫がされていると思われました。また、地元の工芸品という視点で取り上げたことで、本市の児童の場合は、鎌倉彫や寄木細工等、工芸品の美しさやよさと関心を高めるよい機会になると感じました。また、1・2年下巻では、お隣の茅ヶ崎市での砂の造形遊びが紹介されております。本市でも、海が近い小学校では同じように砂の造形遊びを行っているので、より身近に感じられると思われました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

松川委員 私は、主体的・対話的で深い学びについての観点で見させていただきました。

開隆堂は、児童に育成したい資質・能力の3つの柱を「くふうさん」、「ひらめきさん」、「こころさん」というキャラクターで示してあり、このキャラクターが各題材で中心的な目標として児童が捉え、学習を深めるような役割を果たしており、児童にとって親しみやすく分かりやすいものになっています。学習のめあてが明確で、育てたい資質・能力がはっきり分かり、児童が活動に取り組みやすいとともに、指導しやすい構成となっているなど感じました。

一方、日本文教出版では、児童の意欲を引き出す図版や投げかけにより好奇心を引き出し、主体的・対話的で深い学びとなるような構成となっているなど感じました。学習の見通しをもち、活動を振り返ることができるよう、「学習のめあて」「ふりかえり」2つの「ヒント」と、4つの投げかけをしています。そして、表現や鑑賞を関連させながら、造形的な見方・考え方

を働かせる学び方を示しているのです、児童にとって学習の進め方が分かりやすいと感じました。ICT活用できるものがたくさんありますが、中でも体と心をほぐす「ずこうたいそう」があります。造形的な見方・考え方を働かせながら、子どもたち一人一人が自身の思いや考えを基に創造していくときに、リラックスして体全体の感覚を働かせたり、想像したりしながら、体と心をほぐして授業に向かう気持ちをつくることができると思いました。オリエンテーションや友達との関係づくりにも活用でき、児童も楽しみながらリラックスすることができ、その後の創作活動によい影響を促すと思いました。

開隆堂では、題材の下部に2次元コードがあり、タブレット端末を活用して、映像で用具や技法についてや学習内容を確認したり、ワークシートを使って発想や構想を広げたりすることができ、学習を深めることができます。また、「つながる造形」のページがありました。学校内の身近な他者を意識した活動から、学年を追うごとに扱うテーマを社会全体に広げていく構成になっていたり、SDGsに関わる内容も取り扱っており、学習を広げ、深めることができると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようですので、次の家庭科に移ります。では、家庭科についてご意見をお願いします。

日置委員 家庭科は、東京書籍と開隆堂の2者です。どちらの教科書も

写真やイラストを多用して、児童の理解を深めるような工夫がされていると感じました。

東京書籍については、児童が見通しをもって課題に取り組めるように、各題材が「1. 課題発見」「2. 課題解決・実践」「3. 評価・改善の流れ」で構成されています。特に、「ステップ3」では、児童が進んで生活に関わっていく投げかけがとてもよいと思いました。また、「深めよう」のコーナーがあり、発展的課題について考えることで、課題解決力の獲得ができ、学びに向かう力の涵養が期待できます。

開隆堂は、生活の見方・考え方、4つの視点をクローバーの葉で表して、単元ごとに重視する視点を視覚的に分かりやすく示すことで、児童が学習に見通しをもって取り組めるように工夫されています。学びを深める際にも、この4つの視点を意識した実践例を挙げていて、児童にとって、課題発見や解決を見いだすためのきっかけとして有効であると思いました。また、各ページの下部に「豆知識」があり、児童が興味をもちそうな小話や役立つアドバイスなどが書かれていて、学習への意欲を高めていると感じました。

どちらの教科書も2次元コードを活用し、動画で運針や調理などを見ることができます。児童が自己の学びに必要な部分を視聴して、作業を確認したり、応用に生かしたり等、それぞれの実態に応じて個別最適な学習を実践できるようになっていると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私はまず、表記、装丁の観点からお話ししたいと思います。

2者とも写真やイラストが多く使われていて、見やすく、分かりやすくつくられています。東京書籍は、クッキングのところで、野菜の切り方とともに、切るサイズと実物大の写真を巻

末に載せてあって、大変分かりやすいつくりになっています。開隆堂も、裁縫のページでは、大きい写真が使用されていて、分かりやすいです。そして、写真では分かりにくい部分は、イラストで示してあって、児童が理解しやすいように工夫がされています。

次に、中学校との関連についてということでお話をします。東京書籍は、関連する内容にマークをつけてあって、6年生の最後には2年間のまとめのページを設定してあります。なので、学年間や中学校への接続がスムーズになるよう配慮されていると感じました。開隆堂は、2年間でまとめて振り返り、中学校への学習につなげるページが設定されています。児童は、中学校への学習に期待が高まり、また、教員にとっても、中学校との連携が意識できる、そういったつくりになっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんでしょうか。

一瀬委員 私は、藤沢市の子どもたちが教科書を使用した場合という視点でお話をさせていただきます。

両者とも、家庭科の実習でとても大切な安全面、衛生面については、随所で様々な工夫をしながら触れられていると思いました。

特に東京書籍ですけれども、「いつも確かめよう」というコーナーをつくってあって、安全マークを目立たせながらポイントを示しています。ガスコンロの使い方やミシンの使い方では、大きめのイラストや写真を用いて、とても分かりやすく説明されていました。教師から子どもたちに全体での指導をするときに、指導のしやすさもあると思いますが、改めて子どもたち一

人ひとりが実習をするときに、教科書で確認しながら取り組むことができ、実習の作業をより安全に実施することができる、そういったことにつながると思いました。

また、開隆堂については、「生活を支える物やお金」という題材がありますが、ここでは児童にとって身近で興味深いショッピングモールが取り上げられていました。実際の場面を容易に想起しながら、自身の生活を振り返ったり、実際の買物場面での活用につながったりすると思いました。また、同じく開隆堂では、制作や調理の例が複数掲載されておりました。そういったことが、とてもよいなと思いました。児童の実態に合わせて選択できる、こういったことは、どの子にとっても充実感や達成感につながれると考えました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見がないようですので、次の保健に移ります。保健についてご意見をお願いします。

山崎委員 私は、学習指導要領との関連や内容・構成などの観点から話をしたいと思えます。

どの教科用図書も、学習指導要領に準じて学ぶべきことがしっかりと身につくように学習課程を示していたり、教科書に直接書き込めるようにしていたり、よく考えられた教科用図書だと思えました。絵や写真も多く、児童がイメージしやすい工夫も見られました。また、体育科の目標である心と体を一体と捉え、生涯にわたって健康の保持増進と楽しく明るい生活を営む

態度を育てることを目指して、学んだことを自分たちの生活に生かすことができるような工夫がされていると感じました。

その中で、学研と光文書院なんですけれども、学習の進め方が分かりやすいと感じました。

学研については、単元の一冊初めのページに学習の進め方を3段階で表しています。そして、見開き1ページを使って、児童が自分事として捉えられるように工夫しています。2段階目では、課題について話し合ったり、調べたりできるようになっていて、3段階目では、学習したことを自分たちの生活に返して、生かしていこうという流れになっています。

光文書院は、「見つけよう」、「考えよう」、「話し合おう」、「調べよう」、「生かそう」というように、単元によって多少の違いはあるんですが、児童が今は何をすればよいのか、何を学ぶ時間なのか分かるように記載されていて、例えば3年生の学習の中に、「けんこうな生活」という大単元があるんですが、学研では、「もっと！知りたい・調べたい」、光文書院では、「さらに広げよう 深めよう」というタイトルで掲載されています。非常に発展的な内容も充実しているので、自分たちの生活に直結する学習として生きる知識をしっかりと育むことができるのではないかなというふうに考えました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

川島委員 今、山崎委員からすごく具体的なお話があって、私が話しているかなと思ったりもしているのですけれども、体育という授業は、そもそも子どもたちは、体育館であるとか屋外であるとかで、体いっぱい使って運動するというのを想定しています。それが保健という授業になったときに、座学になるわけです。そこで、座学になっても、子どもたちが興味をもって取り組め

る。そんな教科書であってほしいなという思いを持ちながら、教科用図書を見てみました。

先ほど生活科のときにもお話をしたのですが、どの教科用図書もイラストがふんだんに使用されていたりとか、あと2次元コードが多く使われていたりとか、というところに関しては、興味をもつという意味では工夫をされていると思いました。

東京書籍ですけれども、東京書籍については、記入用のスペースが多めに設けられていて、教科書そのものがワークシートを兼ねられるというような感じになっていました。どの教科用図書も比較的書きやすくなっているのですけれども、東京書籍については、そのようなことを感じました。

大日本図書ですけれども、先ほど山崎委員からも、色々お話がありましたが、各章の終わりに「もっと知りたい」というところがあって、資料が追加されています。そういうところは、子どもたちの見方とか考え方を広げる工夫になっていると思いました。

それから、光文書院ですけれども、各単元の導入のところで、児童の学ぼうという気持ちを上手に引き出すようなつくりになっているという感じがしました。また、後ろの発展のページのところでも、広げよう、深めようというところがあって、そこはさらに子どもたちに広い知識が獲得できるような工夫がされていると思いました。

学研については、今まで使っていたこともあるのか、学校とか調査員の皆さんからの支持も非常に多かったです。確かに、資料であるとか、データであるとか、そういったものが本当に学習に必要なものにぎゅっと上手に凝縮されているようで、焦点化がしやすかったりとかするのかなと思いました。イラストなども児童に比較的身近なのかなと思ったりして、子どもたちが主体的に学習に取り組むというところの要素は多いかなと思いました。また、5・6年の教科用図書には、藤沢の「こども

110番」の写真が載っていて、学習の際には学習意欲が高まるのではないかと思いました。

次に、大修館ですけれども、全体的に見たときに配色に工夫があると思いました。また、比較的教科書の余白が多くて、記述するスペースが大きくなっているのも、書き込み等はしやすいかなと思いました。さらに、この大修館の教科書にも、藤沢市で使われている「スクールゾーン」の写真や「敷地内禁煙」の写真が載ってまして、子どもたちが学ぶ際には、これ見たことあるとかということで、学習意欲が高まるかなと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

一瀬委員 私も、構成や装丁についてお話をさせていただきます。

どの者についても、現在の子どもたちの生活に合ったイラストや美しい写真で構成されていまして、文字とイラストのバランスが、とてもいいなというふうに感じました。文字の色遣いについても様々に工夫されているんですけれども、特に光文書院と大修館では、課題の記載がほかの表記よりもとても分かりやすい色遣いになっているなと感じました。今日の学習の課題が何なのかというのが、子どもたちにとって、一目で確認できると思います。焦点を絞った学習につながるのではないかなというふうに感じました。また、学研のイラスト使いなのですから、児童の生活に寄り添った身近な題材が様々なところで選ばれているなというふうに感じました。

それから、先ほど川島委員のお話にもあったのですけれども、教科書のところどころに設けられた記述欄ですね。実際に子どもが書き込めるような欄があるのですが、特に大修館はゆとりをもったスペースで構成していると思いました。小さい文字を

書くことが苦手な児童であっても、書き込みやすいスペースが確保されているなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見がないようなので、次の英語に移ります。英語についてご意見をお願いします。

金田委員 息子が5年、6年と英語をやっている、大変難しい内容をやっているなと思ったので、教科書をいろいろ見比べてみたいと思って、見させていただきました。

どの教科書も、イラストは優しい色なんだけれども、カラフルであったり、いろんな世界の写真があったりと、グローバルな意識をもてるような内容が多いなというふうにして、それはどれもいいなというふうに感じました。その中で幾つか各者、面白いなと思ったところを少しお話させてください。

東京書籍さんのほうは、デジタルコンテンツの中で、先生役の人物だけがぱっと映って、正面から映って、その人が話す表情とか口の動きとかにすごく集中して見られる部分があって、それはとてもいいのではないかなというふうに感じました。あと、様々な形式でたくさん書き込みをしていくので、自分の教科書ができ上がっていくような感じが面白いなというふうに思いました。別冊の「My Picture Dictionary」の中に、ローマ字一覧表が載っていました。ほかの出版社さんのローマ字一覧表は、教科書の後ろについているものが多かったんですね。ローマ字は意外と間違いが多くて、見返ししながら書くと、結構ケア

レスミスが起きやすいかなと思って、別冊で置いて、こことここを見て書くというほうが、子どもが取り組みやすいのではないかなと思って、ここはとてもいいところだなというふうに感じました。

開隆堂さんのほうなんですけれども、「Word Book」という別冊のものがとてもシンプルで分かりやすく、教科書対応以外でも大分使いやすい、そのあたりも使いやすいところは、とてもいいなというふうに思いました。それから、「CAN-DOチェック」という自分の学習が全編一覧になって見られるところが、1年間、自分がどんなふうにしたかなという振り返りにもなっていて面白そうだなというふうに感じました。

三省堂さんのほうは、別冊のほうに本編との関連のページ数が記載されていたりして、振り返りにとても便利そうだなと思ったのと、あと会話とかライティングが中心の中に、「Story Time」というところがあって、英語で物語を聞く、耳を傾けるという時間があるというのは、心が落ち着くような時間になって、また別の英語の楽しみ方ができるのではないかなというふうに感じました。

教育出版のほうは、シールやカードゲームなどたくさんありました。お友達と一緒に、今は大分活動できるようになってきたと思うので、こういうのをたくさん活用して、自分のことを表現するのもそうだけれども、英語を本当に楽しむところをいっぱいできるのはいいなというふうに感じました。

光村図書さんのほうは、活動をマークとして表記していて、今、自分が書くこの行がどういう目的でやるというのがぱっと見て分かりやすいと思いました。あと、すごく世界の国々の紹介の写真が多くて興味深かったです。

啓林館のほうは、アルファベットのライティングのところが興味深くて、ABCというアルファベット順ではなくて、この線に書くアルファベットはこれなので、このページではそれ

を練習しましょうとか、順番ではなくて、アルファベットを書く、ここを注意しましょうと。意外と子どもは、はみ出しちゃったりすることが多くて、息子は、今、中学校でも下が出ちゃって、これは「a」じゃなくて「q」と言われちゃったとかがあるので、そこがすごく大事だよというところを気づきながら学習できるなどと思って、そこはとても工夫があって、面白かったです。あと、デジタルコンテンツのところは、会話とともに、カラオケのように色が一緒に同時に変わっていくところが、他者はあまりそれがなかったのも、リズムじゃないですけども、話すときと文字の動きが連動していて、ちょっと見ていて面白いなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

深津委員 英語は6者ありますけれども、各者とも小学校学習指導要領の要点を踏まえて、英語の4機能、5領域について目標が達せられるように、よく構成されています。英語のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を児童が楽しみながら身につけられるように、様々な活動や、それらに伴う巻末のカードとかシートなどについても、非常に使いやすく、工夫されていると思いました。また、「Picture Dictionary」があり、日本語を介さず単語を理解させたり、使用場面を考えて、単語の使い方を分かりやすく示していたりするので、的確に理解させ、表現力を育むのに期待できると思いました。

中でも、私は内容・構成の点から見て、東京書籍と光村図書出版がいいなと思いました。東京書籍では、基礎基本の定着も意識されていて、スモール・ステップで進んでおり、英語学習の観点に沿った学びの構成が整理されていると感じました。また、市の調査資料にもありますように、書く活動が多く、4技

能をバランスよく育成できると考えます。それから、光村図書出版は、先ほど金田委員が触れていらっしやいましたが、5年生から単元に沿った言語内容を用いた「世界の紹介」のページがあります。世界を身近に感じ、自然に世界に興味を持てる構成になっています。そして、2者とも初期の英語学習で自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れがとても自然で、親しみやすい活動場面が想定されているのがよいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。

村田委員 私は、2次元コードと音声や映像を使った学び方という観点でお話をさせていただきます。

2次元コードについては、ほかの教科でも随所で見られておりますが、英語では、教科の特性から効果的な活用が望まれるところだと思えます。調査員の調査資料にあるとおり、各者それぞれにデジタル教材にも工夫が見られます。

啓林館のデジタル教材は、音声と同時に英語の字幕が出るようになっていて、耳で聞きながら文字を追うことができます。3・4年生の外国語活動では、なれ親しんできた英語の音声ですが、それを5・6年生の外国語の学習で文字につなげて理解する上で、効果的な活用ができると思えます。光村図書は、字幕のありなしを選択できるので、目的に合わせた活用ができますし、東京書籍は、デジタル教材に字幕ボタンや繰り返しボタンがついているので、より幅広い活用の仕方が考えられると思えます。

本市の児童にとっての興味関心という点でいうと、なじみのある江の島、鎌倉や横浜が各者の教科書に掲載されています。

また、三省堂と教育出版には、国語で2年生のときに学習し

た「スーホの白い馬」、「お手紙」という物語がそれぞれ掲載されていて、親しみを覚えながら、また少し違った視点で英語の学習ができそうだと感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

松川委員 小学校では、3・4年生の外国語活動で聞くこと、話すことを中心とした活動を通じて、外国語になれ親しむことや学習への動機を高めるということに取り組んでいます。5年生からは、文字を読むこと、書くことが加わり、総合的、系統的に扱う教科学習になってきます。5年生の英語は教科の入り口となるわけですから、段階的に英語の表記が増えていくような教科書が児童にとって抵抗感が少なく、新たな教科の導入ができるのではないかというふうに考えます。

光村図書では、各学年に3つのテーマを設定し、学ぶことを明確にしています。導入期に当たる5年生は、自分のこと、身近な人のこと、地域のこと、6年生では、日本のこと、世界のこと、将来、未来のことというように、身近なものから次第にテーマが広がっていくようになっており、子どもたちが無理なく学習が進められるのではないかと考えます。

東京書籍は、3・4年生の外国語活動で使用していた「Let's Try!」でなれ親しんできた言語材料と冒頭の「Let's start!」などで取り上げているので、5年生にスムーズに接続できるようになっていると感じました。また、「Sounds and Letters」という読み書き指導のページを各単元末に設定されていました。

2年間を通じて文字の名前から音、文へと無理なく学習することができるようになっていたと思います。5年生では、文字の名前の定着から始め、徐々に文字の音へと、なれ親しませるようになっていきます。「My Picture Dictionary」の巻末にある「Letter Images」は、イメージを通じて文字の形や音を思い

出すヒントにもなっていると思いました。２次元コードを読み込むとアニメーションになっており、子どもたちがよりイメージを持ちやすくなっているとも感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

一瀬委員 私のほうから、構成について少しお話をさせていただきます。各者とも、児童の学びがスムーズに進むように大変工夫されているなと感じました。特に光村図書では、その学年でできるようになることを示した「CAN-DO」が複数の「Unit」に程よくまたがって構成されているなと感じました。そのことによって、学びを進める中で、何度か同じ「CAN-DO」に触れることになり、振り返りにも活用することができ、学習の定着につながると思いました。また、同じく光村図書ですけれども、各単元にスマールアクティビティの例示に加えて、「Plus One」として応用編も掲載されています。児童の実態に合わせながら学習活動を考えることができるので、授業者にとっても使いやすいのではないかなと感じました。

一方、啓林館ですけれども、５年生のアルファベットを書く学習が、学年の後半からスタートしています。文字を書くということに慣れていない児童にとっては、まず発音するということを楽しみ、味わいながら、その後、少しずつ文字を書くということに慣れていくといった構成は、とても取り組みやすいのではないかなというふうに思いました。

次に、藤沢市の子どもたちが使う教科書という視点で考えた場合ですけれども、教育出版や啓林館では、先ほど村田委員のほうからもありましたけれども、本市の児童にとって大変身近な鎌倉の大仏や横浜の中華街などに触れられていました。また、ほかの教科書でも、修学旅行で訪れる日光や藤沢市に關係の深

い、海での活動などが取り上げられていました。やはり子どもたちにとって親しみのある、特に地元であれば、なおさらなのですけれども、そういった地域の写真や内容が取り上げられているだけで、英語を学習しようという興味や関心、意欲につながっていくのではないかなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、小学校の段階で最も重要なことは、英語の音声や文字に慣れ親しむということ、そして、何よりも英語を使うことを楽しむという姿勢を身につけることだというふうに思っています。日本で生活していると、実生活では特に英語を使用する必要がありませんが、そういう環境にある児童に実用的な英語による運用能力を身につけさせるためには、まず、授業の中で目的をもって、実際に英語を使う必然性のある場面や状況をきちんと設定する。そして、英語で伝え合える喜びを実感させることがとても大切だと思います。そうすることによって、授業以外のところでも英語を使ってみたりとか、自分でもっともっと学んでみたりするという意欲を持たせることができます。

そういう点で教科書を見たときに、東京書籍と光村図書出版が非常にうまく構成されているなと思いました。習得させたい表現や文法が優先されて、流れとしてあまり脈絡なく並んでいるより、2年間の教科書のレッスンの並べ方が、2年間の流れというものが意識されているということは大事だというふうに思いまして、この2者はそこが意識されてつくられていると感じました。

先ほど、松川委員も触れていましたけれども、この2者については、まず自分のこと、そして身の回りのこと、地域のこと、日本のこと、世界のこと、さらに自分の未来のことという流れ

で並んでいます。そういうことが実際に英語を使えるようになっていく自分であるとか、英語によって広がっていく世界をイメージしやすいと思います。

特に、東京書籍については、2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させて表現させている、そういう点が優れていると思います。また、別冊で「My Picture Dictionary」があり、語彙とか基本文型がまとまっていて、英語の基礎の習得であるとか、表現活動に大変有効であるというふうに感じました。同じように、他者でも、例えば開隆堂では「Word Book」、三省堂では「My Dictionary」、光村図書出版は巻末に取り外せる「Picture Dictionary」があります。そういったものは、児童はもちろん、小学校の先生方にとっても使いやすいのではないかと思いました。

それから、2次元コードを用いてスマートフォンやタブレットなどで、音声や映像が繰り返し視聴できる工夫についても、外国語の習得という観点から見ると、大変効果的だと思いますし、大切なことだと思います。その点でも、東京書籍は充実していると思いました。実際の人物が発音している表情を映したり、発音時の口の動きなどを見ることができます。映像も実写やアニメなど様々で多岐にわたっていて、内容が優れていると思いました。

最後に、デジタル教科書についてお話しさせていただきます。デジタル教科書は、各者それぞれ特徴があります。操作のしやすさというところでは、東京書籍、三省堂は、該当箇所をクリックすると拡大できるところ、教育出版は単語をクリックすると音声が行くところが使いやすいと感じました。また、啓林館は、ページ一覧があって、目的のページを開きやすいところが便利だと感じました。それから、開隆堂と教育出版は、学習者支援のページがあり、文字が拡大されたり、文字にカーソルを合わせてクリックすると音声が行くので、見ることに不自

由を感じる生徒にも配慮がされていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見が無いようですので、次の道徳に移ります。道徳について、ご意見をお願いします。

澤野委員 道徳の授業では、子どもが自分自身の生き方を常に見つめていくことが大切です。ふだんの自分の考えや言動について振り返り、「こんなとき、自分ならどうするだろう」とか、「命を大事にするというのはどういうことなんだろう」などのように、考え、議論する道徳につながるように、各者とも工夫されています。

光文書院では、特に考えさせたい内容を重点主題として取り上げ、子どもが多面的・多角的に深く考えられるような構成になっています。扉ページで重点主題に即した問いをまず子どもに問いかけてから、主題に関する複数の教材を連続的に取り扱うことで、子どもが問題意識をもって深く考える力を身につけることができるのではないかと思います。

光村図書出版では、自分の考えを表すときや友達の考えを受け止めるときの言い方が全学年で具体的に示されており、話し合いに参加することが苦手な児童への配慮が感じられます。市の調査資料にもありますが、日本文教出版は、別冊で道徳ノートがついています。自由記述のノートなので、指導者が児童に考えさせたいことを設定できるようになっています。ノートに書いたことを基に話し合ったり、友達の意見を書き留めたりす

る中で、学びが深まっていくことが期待できます。また、形に残るので、評価の際にも役立ちます。それに対して、光村図書出版では、巻末に「学びの記録」が設定されています。二、三文程度のスペースなので、無理なく書くことができ、自分の考えを振り返り、評価することもできます。また、環境に配慮した紙を使用しているので、紙面の色が白過ぎず、目に優しく感じるのもよいと思います。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

和田委員 私は、いじめ防止について考える教材を通して、それぞれの工夫について見ていきました。

5年生では、教育出版においてSNSでのいじめを取り扱っており、問題が起きやすい5年生という時期に扱うのによい題材だなと感じました。

東京書籍では、友達のよいところを探す活動を取り入れておりました。この活動もお互いの信頼感を育むよい活動であると感じます。

また、光村図書出版は、実際にその場面を演じてみる学びを取り入れており、問題を自分事として捉えるよい工夫であると感じました。また、この光村図書出版は、巻頭にみんなで気持ちよく話し合うためのコツが示され、各題材の「かんがえよう・はなしあおう」にある問いについて話し合うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫がなされていると思いました。このほかにも、光村図書出版は、全学年にわたって淡い色遣いで優しい雰囲気の色紙と見開きで構成されておりました。こちらのほうも学習への興味関心を抱かせ、意欲的に取り組む助けになると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

繁里委員 道徳は全部で6者ありますが、いずれの教科書も学習指導要領の求める主体的・対話的で深い学びについて、児童が主体的に考え、議論ができるように様々な工夫がなされていました。児童は4月に学年が1つ上がり、新たな気持ちで学校生活をスタートします。これからどんな学びが広がっていくのかを期待して授業に臨むことから、巻頭の掲載内容はとても大切だと思っています。この視点で、次の3者について述べたいと思います。

まず、学研教育みらいです。巻頭に、今の自分について児童自身が記入する見開きページがあり、さらに巻末に、1年間の学びの振り返りや次年度に向けてのメッセージを書き込めるようになっていて、学びのつながりを大切にしていると感じました。

次に、光文書院についてです。巻頭に思考ツールや対話ツールについて掲載されていて、考えを整理したり、より適切な言葉を選んだりするなど、学習に入る準備段階を大事にしていると感じます。

最後に、光村図書出版についてです。発達段階に配慮したイラストや言葉を選択していて、児童は期待感をもって1年間の学びを見通せるように感じました。さらに、先ほど和田委員も触れておりましたけれども、気持ちよく話し合うためのコツが見開きページで掲載されておりまして、相手の考えや意見を受け止めることで、よりよい対話が生まれるように積み重ねていくことができ、学校教育全体に生きていくと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

宮崎委員 先ほどの和田委員のご発言にもありましたけれども、光村図書出版については、まず、全体的に淡い色遣いで目に優しいつくりです。挿絵のタッチが柔らかくて温かい感じを受けます。文字の大きさ、太さ、挿絵のバランスも大変良いために、学習への抵抗感が薄れ、子どもたちが自然な形で学習に取り組むことができるということが期待できます。

また、1年生の学習の初めに「どうとくがはじまるよ」という見開きがありまして、道徳は心について考える時間であると易しい言葉で示し、「いろいろな心を見つけよう」と投げかけています。このことは、子どもたちがこれからの成長過程の中で、自分の心と向き合い、豊かな感受性であったり、道徳性を磨いていく道徳学習のスタートとして、大変効果的であると考えます。

また、「こころん」、「きらりん」「もやもやん」という優しい親しみやすい3つのキャラクターが題材ごとに柔らかい言葉で子どもたちに語りかけていて、考えさせているところがよいと思いました。学習に入る前に、子ども自身が問題意識を持って取り組もうという心の準備ができますし、価値観を押しつけることなく、子ども自身が自分の考えを深めたり、友達と考えを分かち合ったりする工夫があつて、子どもたち自身が主体的に学びながら、心の成長につながると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、地域の特性との関連という観点からお話しします。

各者とも自然環境保護を扱っているところで、本市の海岸清掃や八ヶ岳野外体験教室の学習などと重ねやすいと思いました。

光村図書出版では、4年生で「いのちをつなぐ岬」でウミガ

メについて書かれていて、本市には海や新江ノ島水族館があるため、きれいにすることや命について身近なこととして考えやすいと思いました。また、6年生、「クジラとプラスチック」では、海洋汚染について書かれていますが、本市でもビーチクリーンや江の島ヨットハーバーにマイクロプラスチックを回収する装置を設置するなど、環境保全に力を入れているので、身近な課題として考えを深めることができると思いました。本市との関わりのある資料を取り上げることによって、児童がより身近なことと感じたり、深く考えたりして、道徳性を養っていけると考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんでしょうか。

柴山委員 道徳ですが、どの教科にも「かぼちゃのつる」と「はしのうえのおおかみ」というのが全部掲載されていますが、その「かぼちゃのつる」は、教科書によっては4コマ、漫画のスタイルで描いているのもあったり、あとは文章で描いているものもあったりして、それぞれ教科書会社で特色が異なるので、すごく面白いなと感じました。また、イラストによって受け方というか、その捉え方も違うのをすごく感じました。

ちよつとここで言うことなのかはあれなんですけれども、東京書籍さんが目次のところに感染症について、「うつらない うつさないため」ということで、マスクのマークとソーシャルディスタンスで、2次元コードもあって掲載はされているんですけれども、やっぱり3年間やってきていて、そういうことの文部科学省の通達も大分変わってきた。生活様式の中で、なぜこのような形で全部の教科のほうに掲載されているのか。それも子どもたちに対してメッセージを掲載しているのか、子ども

たちはどのように捉えるのかなと。ちょっと授業の中でそういう話し合いなり、教育するのであれば分かるんですけども、さりげなくそういうのが書いてあるのは、どういう意図で書いたのかなというのが気になりました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 これで、本日予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して委員の皆様、何かありますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、特になしということでございますので、次回の審議委員会の日程などについて確認いたします。

 次回の審議委員会は7月13日木曜日午後1時半から、場所は本日と同じく藤沢市教育文化センター大会議室でと考えておりますが、日程などよろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 では、次回の議題は、審議方針に基づき、「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議について」、また、諮問に対して答申をする必要があることから、「令和6年度使用教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点とします。このことについて皆様からご意

見やご確認などございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、第3回審議委員会につきましても、よろしくお願
います。

事務局から何かから連絡などはありますでしょうか。

事務局 特にございません。

委員長 特にないということでございますので、本日は長時間にわた
るご審議ありがとうございました。これをもちまして、第2回
令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会といた
します。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和5年7月13日（木）13時30分～

委員長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、ただいまより第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

本日の次第をご覧ください。今回、ご審議いただく内容は、議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」と議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点でございます。

まず初めに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議録署名委員を指名します。委員長の私のほかに、今回も繁里委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

繁里委員 承知いたしました。

委員長 どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。では、繁里委員、よろしくお願いいたします。

それでは、審議の前に資料などについて事務局に説明を求めます。

事務局

第2回審議委員会から本日までの特別支援教育に関する教科用図書の調査研究の流れについて説明いたします。

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、「児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよい」とされているものでございます。

5月8日から5月12日まで県立総合教育センターにて展示会が開催され、白浜養護学校と市内小中学校、特別支援学級の教員が、展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定して、調査研究を行い、その結果について、該当学校から「教科用図書調査書」が提出されております。

それでは、資料の説明をいたします。

まず、サイドテーブルをご覧ください。そちらには、「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」と「特別支援教育関係教科用図書見本本」の一部が展示してあります。「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教員に調査研究させたものを簿冊としてまとめたものです。

次に、「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書」を基に、事務局でまとめたものです。

では、こちらの1ページをご覧ください。この一覧表は、附則第9条による図書を4つに分けて表記してあります。

一覧表の右上のところをご覧ください。まず1つ目は「新」の文字を記載したもので、これは、今回調査研究をした結果、新たに教科用図書としてふさわしいとして提出された新規図書

でございます。

2つ目は「□」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科用図書としてふさわしいとされた図書でございます。

3つ目は「●」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、令和6年度に発行者による供給が困難となった図書でございます。

最後、4つ目は無印のもので、これは、昨年度採択され、本年度も教科用図書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、資料1として、21ページから27ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にしてお示ししてございます。この資料には、児童生徒一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた上で各学校が一人一人に適した教科用図書として選定した理由を記載してございます。

続きまして、19ページをご覧ください。一覧表の最後、No.10 道徳の欄の下になりますが、ただいま説明をいたしましたもののほかに、一般図書として、点字教科書、拡大教科書がございました。また、「令和6年度使用小学校用教科用図書、令和6年度使用中学校用教科用図書」、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」も採択可能な教科用図書として記載してございます。

なお、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」につきましては、資料2として、28ページから30ページにお示してございます。これは、第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）」をお渡しいたしましたが、この中で聴覚障がい者用として言語指導の図書と知的障がい者用図書として挙げられております。「☆印本」と呼ばれている図書でございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につつま

して、31ページに資料3として記載させていただきました。

以上で、資料の説明を終わります。

委員長 ありがとうございました。

 ただいま資料について説明がありました。

 なお、令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科
用図書調査書につきましては、個人情報などの問題がございます
ので、非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

 それ以外の資料などについて、何かご質問などはございま
すか。

各委員 なし。

委員長 では、無いようですので審議に入ります。

 新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場と
なっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと考えます。
どうぞよろしくお願いたします。

 それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議
の進行について何かご意見はございますでしょうか。

澤野委員 各学校からは、子どもたちの障がいの特性や発達段階に応じ
て教科用図書として使用できる一般図書がたくさん出されてき
ています。特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもたち
にとって、ふさわしい教科用図書として、附則第9条によって
使用できる一般図書を幅広く用意することが大切だと考えま
す。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はいかがでしょうか。

村田委員 私も同じように考えます。今回、各学校で調査研究をした結果、教科用図書にふさわしいものとして、新規図書や複数の種目で使いたいという一般図書が数多く出されております。

 本校の調査の様子を見ましても、子どもたち一人ひとりの実態を踏まえて精査しておりましたので、昨年度までに採択された一般図書は「●」の発行者による供給が困難となった図書を除いて引き続き採択し、今年度新たに出された一般図書について審議していければよいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。

和田委員 私も同じように感じています。採択の幅を広げるためにも、この調査書まとめに示されている複数の種目で申請のある「□」の印の図書、また、今年度新たに希望が出ている「新」並びに「新□」の図書について審議していくのはいかがでしょうか。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、ただいまのご意見を受けまして、各学校から希望が出ている一般図書について、教科書として使用できる方向で考えていくことということと、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が挙がっている図書について審議をしていくということによろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長

では、そのように審議を進めてまいります。

こちらの資料の調査書まとめの印で言いますと、「新」と書かれている新規図書、そして、「□」の印がついている複数の種目で希望が挙げられている図書についてご意見を伺いたと思います。新規図書や複数種目で希望がある図書については、No. 1の国語・書写からNo. 10の道徳までの種目に合計50冊入っております。

審議につきましては、学校からの調査書には、どんな特性の子どもにどんな教科書がふさわしいかという点が挙げられているということから、子どもたちの実態や特性という視点からのご意見を伺いたと思います。

審議の都合上、分野を3つに区切って審議を進めたいと思います。

それではまず、No. 1の国語・書写とNo. 2の算数・数学の教科領域で申請が上がっている21冊の図書についてご意見を伺いたと思います。よろしいでしょうか。では、お願いいたします。

松川委員

私は、No. 1の国語・書写の教科領域の中から2冊の図書について述べさせていただきます。

1番、金の星社の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」ですが、一つ一つの名前、それらをまとめた名前、身近なものから町や自然の中にあるものまで、たくさんのもので名前がイラストとともに表示されているので、文字だけでなく絵を頼りに理解する子どもたちの語彙力向上の助けになると思います。また、クイズやコラムがあり、楽しみながら、いろいろな名前と出会い、言葉を増やしていくことができ、言葉の世界を広げることができるのではないかと思います。

もう一つは、10番、交通新聞社の「のりものあいうえお」

です。この図書は、サイレンカー、鉄道、工事の車など様々な乗り物が登場し、乗り物の名前で平仮名を学習することができます。特に乗り物が大好きで興味関心の高い子どもたちなら、写真が多用されているので目を引き、取り組む意欲が高まると思います。また、筆順が示されており、指でなぞり書きができるため、繰り返しの練習をすることができ、文字の習得に適しているのではないかと思います。また、各ページの挿絵にイラストが添えられており、当てっこ遊びなどをしながら、楽しく学習できるのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」と10番「のりものあいうえお」についてご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

澤野委員 私も国語・書写の教科領域の中から、1番の金の星社「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」について意見を述べます。

物の名前は、そのもの自体を見たり、触ったり、また、イラストやカードを見たり、大人に、「これ何？」なんていうふうに聞きながら覚えていきます。例えば、「ニンジン」は、ものの名前ですが、「野菜」は、カテゴリーで、その区別は生活経験の中で自然に身につけていくものと考えます。それでも、中には学習が積み上がりにくい子どもや生活経験の少ない子どももいます。この図書は、冒頭でこの本の使い方として、カテゴリーをまとめた名前、ものの名前を一つ一つのものの名前として、花をかたどったマークで区別して示しています。繰り返しイラストを見ることで、自然に単語としてのものの名前ではなく、意味合いをもったものの名前が覚えられるところが優れて

いると感じました。

松川委員もおっしゃっていましたが、イラストを頼りに理解が深まり、楽しみながら、いろいろな名前と出会い、言葉を増やしていけるとと思います。イラストもシンプルで見やすく、配置や分量もちょうどよいというふうを感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてのご意見をいただきました。ほかにございますでしょうか。

川島委員 先ほど松川委員のほうからもお話があったのですが、「のりものあいうえお」に興味を持ちましたので、お話をさせていただきたいと思います。

まず、この本なのですが、この本は乗り物と大きな平仮名が見開きのページに載っています。乗り物が好きな子どもは、その乗り物の名前と関連づけながら平仮名に触れることができるかなと思いました。五十音順で並んではいますが、五十音順で学ぶ必要は全くないと思いました。例えばひろし君だったら、ひろしの「ひ」から始めればいいですし、ゆうこさんだったら、ゆうこの「ゆ」から始めればいいかなと。先生と一緒に本をめくりながら、自分の名前の文字と突き合わせたりして、自然と無理なく覚えることができたらいいかなと思っています。

もう一つ、リズムカルな文章が載っているのです。一緒に読んでいくうちに、音であるとか、文字であるとか、そういったものを覚えることができるかなと思ったところです。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の10番「のりものあいうえお」についてご意見を伺いました。ほかにございますで

しょうか。

金田委員　私も、1番の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてお話しさせていただきます。

全体的に優しい雰囲気イラストで、見ていて、ちょっとほっとするような感じもある中で、私は道路標識のところ、「青と赤と黄色はこういう意味だよ」と、細かく分からなくても、ぱっと見て、「あっ、これは駄目なんだ」とか、そういうことも子どもに伝わるように工夫されているところが、とてもいいなと思いました。

以上です。

委員長　ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

原委員　私も同じになってしまいましたが、No. 1 国語・書写の2冊とNo. 2 算数・数学の1冊についてお話をさせていただきます。

まず、国語・書写、1番の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてです。この本は、町で見かけるものの名前をポップなかわいらしいイラストで細かく描いているため、イメージしやすい印象を受けました。ふだん当たり前に使っているお店や施設、乗り物など、利用はしているけれども、名前を知らなかったり、使い方が分からなかったりすることがあると思います。この本で、実際、その場面にいるような感覚で読み進めることができ、児童のわくわくした表情と笑顔を想像することができました。また、クイズ形式になっているので、ものの名前が入りづらい児童が繰り返し楽しく取り組める教材になっていると感じました。

次に、10番の「のりものあいうえお」についてですが、乗

り物が大好きな児童には、乗り物のイラストとともに平仮名の書き順が書かれているので、平仮名を練習するにあたって、興味深く意欲的に取り組めると感じました。また、乗り物についての説明は、先ほどもお話がありましたが、韻を踏み、リズムのいい文章になっているので、内容を理解しにくい児童にとっても楽しく、喜びを感じながら学習できると思いました。テンポが心地よく、自然と真似をして発声ができることも期待できると感じました。

最後に、No. 2 算数・数学についてですが、1 番の「はじめてのすうじ かず・けいさん 1」のお話をさせていただきます。こちらは、くもん出版が発行しているシリーズのドリルで、真っすぐな線や曲がった線を引く練習を行い、段階を踏みながら数字を書く練習をするものです。1 枚ずつ切り離して学習を進めることができるようになっているので、学習し終えたという満足感や達成感を味わうことができると思います。紙質がしっかりしているので鉛筆を滑らせやすく、余白が多いデザインで見やすいため、取り組みやすいと感じました。鉛筆を持つことや数字を書くことに興味をもち始めた児童には、とてもよい教材だと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の 1 番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」、そして、10 番「のりものあいうえお」、算数・数学の 1 番「はじめてのすうじ かず・けいさん 1」についてのご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

宮崎委員 私は、ワーク、ドリルという観点で意見を述べたいと思います。

まず、国語・書写の 3 番、「くもんの読解力を高めるロジカ

ル国語」と11番、清風堂書店の「国語習熟プリント」についてです。

2冊ともに共通しているのは、ドリルということなので、スモールステップで学習に取り組むことができるように工夫されている点です。子どもができた、分かったという達成感をもつことができ、繰り返しの反復練習によって無理なく力をつけられるように工夫されている点が共通していると思います。

また、「読解力を高めるロジカル国語」は、独自の「“なぜなら”問題」というのがありまして、それに取り組むことで、子ども自身が確かめながら学習を進めることができ、考える力や表現する力を伸ばしていくことに期待ができると思います。また、「国語習熟プリント」にある「ワンポイントアドバイス」は、どのように考えていいか、迷ってしまうというような子どもたちにとって、大變的確なヒントになるというふうに思いました。

ワーク、ドリルという関連で、No. 2の算数・数学についても述べたいと思います。算数・数学の1番、「くもんのはじめてのすうじ かず・けいさん1」と6番の成美堂出版の「はじめてのえんぴつちょう2・3・4歳はじめてのすうじ」についてです。

「くもんのはじめてのすうじ」は、先ほど原委員のご発言にもありましたけれども、やはり数字の学習に入る前に線を学習させるということが秀逸だなと思います。短い線から長い線になって、斜め線、そして曲線、円形というふうに、だんだん複雑な線を描く学習にステップアップしていくように構成されていて、これは数字を書くという大變難しい手の動きの練習になるというふうに思いました。また、「はじめてのえんぴつちょう」は、リンゴ1つと数字の1を合致させたり、シールを2枚、自分の手で貼るという作業に取り組みながら、数の概念を習得できるというふうに思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。国語・書写の3番「くもんの読解力を高めるロジカル国語 小学3年生」、そして、11番「国語習熟プリント小学3年生」、さらに算数・数学1番「はじめてのすうじ かず・けいさん1」と6番の「はじめてのえんぴつちよう2・3・4歳はじめてのすうじ」についてのご意見を伺いました。そのほかにご意見はございますでしょうか。

山崎委員

よろしく申し上げます。先ほど宮崎委員がドリルというくくりでお話をされていましたが、私も国語・書写、そして算数・数学の教科領域で申請があがっているドリルについて話をしたいと思います。

まず、国語・書写の2番と4番、くもん出版の「言葉と文法にぐーんと強くなる」シリーズの小学1年生、3年生。それから算数・数学の3番、くもん出版の「計算にぐーんと強くなる小学5年生」。同じく2番、くもん出版の「小学ドリル算数計算4年生の分数・小数」。また、算数・数学の10番、清風堂書店の「陰山ドリル初級算数小学4年生」についてお話をしたいと思います。

5冊ともドリルということで、1ページに非常に内容がまとめられているので、その時間の学習内容がはっきりと分かる形になっているかなと思いました。また、易しいところからステップで丁寧に学び、繰り返したり、確かめたりしながら学習の定着を図るような構成になっています。

くもん出版の「ぐーんと強くなる」シリーズなんですけれども、單元ごとに最初にポイントがまとめられていて、ポイントをしっかり押さえてから練習問題に取り組むことができるような構成になっているかなと思いました。

それから、清風堂書店の「陰山ドリル」は、算数などの計算

問題では、まず目が描いてあるので、位に気をつけながら記入できるようになっているかなと思います。また、ページ、内容によっては、数字をなぞってから取り組むことができる工夫も見られました。

5冊とも、1ページあたりの書く量や問題数も無理なく取り組める分量ではないかなと思いました。

国語・書写については、見開き1ページでうまくまとまっているかなと思います。子どもたちにとって分かりやすく、それぞれのペースで取り組むことができるドリルだな、と感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。国語・書写の2番「言葉と文法にぐーんと強くなる小学3年生」と4番「小学1年生言葉と文法にぐーんと強くなる」、それから、算数・数学のほうは、2番「小学ドリル算数計算4年生の分数・小数」、そして、3番の「計算にぐーんと強くなる小学5年生」についてのご意見を伺いました。そして、さらに10番「陰山ドリル初級算数4年生」についてもご意見を伺いました。ほかに、ご意見はございますでしょうか。

和田委員

私も山崎委員と同じく、No.1国語・書写、そして、No.2算数・数学で申請があがっているワークについて意見を述べさせていただきます。

まず、国語・書写の5番、太郎次郎社「漢字がたのしくなる本2改訂版 128字のあわせ漢字」では、「おもしろいかんじのはなし」として、漢字の起源や象形文字からの変化などが紹介されておりまして、興味をもって学習に取り組める工夫がなされています。また、仲間探しやジグソーパズル形式を取り入れ学習することによって、飽きることなく集中して取り組める

工夫もなされています。全体的に漢字の成り立ちを説明しやすいつくりとなっていると感じました。

次に、算数・数学の5番、こぼと「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」では、果物や動物など、子どもたちが親しみやすい図柄も一部取り入れ、抵抗なく学習に取り組める工夫がなされています。また、迷路学習は、楽しみながら集中力や注意力を身につけていくのには、よい教材であると感じました。1問1問、文字も大きめに出题されており、取り組みやすさも感じました。

同じく4番、こぼと「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」は、ウォーミングアップから始まり、無理なく九九を習得できるような構成となっています。また、ボールやミカン、たこ焼きといった図を問題に取り入れることで、イメージを持って取り組める工夫がなされていました。こちらも文字が大きめになっており、全体的に見やすいつくりであると感じました。

続いて、算数・数学、9番、実務教育出版「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてです。割り算の筆算などにおいて、つまずきやすいポイントを丁寧に解説し、その後、「たしかめよう」「ためしてみよう」という構成になっているので、間違いの原因などが発見しやすくなっています。「ためしてみよう」では難易度が示されており、子どもたちの実態に合った取組が可能となるよい工夫であると感じました。

委員長

ありがとうございました。国語・書写の5番「漢字がたのしくなる本2改訂版 128字のあわせ漢字」、そして、算数・数学から、5番「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」と4番の「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」、そして、9番の「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてご意見を伺いました。そのほかにご意見はございますでしょうか。

繁里委員　私も、No. 1 国語・書写とNo. 2 算数・数学の教科領域で申請が上がっているワークについて述べさせていただきます。

国語・書写の 6 番から 9 番、喜楽研から出されている「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の 4 冊、また、算数・数学の 7 番と 8 番、喜楽研の「ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント」2 冊についてお話ししたいと思います。

いずれも共通して、ゆっくりと丁寧に段階を追って学習ができるようになっていきます。また、繰り返し問題を解くことで学習内容の定着を図るような構成になっています。1 回当たりの書く量や問題数も無理なく取り組める分量ではないかと思えます。

国語・書写のワークでは、質問文が分かりやすく、また、振り仮名も記載されておりますので、子どもたちには、学習に意欲的に取り組めると思えます。算数のワークでは、イラストが分かりやすく記載されているため、視覚的にも課題を理解しやすいので、子どもたちが集中力を維持しながら学びを進められると考えます。

以上です。

委員長　ありがとうございました。国語・書写の 6 番から 9 番の「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の「1-2」「2-2」「3-1」「3-2」についての 4 冊と、算数・数学の 7 番、8 番、「ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント」の「1-2」と「2-2」の 2 冊についてのご意見を伺いました。そのほかに、ご意見はございますでしょうか。

川島委員　今、繁里委員からお話があったのですが、「ゆっくりていね

いに学びたい子のための読解ワーク」、特に国語のほうなのですけれども、ちょっと気になったので、お話しさせてください。

「読解ワーク」の「1-2」というのは1年生。「2-2」というのは2年生。「3-1」「3-2」というのは、3年生に、それぞれ使えるワークなのですけれども、私の今までの感覚・経験から言うと、こういうワークは、特別支援学級で使うときには実年齢よりも比較的低いものを使う。例えば小学校1年生の子に対しては3歳児のものとかを使うことが結構多いと思っています。ただ、このワークの中では、1年生用のワークの中に「おおきなかぶ」が出てくるのです。それから、2年生用のワークの中には、「スーホの白い馬」。3年生用のワークの中には、「ちいちゃんのかげおくり」。それぞれの学年の教科書の教材が使われていて、いいなと思いました。

では、あとはどこが違うのかという話になるわけですがすけれども、まず、漢字は、振り仮名は振ってあるものの、そのまま使われています。だから、子どもが今同じ学年の勉強をしているという感覚をもてるかなと思います。どこが違うのかというと、スモールステップで進めるように、最初は1文の読み取りから始まるのです。次に、2文の読み取り、それから、3文の読み取り、そういうスモールステップが続きながら、同学年で使っている教材の読み取りを進めていくというつくりになっていて、子どもが混乱しにくい、ゆっくり丁寧という取り組み方ができるかなと思いました。

また、先ほど和田委員のほうから話があった「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」ですけれども、算数という教科においては、計算そのものをすごく苦手になっている子と、文章題を苦手になっている子がいるかと思っています。このワークについては、基本、文章題を苦手としている子を対象とするような形で作られているのですけれども、スタートのところでは、「計算はこういうふうにするんだよ」という説明が入っている

ので、取り組む子どもは、計算を苦手に行っている子にしても、文章題を苦手に行っている子にしても、「何となくこれならできかな」「できそうかな」という、そんな気持ちを維持しながら取り組むことができるのではないかなと思ひながら見させていただきました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の6番から9番の「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の「1-2」「2-2」「3-1」「3-2」と算数・数学の9番「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

澤野委員 先ほど、和田委員もおっしゃっていましたが、私も算数・数学の中で5番のこぼと、「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」について述べたいと思ひます。

この図書は、認知の力を高めるために、覚える、写す、見つける、数えるなどを繰り返して行うつくりになっています。点つなぎや手本と同じ位置にマークや点を打つ学習は写す力を、文字や記号の数を数える学習は数える力を育みます。そして、これらの力は学習の土台となるものです。間違いがないように正確さを目指したり、時間を測って速さを目指したりするなど、一人ひとりの発達段階や学力に応じて活用することができます。問題数も集中力が途切れない程度の分量です。そして、白い紙に黒一色で書かれていて、問題も端的で、また、イラストも載っていないんです。これは気が散らないような工夫であるなというふうに感じました。

あわせて、同じく4番こぼとの「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」は、掛け算、割り算、分数、小数といった算数の基礎基本の力を身につけるのに適していると思ひます。スモールス

テップで学習を積み上げることができるように、少しずつ問題数が増えたり、難易度が上がったりにしています。こちらも黒一色で書かれていて、集中しやすいつくりになっています。

この2冊は、子どもが集中して取り組み、スモールステップで学力を積み重ねていくことができる図書であるというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。算数・数学の5番「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」と4番の「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは次に、No. 3の生活・地図・社会からNo. 4の生活・理科の教科領域で申請が上がっている15冊の図書についてご意見を伺いたいと思います。この中には、ほかの種目でも希望が上がっている図書がありますので、それも含めてご意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。それでは、ご意見をお願いいたします。

日置委員 私は、この2つの領域から4冊の本について意見を述べさせていただきます。

まず、No. 3生活・地図・社会の領域の2番「名人はっけん！ まちたんけん（1）つくるひと」についてです。小学校3年生では、社会科が始まります。自分の住む地域の安全を守るための活動や産業の様子などをよく知るために、学区たんけんや町たんけんをします。その活動の参考になる本だと思いました。

本書はシリーズの第1巻で、子どもたちにとって興味を抱きやすい「つくるひと」を紹介しています。町には様々なものをつくる仕事をする人がいること、自分たちが見ていないときでも、その人たちは仕事をしていることが写真や短い言葉で説明されています。実際につくっているところや作業しているところが見られる機会は少ないと思いますので、こういったイメージしやすい本を読むことで、子どもたちの視野を広げたり、働くということを意識させたりすることにもつながり、また、自分たちが暮らす地域へも興味をもてるのではないかと思いました。

次に、同じ領域の3番、金の星社の「おてつだいの絵本」です。この本には、日々の暮らしの中でお手伝いができそうなことはないかな、どうやったらうまくいくかなということがたくさん書かれています。この本を参考に、楽しく進んで子どもたちがお手伝いをするようになれば、周りの人から感謝されて、自己有用感も上がり、自分は社会の役に立つ存在なんだということを確認できるのがとてもいいなと思いました。この本は既に家庭・職業家庭、道徳の図書として採用されていましたが、社会の一員としての自覚を育てるという視点から、生活・地図・社会の教科領域での活用もふさわしいというふうに思いました。

続いて、同じ領域、6番、チャイルドの「チャイルドブック こども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」です。子どもたちが好きなことや得意なことを生かして将来のことを考えるときに参考になる1冊です。子どもたちが憧れそうな職業や、それに似ているけれども、子どもたちにはあまり知名度がないような職業も一緒に書かれています。例えば、大工さんを大きく紹介しているんですけども、それに関連した家づくりの仕事として、建築士、インテリアコーディネーター、左官、とび、庭師の仕事なども紹介しています。自分たちの暮らしを支えてくれる様々な仕事があるということにも気づくことができ、

また、読んだ後に、先生や友達と「〇〇さんはこの仕事に向いているんじゃないかな」という楽しい話合いをして、新しい目標や夢を見つけることもできる1冊だというふうに思いました。

続いて、No. 4 生活・理科の領域から1冊、お話をしたいと思います。

6番、世界文化社の「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてです。体の中にある細胞を活躍するメンバーとって、働きを分かりやすくイラスト化しています。体には様々なSOS、トラブルが、どのようにして起こっているのか。そのとき、メンバーたちは、どのように対応していくのかということがかなり詳しく描かれています。体に起こる変化に興味をもつであろう子どもたちも満足できる情報量であると感じました。また、スマートフォンやゲームのやり過ぎによって起こる体のSOSについても扱っていて、自分の生活や健康について振り返ったり、よりよい生活について考えるきっかけの一つになることが期待できる本だと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。生活・地図・社会の2番「名人はっけん！まちたんけん（1）つくるひと」と3番の「おてっだいの絵本」、6番の「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」。そして、生活・理科では、6番「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてのご意見を伺いました。ほかに、ご意見はございますでしょうか。

金田委員

No. 3 生活・地図・社会の分野とNo. 4 生活・理科の分野からいくつかお話しさせていただきます。

まず、生活・地図・社会のところの1番「学習かるた都道府県かるた」のところで、かるたの絵札自体にも、県の形だけで

はなくて山や川も記載されているところが、「あっ、こんな大きな川があるんだね」とか、いろいろなイメージをしながら、興味も広がりながら楽しめる内容になっていると感じました。また、付録として付いているポスタータイプの日本地図が、日本列島を北から南まで全部が分割されずに表示されているところが、それを見ながら、「日本ってこんなに縦に長いんだよね」など、イメージを膨らませながら楽しめるのではないかなと思いました。

続きまして、5番の「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」についてお話しさせてください。親として、「子どもは今どういう気持ちなんだろう」と、子どもの気持ちを言葉にしてあげにくい場面があると思うのですが、「段階を追った設問で自分の気持ちを表現する」ということが書かれていたので、とても面白いなと思いました。

続きまして、5番の「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」についてです。よく家でも何になりたい？と話したときに、おうちをつくる仕事がしたいなんて話題になったときに、先ほど先生からのお話もあったんですけども、この百科を見ると、「家作りのおしごと」というカテゴリーには、もっとこういういろいろなものがあるんだよとか、さらに詳しく子どもが興味を広げられるような記載があったので、とても楽しかったですし、見ているだけでも、わくわくするような色合いだったので、子どもと将来、何がいいかなと夢を膨らませられるような教材になるのではないかなというふうに感じました。

続きまして、生活・理科のところなんですが、私は5番の「野菜の上手な育て方大辞典」にとっても興味がありました。お店でも、「どんなふうになっているかな」というところまで分からなかったり、大人でも、「この野菜ってどこの国のどんなもの

だろう」と思うのは多いんですけれども、幅広い分野の野菜が記載されていて、とても興味が湧いて、楽しいものだったなというふうに感じました。

最後に、6番の「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」について、イラストが中心で、いろんなところに興味を持ちながら見ることができるものではないかなと思いました。なかなか自分の体の中のものというのは分からない世界なんですけれども、イメージを膨らませることで、より自分のことを大切にできる一歩になるのではないかなと感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。今、金田委員からは、生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」、それから、生活・地図・社会の5番「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」、そして、生活・地図・社会の6番「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」、そして、生活・理科の5番「野菜の上手な育て方大辞典」、最後に、6番「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてのご意見を伺いました。ありがとうございました。ほかにご意見はございますでしょうか。

村田委員

私は、今、金田委員のほうからもお話がありましたNo.3生活・地図・社会の教科領域の1番「学習かるた都道府県かるた」と、もう一つは、4番「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてお話をさせていただきたいと思います。

1番の学研、「学習かるた都道府県かるた」では、都道府県の形や地理的な特徴がかるたになっていて、かるた遊びを楽しみながら都道府県の名前が覚えられるところがよいと思いました。かるたの札を選ぶことで、地方を限定して少しずつ覚えていくこともできるかと思います。リングを通して暗記カードと

して使うこともできるということなので、子どもたちの興味や学習の進み具合に合った使い方を工夫することができると思います。大判の日本地図がついているので、日本全体の中で都道府県の位置を確認することもできます。

それから、もう一つの4番、くもん出版の「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてです。この図書は、既に国語・書写の教科領域の教科用図書として採択されていますが、今回は生活・地図・社会の教科領域での希望となっています。大判のカードで写真が美しく、電車や乗り物に興味のある子どもたちにとっては、手元にあるだけでわくわくして、学習が楽しくなると思います。また、乗り物への関心を深めることで、校外学習などの体験活動の充実につながると考えられると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。今、生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」と4番の「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてのご意見を伺いました。ほかにごありますか。

柴山委員 私は、No. 3とNo. 4で1点ずつお話しさせていただきます。私も、1番の「学習かるた都道府県かるた」が繰り返しゲーム感覚で都道府県の形や名称を覚えられるので、とてもいいなと思いました。また、これに「かるた読み上げ音声サービス」というのが付いていて、こんなにハイテクに学習できるんだなと感心しました。でも、やっぱり誰かが読み上げてやるのが一番いいのかなとも感じました。

あと、No. 4の1番の学研、「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」が仕掛けイラストになっていて、子どもたちはわくわくしながら、その仕掛けを開いて見るだろうなと思いましたし、

私も見ていて、細部まで細かく、部品の名前も書いていて、大人が見てもすごく楽しかったので、製造だったり、つくることに興味をもつ子どもたちが増えるんじゃないかなとも感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」、そして、生活・理科の1番の「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

堀部委員 では、私のほうからは3冊の図書についてお話しさせていただきます。

まず、No. 4 生活・理科、3番「ドラえもんの理科おもしろ攻略理科実験Q & A」についてお話しさせていただきます。

こちらは、子どもに人気のキャラクターによる観察・実験方法を読み慣れている漫画の手法で説明がされております。子どもたちの疑問を分かりやすい解説にしているので、興味深く読むことができます。1つの疑問に対して15ページ弱でまとめられております。押さえるべき事項に関しましては、丁寧な解説があり、意欲をかき立てます。また、各単元の終わりには「練習しよう」があるため、しっかり振り返りもでき、知識を確実に身につけることができると思いました。

次に、No. 4 生活・理科の教科領域の2番「子どもとマスターする45の操体法改定新版イラスト版からだのつかい方ととのえ方」について意見を述べさせていただきます。

この図書は、No. 6 体育・保健体育の教科領域の1番にも申請が上がっております。「息をする」からスタートし、「手当て」まで45項目ありますが、どれもじっくりと読んでしまう内容です。正しい姿勢、悪い姿勢の違い、また、立ち方によって重

心の位置が分かる図があるなど、全ての図が分かりやすくつくられております。基本、理にかなった体の動かし方、子どもが自分で体のずれを正すことができる方法、そして、2人で行うと、より効果的な方法を先生と、また、家庭では親子で取り組むことで、親子のスキンシップを通して、体だけでなく心の健康にもつながると思いました。タブレット等で自分や友達を撮影し合うことで、実際にどこを直さなくてはいけないか、視覚的にも取り入れることで、さらに成果につながると感じました。以前と比べてよくなっているか、自分の目で見られることは自信につながり、次への意欲につながるのではないかと感じました。この図書につきましては、生活・理科及び体育・保健体育で使用することは大変ふさわしいと思います。

それから、No. 3の生活・地図・社会、5番、合同出版の「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」についてお話しさせていただきます。

先ほど金田委員からもお話がございましたが、心理的アプローチに基づき、45の項目に従って行っていきますが、1項目ごとにワークがあり、子どもたちは、これらをじっくり取り組むことで、自分自身の振り返りにもつながると思えます。また、ストレスとうまく付き合っていける柔軟さ、自分を大事に思うこと、自分が生きやすくしていくための手立てを自分自身が納得しながら学ぶことができると感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。生活・理科の2番「子どもとマスターする45の操体法改訂新版イラスト版からだの使い方ととのえ方」、そして、この本は調査書まとめの中でNo. 8の体育・保健体育の領域の1番にも希望が上がっております。この本についてもご意見を伺いました。さらに生活・地図・社会の5番「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助

ける45の練習」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

宮崎委員 私は、生活・地図・社会の7番、日本教育研究所の「ひとりだちするための算数・数学」について述べたいと思います。

この図書は、基礎的な学習を定着させることができ、算数・数学の領域ですでに採択されています。加えて、例えば、買物に行くとか、バスの時刻表を見ながら出かけるというような場面、実生活につながる具体的な場面に結びつけて、体験的な学習を通して、考え、学んでいくことができるように工夫されています。このことは、子どもたちが中学校を卒業した後の自立した生活をイメージして、知識や技能を身につけるために大変効果的だと考えます。また、重さ、長さ、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフの読み取りなど、具体的に分かりやすく示されていて、スモールステップで学べるということから、グラフや統計資料を活用する地図の学習とか、社会科の学習にもより取り組みやすくなるというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・地図・社会の7番「ひとりだちするための算数・数学」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

原委員 私は、No.3生活・地図・社会の3番の「おてっだいの絵本」についてお話をさせていただきます。

目を引くかわいいイラストで、お手伝いの仕方、進め方が描かれており、ついつい読み入ってしまいました。お手伝いはコミュニケーションの機会でもあり、生活していく上で働くことの大切さを教えてくれています。家族や支援者のためにお手伝いをして喜んでもらうことで児童の自信につながればよいなど

感じました。言葉や文字だけで想像しづらい児童には、視覚から入ることで理解しやすく、支援する側としても、イラストの教材を用いることによって伝えやすくなると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。生活・地図・社会の3番「おてつだいの絵本」についてご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

深津委員 私からは、生活・理科の7番、福音館の「かがくのとも絵本ほね」についてお話しします。

この本は、親しみやすいイラストで、骨について子どもたちが理解しやすいような流れで描かれています。骨はどんなものなのか、骨の働きはどういうことなのか、また、動物によって骨格の違いがあるというようなことが無理なく理解できて、そして、楽しみながら何度でも見たくなるような構成になっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の7番「かがくのとも絵本ほね」についてのご意見を伺いました。ほかに、ご意見はございますでしょうか。

松川委員 私は、No. 4 生活・理科の中から8番の「福音館の科学シリーズあそびのレシピ」についてお話しさせていただきます。

この図書は、すでに生活・地図・社会、図工・美術の教科用図書として採択されています。今回、生活・理科の教科用図書として希望が出ています。福音館の「あそびのレシピ」は、身近な材料を使う遊びのレシピが多数紹介されています。写真やイラストで遊びの工程が視覚的に示されているので、子どもが

やってみたい、作ってみたいと興味関心を持って学習することができると思いました。作る過程の楽しみや出来上がったものを味わう楽しみ、作品を通しての友達との交流など、多様な学習活動が行うことができると思うので、生活・理科の教科用図書としてもふさわしいと思います。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の8番「福音館の科学シリーズあそびのレシピ」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

一瀬委員 私も、同じくNo. 4生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、それから4番「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」、それから、5番「野菜の上手な育て方大辞典」の3冊について意見を述べさせていただきます。

初めに、1番、学研の「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」についてですけれども、こちらは子どもたちにとって、ふだん目にすることの多い機械や乗り物についての仕組みがとても分かりやすく示された図鑑で、「家のなかで」「まちのなかで」「のりもの」といった3つの構成になっております。特に「家のなかで」では、トイレや扇風機、そしてエアコンなど、子どもたちが毎日の生活の中で興味をもちそうな機械について、イラストをめくってみると、そのめくった中に機械の中の様子がイラストで示されています。子どもにとって、めくって中を見えるという行為がとてもわくわく感をそそります。めくりがある大きな絵で興味をそそった後には、その次のページに、例えば洗濯機の歴史といったそのものに対しての詳しい内容も記載してありまして、興味をもった子どもにとってさらに学びを深めることにもつながるといふうに感じました。この本はすでに国語・書写で採択されている図書ですけれども、改めて生活・理科の図書として使用することもふさわしいと思いました。

次に、4番の小学館、「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」についてですけれども、こちらは200種類もの新しく楽しい実験が紹介されております。実験のレベルが3つに分かれていますので、子どもたちの実態であったり、かけられる時間によって、それぞれ選択することがとてもしやすいなというふうに感じました。また、実験道具の作り方などについても、手順に沿ったイラストや写真が掲載されておりますので、どのような実験なのかなと選ぶ段階でも、イメージを容易に持てるようになっていきます。道具の扱い方や実験の心構えなども、そういった安全面についても、とても配慮されていて、使いやすいなというふうに感じました。

最後に、3冊目ですが、5番の成美堂出版の「野菜の上手な育て方大辞典」です。こちらは葉菜類と根菜類など野菜の種類ごとにまず目次がつくられているんですけれども、プラス、収穫できる時期ごとにも分類されて掲載されています。この野菜を作りたいんだけどなど、目当てを持って野菜を探すときにも探しやすいですし、また、漠然と何の野菜を育てようかなというふうに検討する際にも、とても探しやすい、見やすい構成になっていると思いました。野菜それぞれに種まきのところから収穫まで、写真を中心にした作業プロセスが掲載されているんですけれども、特に手元がアップに写っている写真が多く載っておりまして、例えば種や苗をどのように扱うのかなというのもとても詳しく、納得できるような内容になっていると感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、そして、4番の「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」、そして、5番の「野菜の上手な育て方大辞典」についてのご意見をいただきました。ほ

かにご意見はございますでしょうか。

川島委員　　今、一瀬委員から幾つか図鑑のお話があったのですが、私も図鑑が大好きで、いろいろ見ましたので、お話をさせていただきたいと思います。

まず、1点目ですけれども、「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」です。学研のものですが、何が隠れているのかなという子どもの好奇心をくすぐる、「めくる」という、活動がいいなと思いました。機械のデザインとか構造という内容は、ちょっと難しいかなと思うところもありましたけれども、きっと何度もめくるうちに、何が書いてあるかというのを子どもは覚えるのだろうなと思いながら、自分も何度もめくっていました。特に担任と一緒に「何が出るかな？」とやっている姿を想像しただけで楽しくなってきました。

ちょっと別の話になりますけれども、めくるという動作が、指や手を細かく正確に操るといふ巧緻性と言いますけれども、そういう力を育成するのにもつながるかなと思いました。

もう一つ、やっぱり図鑑なのですが、「野菜の上手な育て方大辞典」です。これも一瀬委員から話がありましたが、育てる野菜が106種も載っているのです、子どもたちにとって身近なものとは身近ではないものもあつたりします。けれども、写真を見ているうちに、「これは何だろう」とか、「これ知っている」とかがあつて、先生と一緒に、「どれを作ってみたい?」とか、「どれがおいしそう?」とか言いながら見ていく。先生のほうでも、「じゃ、これ作ってみようか」と決めたときに、どんな畑の用意をすればいいのか、どういうふうに植えればいいのか、その途中でどんな手入れをすればいいのかを考えることができます。

よく子どもたちが米作りの勉強をするときは、田んぼに行つて田植えをしたり、収穫の頃に稲刈りをしたりするのですが、

この図鑑を手元に置きながら、畑を準備して、苗なり種なりを植えて、写真と同じように育てて、もしくは写真と同じようには育たなくて、立派に収穫ができて、もしくはちょっとだけ収穫ができて、または途中で枯れてしまったりすることもあるかもしれないけれども、その途中途中を子どもたちが体験するというのはすごく大事なことなのかなと思いました。もし収穫できれば、やっぱり子どもたちにとっては、すごく楽しいことですし、その成長を観察する、飽きることなく取り組むことができる、その結果、おいしいものが採れたらいいのかなと思いつつながら、やっぱり図鑑はわくわくするなと思いつつ見ました。

もう一つ、生活・地図・社会のほうの2番「名人はっけん！ まちたんけん」ですけれども、パン屋さんで始まるのですが、小学校3年生で町たんけんが入ってきます。その辺と上手にリンクしながら、特別支援のほうで使えたらいいのかなと思いつつ見ました。子どもたちはパンを作っているところは、あまり知らなかったりするけれども、パン屋さんはやっぱり子どもたちにとって、とても身近な職業です。そんな身近なところから、次に、ケーキ屋さん、おそば屋さん、お弁当屋さんなどが出てくるのです。身近だなと思いつついると、そのうち、陶芸家さんとか畳屋さんとか傘屋さんとか、正直、身近ではないところまでいろいろ出てくるのですけれども、そういうなじみの薄い仕事にまでつながっているというのもいいかなと思いつつ見ました。子どもが後々何か手に職をつけていくというときに、必ずしもなじみのものであるとは限らないですし、そういったのもいいかなと思いました。

そして、このシリーズについては、今回は「つくるひと」という本なのですが、これ以外にも「くらしをささえるひと」とか「そだてる・とるひと」とか、いくつかシリーズがあるようです。今回、これしか見ていないのですが、そういったものも教科用図書で使えるようになったら有効なのではないか

と思いながら、見させていただきました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、そして、5番の「野菜の上手な育て方大辞典」、さらに、生活・地図・社会の2番「名人はっけん！まちたんけん（1）つくるひと」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは最後に、No. 6 図工・美術からNo. 10 道徳の教科領域で申請が上がっている14冊の図書についてのご意見を伺いたいと思います。先ほどの教科領域で申請されている図書も含まれておりますが、加えてご意見などがありましたら、おっしゃっていただければと思います。よろしく願いいたします。では、ご意見をお願いします。

柴山委員 私は、No. 6 の図工・美術とNo. 10 の道徳でそれぞれお話しさせていただきます。

No. 6 の図工・美術の4番、小学館、「小学館の図工NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」なんですけど、本当にとってもリアルな乗り物の紙工作で、乗り物が大好きな子どもたちにとっては、本当にわくわくしながら作り上げられるものだなと感じました。ただ、とても精巧なんですけれども、はさみを使わずに切り取り線を切り取って、形を抜くようになっていますが、用紙がぎっちりそこに集まっているので、切るときに、集中して切らないと破れたりとかしてしまうんじゃないかなと感じました。ただ、図工が好きな子でも、この作品を1つ作る

うと思うと達成感というか、作ったときの達成感はすごくうれしいと感じるものだなと思いました。

あと、No. 10の道徳で、6番の三省堂、「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」なんですけど、いろいろな場面で活用できるマナーについて、いろいろイラストで描いてあるんですけど、この場面にならなきゃ体験できないというものがたくさん入っていて、親子で見るのが一番いいなと感じました。イラストを視覚からもイメージしながら、こういう場면을きっかけにしながら学べるというのか、道徳なので、どう言葉を使ったらいいかとかを考えながら、話しながら、できる教材だなと感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。図工・美術の4番「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」についてと道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

金田委員

私は、No. 10道徳の5番「子どものマナー図鑑（2）食事のマナー」についてお話しさせていただきます。

すごく日常なんだけれども、細かいマナーが載っていて、私もはっとさせられる場面がたくさんあって、これは子どもが自分の毎日の生活にとっても目を向けて、じっくり取り組むためにもとてもいいものではないかなというふうに感じました。また、お店によっても違うんだよということが記載されているところ、そのお店もすごく身近なお店だけれども、やっぱり違うんだよねというところが書かれているのがすごく興味深かったです。これを子どもが学校で学んだら、「お母さん、それ違うよ」とか、家の中でも、そういうやり取りが増えて、楽しくなりそうだなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。道徳の5番「子どものマナー図鑑（2）食事のマナー」についてご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

村田委員 私は、No. 6 図工・美術のほうにちょっと戻っていくんですけども、そこから2番の学研、「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」、3番、くもん出版、「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」、4番、小学館、「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」について意見を述べます。

まず、2番の学研、「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」、これは手先を目的に合わせて器用に動かしたり、道具を使いこなしたりする力を楽しみながら身につけられると思います。1枚ずつ出来上がりが楽しみになるような仕掛けがあって、子どもたちが興味をもって、はさみで切る、のりで貼る、指で折るなどの作業を学べると思います。

それから次に、3番、くもん出版の「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」、これは今のものと同様に、楽しく工作しながら、手や指の機能を高められます。こちらのほうは絵にストーリー性があって、好きなものを選んだり、続きを想像したりしながら、工作に取り組む楽しさがあります。

最後に、4番、小学館、「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」は、今、柴山委員もおっしゃっていたんですけども、道具を使わずに作れるようになっています。立体を仕上げるのに、細かい手先の動きの調整が必要なので、難しいんですけども、逆に集中力とか巧緻性といったものを養うことができると思います。出来上がりがリアルなので、達成感を得ることができ、また、次の作品を作ってみようという意欲につながるものだと思います。

以上です。

委員長

ありがとうございました。図工・美術の2番「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」と3番の「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」と4番の「小学館の図鑑NEOクラフト新りったい乗りもの館」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

堀部委員

私のほうからは、3冊の図書についてお話しさせていただきます。

まず、No. 6 図工・美術の5番、メイツの「小学生のための『世界の名画』がわかる本」について意見を述べます。

海外、日本の名画と親しまれているものを数多く掲載されておられます。教科書では、絵画と画家名しかありませんが、こちらには、エピソードや画家の一生等、説明がしっかりあるため、より深くそれぞれの画家について学ぶことができます。「こんな絵だよ！」では、その制作時の状況や構図、サイズ等、様々な情報を得られることから、新たな物の見方が感じられる機会になると思います。また、絵画ごとの表現方法の違いに気づき、人と違う個性のよさ、自分の表現に自信をもてることにつながる1冊ではないかと思いました。

次に、No. 10の道徳、5番、偕成社の「子どものマナー図鑑(2) 食事のマナー」では、先ほど金田委員からもお話がございましたが、ミルフィーユやソフトクリームの食べ方まで載っておりました。様々な食事の場面でのマナーや食べ方が掲載されております。基本のマナー、基本のテーブルマナー等、大変細やかに絵と文で分かりやすく説明されております。和食、中華、洋食店での基本的なマナーについて解説があります。児童にとって大変役立つと感じました。保護者とも共有し、日々、食事をする中で人を不快にしないマナーが身につけられると

もに、相手意識を高め、周りの人を思いやれる心を育めるよう、つくられていると感じました。

次に、No. 10 道徳の8「福音館の科学シリーズただいまお仕事中」では、多くの子どもたちがなりたい仕事について詳しく取り上げられており、どのような仕事内容があるのか、絵と文で分かりやすく紹介されています。また、「どうしたらなれますか？」で意欲を高め、「どんな子が向いていますか？」では、自分自身を冷静に捉えさせ、なりたいと漠然に思っていた場合には考えさせることができる機会となり、ほかにも多くの仕事があり、皆が支え合っていることに気づいたり、将来の仕事について、さらに考えたりすることができるので、大変ふさわしいと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。図工・美術の5番「小学生のための『世界の名画』がわかる本」について、そして、道徳の5番「子どものマナー図鑑(2)食事のマナー」、そして、8番の「福音館の科学シリーズただいまお仕事中」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

原委員

私からは、それぞれに1冊ずつお話をさせていただきます。

まず初めに、No. 6 図工・美術の1番の「ちょこっとできるびっくり！工作(3)せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話をさせていただきます。

家庭にある洗濯ばさみを使って様々な作品を作り出す発想に魅力を感じました。工作が好きな児童はもちろん、触れる、つかむ、飛ばす、大きさの違いを感じるなど、児童の特性に合った楽しみ方ができ、考える力が養われるのではないかと思います。単純にくっつけて積み上げていくだけでも、「どんな形に出来上がるかな」と、イメージが膨らんだり、作り上げていく

楽しさを味わうことができる教材になっていると思います。また、自分のペースで進めていくことで集中力を高められ、学ぶ意欲につながるのではないかと感じました。

続きまして、No. 10 道徳、6 番の「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をさせていただきます。

この絵じてんでは、家での生活、学校や公共の場、社会生活の場面など、児童の生活に必要なマナーや生活習慣を分かりやすくイラストで紹介されています。思いやりや助け合いの大切さを学ぶことで自立の心を芽生えさせ、将来に向けた職業自立を目指す上で、きちんとしたマナーを身につけるための有効な教材だと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」と道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

深津委員

私からは、道徳の中の5冊の本についてお話しさせていただきます。

まず、1番、2番、3番、4番の旺文社の「学校では教えてくれない大切なこと（8）時間の使い方」、「学校では教えてくれない大切なこと（11）友だち関係（考え方のちがい）」、「学校では教えてくれない大切なこと（18）からだと心」、「学校では教えてくれない大切なこと（19）楽しくお手伝い」について、まとめてお話しさせていただきます。

この4冊は、自分のことや相手のことを知る大切さと世の中の様々な仕組みが漫画で楽しく描かれていて、何度でも読みたくなる内容になっています。漫画なので具体的な場面が想像しやすく、身近なこととして捉えやすいと感じました。また、

さらに押さえておきたいことが絵で分かりやすくまとめてあるので、望ましい行動について理解しやすいと思います。それから、分かりにくいことが視覚化されているので、子どもたちにとっては認識しやすいなと思いました。

それから、7番のひさかたの「でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」について意見を述べさせていただきます。この本は、後ろからも前から読めるという構成が面白いと思いました。また、各ページにトンネルの入り口、出口が切り取ってあって、子どもが興味をもって繰り返し見たくなるつくりになっています。トンネルを抜けると景色が変わっているので、飽きません。また、トンネルに入るたびに電車の中にいる人たちの様子が変わっているので、それぞれの人物の状況や気持ちについて関心をもって考えることができると思いました。この図書は、すでに国語・書写、生活・地図・社会の教科領域で採択されていますが、道徳の教科用図書として使用することもふさわしいと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。道徳の1番から4番の「学校では教えてくれない大切なこと」のシリーズの4冊、「(8) 時間の使い方」、「(11) 友だち関係(考え方のちがい)」、「(18) からだと心」、「(19) 楽しくお手伝い」についての4冊、そして、道徳の7番の「でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

松川委員

No. 6 図工・美術の1番、偕成社の「ちょこっとできるびっくり！ 工作(3) せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話しさせていただきます。

先ほど原委員もおっしゃっていましたが、身近にある

洗濯ばさみで、はさむ力、バネの力を利用して、びっくりするような楽しい遊びができるおもちゃの作り方が紹介されています。素材の力を生かして、科学のセンスもあり、子どもたちが興味関心をもって学習ができると思いました。身近にある材料を手にして、並べたり、つないだりすることを通して、手を働かせて、いろいろなものを作ることができることに気づくことができると思いました。また、その活動を通して、見たり、感じたりする喜びを味わったり、感性を育んだり、楽しく豊かな生活をつくろうとする活動につながると感じました。

委員長 ありがとうございます。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

一瀬委員 私は、道徳の6番、三省堂の「こどものマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をさせていただきます。

先ほどから、柴山委員や原委員のほうからもお話がありましたが、私もこの本はとてもいいなというふうに思いました。子どもの毎日の生活にとっても寄り添った内容が記載されておりまして、一つ一つ、とても丁寧に、それぞれの場面に応じてだったり、相手に応じてだったり、それから、言葉遣いや態度をそれぞれ詳しくマナーやたくさんイラストとともに示されているので、子どもにとって、とても分かりやすいなというふうに、イメージできるなというふうに思いました。

例えば、ファストフード店ではどうするかとか、回転ずし店ではどうするかなど、今の子どもたちの生活にとっても合った例もたくさんあり、また新たな体験、初めて回転ずしに行ってみようみたいな、そういう初めての体験のときにも、事前学習として活用しやすい、そんなふうに思いました。また、「おうちの

かたへ」というコーナーがあるんですけれども、大人向けの解説もしっかり書いてあって、学校で指導の際にも、ポイントを押さえながら、子どもたちに伝えること、学ばせることができるなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

澤野委員 先ほど原委員、それから松川委員からお話がありましたが、私も図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話をさせていただきます。

洗濯ばさみは、色も形もバラエティーに富んでおり、手軽に購入できる子どもにも馴染みのあるものです。また、親指、人差し指、中指の3本の指を使って操作する洗濯ばさみは、上手に指先を使う力を高めるための教材としても優れているなというふうに思います。この洗濯ばさみという身近な材料を使って、造形的な見方・考え方を働かせ、形や色などと豊かに関わることができるというふうに考えました。

ページ全体が優しい色合いで、作品そのものや、その作品で子どもが遊ぶ様子を撮った写真が各ページに大きく掲載されています。自分も作ってみたいなという子どもの意欲につながるというふうに思いました。また、作り方がイラストで示されていますが、色遣いが控えられており、焦げ茶色の実線のみで描かれているため、ページ全体がすっきりとしています。洗濯ばさみ同士をつなげて作る恐竜は、子どもが自由にどんどん形づくっていくことが想定されます。さらに、自分なりのつなげ方で思いもよらない形が生まれ、「こんな作品ができたよ」と人に

見せることで、楽しみながら鑑賞することにつながるのではないかなというふうに思いました。

続けて、もう1冊、よろしいでしょうか。先ほどから何人かの委員さんからご意見が出ていますが、私もNo. 10 道徳の6番、三省堂の「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をしたいと思います。

子どもの頃に多くの人と触れ合って、思いやりや助け合いの大切さを学ぶことは、生きていく上で大きな財産になります。毎日を気持ちよく過ごすためのマナーや言葉遣いを身につけることは、周りの人とのよい人間関係を築くことにつながるというふうに考えます。

この図書は、皆さん、おっしゃっていましたが、子どもの生活に寄り添った場面を設定し、イラストや解説を基に、子どもが自分事として捉え、道徳性が高められるような構成になっています。基本的な挨拶や姿勢、学校での過ごしなど、明日から取り組める内容から、親戚の家に行くとき、デパートやショッピングセンターでのマナー、レストランや旅館、ホテル、電車に乗るときなど、公共の場面でのマナーについてなど、多岐にわたった場面設定がされています。

ページ数や分量はやや多いというふうに感じましたが、一人ひとりの課題や身につけてもらいたい態度やマナーに応じて題材を選ぶことができるので、多くの場面が設定されているのはよいと思います。また、「友だちになるには」、「いっしょに遊ぶとき」、「物を貸したり借りたりするとき」、「友達とうまくいかないときは」など、具体的な場面を設定して、友達とよりよい人間関係を築くためにはどうすればよいのか。子どもが主体的に考え、議論する道徳につながる題材も取り扱っていますので、道徳の教科用図書としてふさわしいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」、そして、道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにいかがでしょうか。ご意見ございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。それでは、ほかにご意見がないようでするので、議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議はここまでとしたいと思います。

 ここで10分間ほど休憩としたいと思います。

委員長 それでは、審議を再開いたします。

 次第をご覧ください。議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

 前回、つまり令和元年度に行われた小学校の採択替えの答申については、各議題の審議結果をまとめた審議のまとめを作成し、会議録を添付資料としておりました。今回の答申をどのような形にするか、ご意見をお願いします。

川島委員 以前頂いている前回の答申の結果を読ませていただきました。これはちょっと分厚いなとは思いつつも、すごく分かりやすいなと思いました。ですので、前回と同じように、今回の審議をまとめたものを答申という形にするのがいいかと思います。いかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。ほかにはご意見はございますでしょうか。

一瀬委員　私も今の川島委員のご意見に賛成します。答申としてお示しするには、やはり審議の結果が分かりやすいということが一番大切かなというふうに考えます。審議の結果を前回、令和元年度のように、委員の皆様のご意見を総括的にまとめたものを答申として、さらに参考として会議録をつける、そんな形であるのいいのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

委員長　それでは、今、答申については、審議の内容をまとめたものを作成し、会議録については参考に添付するというご意見を2人の委員からいただきましたが、その方向でよろしいでしょうか。

各委員　結構です。

委員長　それでは、答申については、2回目の小学校用教科用図書の審議、並びに3回目の特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用の教科用図書についての審議を審議の結果としてまとめ、答申するとともに、資料として会議録を添付することといたします。

改めて、議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」2点確認をします。

まず、1点目の第2回審議委員会における議題「令和6年度使用小学校教科用図書の審議について」は、審議してきた結果を種目ごとにまとめた資料を私のほうで作成し、それをもって答申とすること、また、審議の会議録を資料として添付し、答申するということがいかがでしょうか。

各委員　結構です。

委員長 2点目として、本日の議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」は、子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択している一般図書は引き続き使用できること、今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規の図書や複数種目で希望がある一般図書はいずれも適切であることと考える旨を答申したいと考えますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

なお、会議録につきましては添付資料とし、私と署名委員の繁里委員が確認した後、答申するようになりたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ほかにご意見はありますか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。それでは、議題2についての審議を終了いたします。

これで予定されていた議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何かご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 ご審議ありがとうございました。それでは、今後の予定について説明いたします。

事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、審議委員長にご確認いただきます。審議委員長におかれましては、ただいまの審議の結果を踏まえて答申を作成いただき、会議録を資料として添付し、委員長と繁里署名委員に確認をしていただきます。その後、審議委員長から教育長へと答申を行うという流れでお願いいたします。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、これもちまして全ての審議を終了いたしましたので、第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員